

## 明 細 書

記録媒体、再生装置、プログラム

技術分野

[0001] 本発明は、飛込再生技術の技術分野に属する発明である。

背景技術

[0002] 飛込再生とは、可変符号長符号化方式で符号化されたデジタルストリームの途中から再生を開始する技術である。ここで再生の対象が、MPEG2-Video、MPEG4-AVCで圧縮符号化されたビデオストリームである場合、飛込再生を実行するには、飛び込み位置にあたるピクチャが参照している全てのピクチャをデコーダ内に準備せねばならない。参照ピクチャをデコーダ内に準備するための読出範囲は、ビデオストリームにおけるGOP構造によって変わる。MPEG2-VideoのGOP構造には、Closed-GOP、Open-GOPといった種別がある。Closed-GOPは、ピクチャ間の依存関係が1つのGOP内で完結しているため、飛び込み位置を含むGOPを読み出し、デコーダに供給すれば、飛び込み位置における参照ピクチャを全てデコーダ内に準備することができる。

[0003] 一方Open-GOPは、MPEG2-Videoの例で考えると、ピクチャ間の依存関係が、1つのGOP内で完結せず、その前のGOPにまで及ぶ。そのため飛込再生を開始するには、飛び込み位置を含むGOPの1つ前のGOPを記録媒体から読み出し、デコーダに供給する必要がある。このようにGOP構造がOpen-GOPであれば、1つ前のGOPまで読出範囲を広げるという手当が必要になる。

[0004] 飛び込み再生時では、GOPの先頭に存在するI(Intra)ピクチャを探索する必要がある。Iピクチャの探索を支援するような、データ構造については下記の特許文献に記載された先行技術がある。

特許文献1：特開2000-228656号公報

発明の開示

発明が解決しようとする課題

[0005] ところでMPEG2-VideoのOpen-GOPでは、依存関係がせいぜい1つの前のGOPに

及ぶ程度であったが、MPEG4-AVCのOpen-GOPでは、数十フレーム前のピクチャにまで、依存関係が及ぶことがある。何故なら、MPEG4-AVCのデコーダモデルには、短時間参照ピクチャ、長時間参照ピクチャという2種類の参照ピクチャが規定されており、長時間参照ピクチャでは、数十フレーム前のピクチャの参照が許容されるからである。数十フレーム前まで依存関係が及びうるので、1つのGOPまで読出範囲を広げる程度では、デコードに必要な参照ピクチャを、デコーダ内に準備することができない。

- [0006] そうすると再生装置は、ワーストケースを想定して、読込範囲を拡大せざるを得ない。ここでワーストケースとは、ビデオストリーム先頭にまで依存関係が及んでいることであり、この場合、読出範囲は、ビデオストリーム先頭まで拡大せねばならない。ここで2時間長のビデオストリームにおいて、1時間経過後の再生位置から飛込再生を実行する場合、ストリーム先頭にまで、読出範囲を拡大したのでは、1時間分のピクチャの復号を行う必要があり、参照ピクチャの準備に非常に時間がかかる。
- [0007] 飛込再生に多大な時間を要するため、記録媒体による映画作品の頒布という用途には、MPEG4-AVCは不向きであるといわれている。そしてストリーム配信という再生形態での利用、つまり、ビデオストリームを必ず先頭から再生するという再生形態が、MPEG4-AVCの本望であるとの声があがっている。しかしMPEG4-AVCによる符号化は、高画質かつ高圧縮率という恩恵をもたらすので、飛込再生に多大な時間がかかるというデメリットがあったとしても、記録媒体への応用という用途を閉ざしてしまうのは非常に惜しいと嘆く声がある。
- [0008] 本発明の目的は、依存関係が遠くのピクチャにまで及ぶようなOpen-GOP構造において、飛込再生の効率化を図ることができる記録媒体を提供することである。

#### 課題を解決するための手段

- [0009] 上記目的を達成するため、本発明に係る記録媒体は、ビデオストリームと、エンタリーマップとが記録されており、エンタリーマップは、ビデオストリーム内における複数のエンタリー位置を、エンタリー時刻と、フラグとに対応づけて示し、前記フラグは、各エンタリー位置に存在するピクチャが、デコーディングのリフレッシュ動作を意図しているイントラピクチャであるか否かを示すことを特徴としている。

## 発明の効果

- [0010] 本発明に係る記録媒体におけるフラグは、各エントリー位置に存在するピクチャに対応づけられており、各ピクチャが、デコーディングのリフレッシュ動作を意図しているイントラピクチャであるか否かを示している。エントリー位置に対応づけられているフラグを参照することにより、再生装置は、どのイントラピクチャが、リフレッシュを意図したピクチャであるかを知得することができる。Open-GOPにおける依存関係が、遠くのピクチャにまで及んだとしても、長時間の依存関係は、リフレッシュを意図したピクチャを越えることはないので、飛込再生時において、リフレッシュを意図したピクチャまでの読出範囲を広げれば、飛込再生時のデコードに必要な全ての参照ピクチャをデコーダ内に準備することができる。
- [0011] ここで2時間長のビデオストリームにおいて、1時間経過後の再生位置から飛込再生を実行する場合、その飛込位置の15分前にリフレッシュを意図したピクチャがあれば、その15分前のリフレッシュを意図したピクチャまで読出範囲を拡大することにより、飛込再生のデコードに必要な参照ピクチャを、デコーダ内に準備することができる。読出範囲の拡大幅を、1時間から15分まで、短縮化することができるので、飛込位置に必要な参照ピクチャの準備を、早くを行うことができる。これにより、記録媒体を用いた映画作品の頒布という用途に、MPEG4-AVCを利用することができ、MPEG4-AVCの用途を大きく広げることができる。
- [0012] 高い圧縮率を得るため、15分、30分というように、比較的長い時間間隔でIDRピクチャが挿入されている場合において、特殊再生の効率化を実現することができるので、MPEG4-AVCによる圧縮符号化の利点を大きく損なう事はなく、特殊再生の効率化を実現することができる。

## 発明を実施するための最良の形態

### [0013] (第1実施形態)

以降、本発明に係る記録媒体の実施形態について説明する。先ず始めに、本発明に係る記録媒体の実施行為のうち、使用行為についての形態を説明する。図1は、本発明に係る記録媒体の、使用行為についての形態を示す図である。図1において、本発明に係る記録媒体は、BD-ROM100である。このBD-ROM100は、再生装置2

00、リモコン300、テレビ400により形成されるホームシアターシステムに、映画作品を供給するという用途に供される。

- [0014] 以上が本発明に係る記録媒体の使用形態についての説明である。続いて本発明に係る記録媒体の実施行為のうち、生産行為についての形態について説明する。本発明に係る記録媒体は、BD-ROMの応用層に対する改良により実施することができる。図2は、BD-ROMの内部構成を示す図である。

本図の第4段目にBD-ROMを示し、第3段目にBD-ROM上のトラックを示す。本図のトラックは、BD-ROMの内周から外周にかけて螺旋状に形成されているトラックを、横方向に引き伸ばして描画している。このトラックは、リードイン領域と、ボリューム領域と、リードアウト領域とからなる。本図のボリューム領域は、物理層、ファイルシステム層、応用層というレイヤモデルをもつ。ディレクトリ構造を用いてBD-ROMの応用層フォーマット(アプリケーションフォーマット)を表現すると、図中の第1段目のようになる。この第1段目においてBD-ROMには、Rootディレクトリの下に、BDMVディレクトリがある。

- [0015] BDMVディレクトリの配下には、PLAYLISTディレクトリ、CLIPINFディレクトリ、STREAMディレクトリと呼ばれる3つのサブディレクトリが存在する。

STREAMディレクトリには、いわばデジタルストリーム本体となるファイル群を格納しているディレクトリであり、拡張子m2tsが付与されたファイル(00001.m2ts,00002.m2ts,00003.m2ts)が存在する。

- [0016] PLAYLISTディレクトリは、拡張子mplsが付与されたファイル(00001.mpls,00002.mpls,00003.mpls)が存在する。

CLIPINFディレクトリには、拡張子clpiが付与されたファイル(00001.clpi,00002.clpi,00003.clpi)が存在する。

#### <AVClipの構成>

続いて拡張子.m2tsが付与されたファイルについて説明する。図3は、拡張子.m2tsが付与されたファイルがどのように構成されているかを模式的に示す図である。拡張子.m2tsが付与されたファイル(00001.m2ts,00002.m2ts,00003.m2ts……)は、AVClipを格納している。AVClipは(中段)、複数のビデオフレーム(ピクチャpj1,2,3)からなる。



デオストリーム、複数のオーディオフレームからなるオーディオストリームを(上1段目)、PESパケット列に変換し(上2段目)、更にTSパケットに変換し(上3段目)、同じく字幕系のプレゼンテーショングラフィクスストリーム(下1段目のPGストリーム)及び対話系のインタラクティブグラフィクスストリーム(下2段目のIGストリーム)をTSパケットに変換して(下3段目)、これらを多重化することで構成される。

- [0017] 続いて、MPEG2-TS形式のデジタルストリームであるAVClipが、BD-ROMにどのように書き込まれるかを説明する。図4は、AVClipを構成するTSパケットがどのような過程を経てBD-ROMに書き込まれるかを示す図である。本図の第1段目にAVClipを構成するTSパケットを示す。

AVClipを構成するTSパケットは、第2段目に示すようにTS\_extra\_header(図中の「EX」)が付される。

- [0018] 第3段目、第4段目は、BD-ROMの物理単位と、TSパケットとの対応関係を示す。第4段目に示すように、BD-ROM上には複数セクタが形成されている。extra\_header付きTSパケット(以下EX付きTSパケットと略す)は、32個毎にグループ化されて、3つのセクタに書き込まれる。32個のEX付きTSパケットからなるグループは、6144バイト( $=32 \times 192$ )であり、これは3個のセクタサイズ6144バイト( $=2048 \times 3$ )と一致する。3個のセクタに収められた32個のEX付きTSパケットを“Aligned Unit”といい、BD-ROMへの書き込みにあたっては、Aligned Unit単位で暗号化がなされる。

- [0019] 第5段目においてセクタは、32個単位で誤り訂正符号が付され、ECCブロックを構成する。記録装置はAligned Unitの単位でBD-ROMをアクセスする限り、32個の完結したEX付きTSパケットを得ることができる。以上がBD-ROMに対するAVClipの書き込みのプロセスである。

#### <ビデオストリーム>

続いてMPEG4-AVC形式のビデオストリームについて説明する。MPEG4-AVC形式のビデオストリームは、複数のピクチャからなる。図5(a)は、符号化順序に配置される複数のピクチャを示す。

- [0020] 図中のI,P,Bは、それぞれIピクチャ、Bピクチャ、Pピクチャを意味する。Iピクチャには、IDRピクチャと、Non-IDR Iピクチャとの2種類がある。Non-IDR Iピクチャ、Pピクチャ

、Bピクチャは、他のピクチャとのフレーム相関性に基づき圧縮符号化されている。Bピクチャとは、Bidirectionally predictive(B)形式のスライスデータからなるピクチャをいい、Pピクチャとは、Predictive(P)形式のスライスデータからなるピクチャをいう。Bピクチャには、referenceBピクチャと、nonreferenceBピクチャとがある。

[0021] 図5(a)では、Non-IDR Iピクチャを“I”と記述しており、IDRピクチャを“IDR”と記述している。以降、同様の表記を用いる。

#### <GOP構造>

図5(b)は、図5(a)に示したビデオストリームのGOP構造を示す図である。本図においてIDRピクチャと、このIDRピクチャに続くBピクチャ、Pピクチャは、1つのClosed-GOPを構成する。一方、Non-IDR Iピクチャと、Non-IDR Iピクチャに続くBピクチャ、Pピクチャは、1つのOpen-GOPを構成する。

[0022] 図6(a)は、表示順序及び符号化順序におけるClosed-GOPの内部構成を示す図である。符号化順序においてClosed-GOPは、IDRピクチャが先頭に配置される。表示順序においてIDRピクチャは先頭にならないが、IDRピクチャ以外の他のピクチャ(Bピクチャ、Pピクチャ)は、Closed-GOPより前のGOPに存在するピクチャと依存関係をもつことはできない。図中の×付きの矢印は、前のGOPとの依存関係が存在しないことを象徴的に示している。このようにClosed-GOPは、依存関係を完結させる役割をもつ。

[0023] 図6(b)は、Open-GOPの内部構成を示す図である。図6(b)上段は、表示順序における内部構成を示し、下段は符号化順序における内部構成を示す。符号化順序ではNon-IDR Iピクチャが先頭に存在していることがわかる。符号化順序と、表示順序との違いは、IDRピクチャ、Non-IDR Iピクチャ、Pピクチャの順序が入れ代わっている点である。表示順序では、Non-IDR Iピクチャの前にBピクチャが存在する。Non-IDR Iピクチャ前のBピクチャは、前のGOPと依存関係をもつことになる。一方Non-IDR Iピクチャより後のピクチャは、前のGOPと依存関係をもつことができない。このようにOpen-GOPは、前のピクチャとの間に依存関係を持つことができる。以上がMPEG4-AVCにおけるGOP構造である。

- [0024] 続いてIDRピクチャ及びNon-IDRピクチャの内部構成について説明する。図7(a)は、IDRピクチャの内部構成を示す図である。本図に示すようにIDRピクチャは、複数のIntra形式のスライスデータからなる。図7(b)は、Non-IDRピクチャの内部構成を示す。IDRピクチャがIntra形式のスライスデータのみから構成されているのに対し、Non-IDRピクチャはIntra形式のスライスデータ、P形式のスライスデータ、B形式のスライスデータから構成されている。図7(c)は、Non-IDRピクチャにおける依存関係を示す。Non-IDRピクチャは、B,Pスライスデータから構成されるので、他のピクチャとの依存関係をもちうる。
- [0025] 図8は、Non-IDRピクチャがもちうる依存関係を示す図である。第1段目は、表示順序に配置されたピクチャ列を示し、第2段目は、符号化順序に配置されたピクチャ列を示す。図中の矢印は、Non-IDRピクチャがもちうる依存関係を模式的に示す。たとえ長時間参照ピクチャが存在するとはいえ、IDRピクチャを越えるような依存関係が存在しえない。何故ならIDRピクチャは、デコーダのリフレッシュ動作をデコーダに命じるため、それまでデコーダ内に得られた参照ピクチャは、このリフレッシュを意図したピクチャ動作により全て消去されてしまうからである。従ってNon-IDRピクチャにおける依存関係は、IDRピクチャまでで完結することになる。

#### <IDRピクチャ>

IDRピクチャをビデオストリーム中に挿入することの技術的意義について説明する。Closed-GOPを規定するIDRピクチャは、1GOP毎というように、決まった単位で出現するものではない。1つのビデオストリームにおいてどの部分に、何個IDRピクチャを置くかはビデオストリームのエンコード条件によって変わる。よってエンコード条件によっては、IDRピクチャが殆ど置かれないこともあるし、IDRピクチャが多く置かれることもある。ここでIDRピクチャは、自身の圧縮符号化に、短時間参照ピクチャ、長時間参照ピクチャを利用することができないので、ビデオストリームに挿入されるIDRピクチャの数が多ければ多いほど、ビデオストリームの圧縮率は伸び悩む。つまりIDRピクチャの挿入数が多いと、その圧縮率の利点が損なわれてしまう。しかしビデオストリームの途中にこのIDRピクチャが、少なくとも1つ挿入されていることは、ストリームの途中からの特殊再生をおおいに効率化する。

[0026] 例えば特殊再生を行うにあたって、Pピクチャをデコードする場合、そのPピクチャを復号するには、どのピクチャまで遡って復号すれば良いのかがわからない。何故なら、特殊再生で表示したいPピクチャは、それより前に符号化されているBピクチャを参照していることもあり、そのBピクチャも、それより前に符号化されているBピクチャとPピクチャとを参照していることがある。従って、どこまで戻って復号すれば表示したいPピクチャが復号できるのか全く保証がないのである。しかしビデオストリームの要所にIDRピクチャが挿入されていれば、ピクチャ間の依存関係は、IDRピクチャ前後で断ち切られることが明らかなので、特殊再生においてIDRピクチャまで遡って復号してゆくことにより、Pピクチャの再生に必要なピクチャの取得が可能になる。特殊再生におけるPピクチャのデコードが容易になるので、Iピクチャ及びPピクチャを順次デコードしてゆくことによる、ビデオストリームの倍速再生は容易に実現することができる。

[0027] 1つのビデオストリームに、IDRピクチャを何個、どこに挿入しておくかは、エンコード条件により決定されるので、この決定にあたっては、上述したような特殊再生の効率化と、圧縮率との双方を参酌することが重要になる。本実施形態では、15分置き、30分置きというように、比較的長い時間間隔でIDRピクチャが挿入されているとの仮定で説明を進める。

#### <BD-ROMへの記録>

続いてIDRピクチャ、Non-IDRピクチャが、どのようにしてTSパケットに変換され、BD-ROMに記録されるかについて説明する。図9は、IDRピクチャ、Non-IDRピクチャがTSパケットに変換される過程を示す図である。図中の第1段目は、IDRピクチャ、Non-IDRピクチャを示す。第2段目は、MPEG4-AVCに規定されたAccess Unitを示す。IDRピクチャ、Non-IDRピクチャを構成する複数のスライスデータは、シーケンシャルに配置され、AUD(Access Unit Delimiter),SPS(Sequence Parameter Set),PPS(Picture Parameter Set),SEI(Supplemental Enhanced info)が付加されることにより、Access Unitに変換されることになる。

[0028] AUD,SPS,PPS,SEI、Access Unitのそれぞれは、MPEG4-AVCに規定された情報であり、ITU-T Recommendation H.264等の様々な文献に記載されているので、詳細については、これらの文献を参照されたい。ここで重要であるのは、AUD,SPS,PPS,SEI

が再生装置に供給されることがランダムアクセスの必須条件になるという点である。

第3段目はNAL unitを示す。第2段目におけるAUD,SPS,PPS,SEIに対し、ヘッダを付加することにより、AUD,SPS,PPS,SEI、スライスデータは、それぞれNAL unitに変換されることになる。NAL unitとは、MPEG4-AVCのネットワーク抽象レイヤ(Network Abstraction Layer)において、規定された単位であり、ITU-T Recommendation H.264等の様々な文献に記載されているので、詳細についてはこれらの文献を参照されたい。ここで重要であるのは、AUD,SPS,PPS,SEI,スライスデータは、それぞれ独立したNALunitに変換されているので、AUD,SPS,PPS,SEI,スライスデータのそれぞれは、ネットワーク抽象レイヤにおいて、それぞれ独立に取り扱われるという点である。

[0029] 1つのピクチャを変換することで得られた複数のNAL unitは、第4段目に示すようにPESパケットに変換される。そしてTSパケットに変換されてBD-ROM上に記録される。

1つのGOPを再生するには、そのGOPの先頭に位置するIDRピクチャ、Non-IDR IPickチャを構成するNAL unitのうち、Access Unit Delimiterを含むものをデコーダに投入せねばならない。つまりAccess Unit Delimiterを含むNAL unitが、IDRピクチャ、Non-IDR IPickチャをデコードするための1つの指標になる。このAccess Unit Delimiterを含むNAL unitを、本実施形態では点(Point)として扱う。そして再生装置は、ビデオストリームを再生するにあたって、Access Unit Delimiterを含むNAL unitを、Iピクチャを再生するためのエントリー位置として解釈する。従って、AVClipにおいて、飛込再生を実行するには、IDRピクチャ、Non-IDR IPickチャのAccess Unit Delimiterが何処に存在するかを、把握することが非常に重要になる。以上がMPEG4-AVC形式のビデオストリームの構成である。

#### <Clip情報>

続いて拡張子.clpiが付与されたファイルについて説明する。拡張子.clpiが付与されたファイル(00001.clpi,00002.clpi,00003.clpi……)は、Clip情報を格納している。Clip情報は、個々のAVClipについての管理情報である。図10は、Clip情報の内部構成を示す図である。本図の左側に示すようにClip情報は、  
i)AVClipファイルの属性情報を格納した『ClipInfo()』、

- ii) ATC Sequence, STC Sequenceに関する情報を格納した『Sequence Info0』
- iii) Program Sequenceに関する情報を格納した『Program Info0』
- iv) 『Characteristic Point Info(CPI0)』からなる。

図中の引き出し線culは、i番目のProgram Sequence(Program Sequence(i))の構成をクローズアップしている。本引き出し線に示すように、Program Sequence(i)に対するProgram Infoは、Stream\_PIDと、Stream\_Coding\_Infoとの組みをNs(i)個配列してなる(図中のStream\_PID[i](0)、Stream\_Coding\_Info(i,0)～Stream\_PID[i](Ns(i)-1)、Stream\_Coding\_Info(i,Ns(i)-1))。

[0030] Stream\_PIDは、AVClipを構成する個々のエレメンタリストリームについてのパケット識別子を示し、Stream\_Coding\_Infoは、AVClipを構成する個々のエレメンタリストリームについての符号化方式を示す。

図11(a)は、ビデオストリームについてのStream\_Coding\_Infoを示し、図11(b)は、オーディオストリームについてのStream\_Coding\_Infoを示す。ビデオストリームのStream\_Coding\_Infoは、ビデオストリームの符号化方式が、MPEG4-AVC、MPEG2-Videoの何れであるかを示す『Stream\_Coding\_type』と、ビデオストリームの表示方式が480i,576i,480p,1080i,720p,1080pの何れであるかを示す『Video\_format』、ビデオストリームのフレームレートが23.976Hz,29.97Hz,59.94Hzの何れであるかを示す『frame\_rate』、ビデオストリームにおけるピクチャのアスペクト比が4:3,16:9の何れであるかを示す『aspect\_ratio』を含む。

[0031] 図11(b)は、オーディオストリームについてのStream\_Coding\_Infoを示す。本図に示すようにオーディオストリームについてのStream\_Coding\_Infoは、オーディオストリームの符号化方式がLPCM,Dolby-AC3,Dtsの何れであるかを示す『Stream\_Coding\_Type』と、オーディオストリームの出力形式がステレオ、モノラル、マルチの何れであるかを示す『audio\_Presentation\_type』、オーディオストリームのサンプリング周波数を示す『Sampling\_Frequency』、オーディオストリームに対応する言語を示す『audio\_language』からなる。

[0032] このStream\_Coding\_Infoを参照することにより、AVClipにおける複数のエレメンタリストリームのうち、どれがMPEG4-AVC形式であるかを知得することができる。

<CPI(EP\_map)>

図10に戻って、CPIの説明を行う。図中の引き出し線cu2は、CPIの構成をクローズアップしている。引き出し線cu2に示すように、CPIはEP\_mapからなる。EP\_mapは、Ne個のEP\_map\_for\_one\_stream\_PID(EP\_map\_for\_one\_stream\_PID(0)～EP\_map\_for\_one\_stream\_PID(Ne-1))からなる。これらEP\_map\_for\_one\_stream\_PIDは、AVClipに属する個々のエレメンタリストリームについてのEP\_mapである。EP\_mapは、1つのエレメンタリストリーム上において、IピクチャのAccess Unit Delimiterが存在するエントリー位置の packets 番号(SPN\_EP\_start)を、エントリー時刻(PTS\_EP\_start)と対応づけて示す情報である。図中の引き出し線cu3は、EP\_map\_for\_one\_stream\_PIDの内部構成をクローズアップしている。

- [0033] これによると、EP\_map\_for\_one\_stream\_PIDは、Nc個のEP\_High(EP\_High(0)～EP\_High(Nc-1))と、Nf個のEP\_Low(EP\_Low(0)～EP\_Low(Nf-1))とからなることがわかる。ここでEP\_Highは、IピクチャのSPN\_EP\_start及びPTS\_EP\_startの上位ビットを表す役割をもち、EP\_Lowは、IピクチャのSPN\_EP\_start及びPTS\_EP\_startの下位ビットを示す役割をもつ。

図中の引き出し線cu4は、EP\_Highの内部構成をクローズアップしている。この引き出し線に示すように、EP\_High(i)は、EP\_Lowに対する参照値である『ref\_to\_EP\_Low\_id[i]』と、IピクチャのPTSの上位ビットを示す『PTS\_EP\_High[i]』と、IピクチャのSPNの上位ビットを示す『SPN\_EP\_High[i]』とからなる。ここでiとは、任意のEP\_Highを識別するための識別子である。

- [0034] 図中の引き出し線cu5は、EP\_Lowの構成をクローズアップしている。引き出し線cu5に示すように、EP\_Lowは、『is\_angle\_change\_point(EP\_Low\_id)』と、対応するIピクチャのサイズを示す『I\_end\_position\_offset(EP\_Low\_id)』と、対応するIピクチャのPTSの下位ビットを示す『PTS\_EP\_Low(EP\_Low\_id)』と、対応するIピクチャのSPNの下位ビットを示す『SPN\_EP\_Low(EP\_Low\_id)』とからなる。ここでEP\_Low\_idとは、任意のEP\_Lowを識別するための識別子である。

- [0035] これらのEP\_mapのデータ構造は、基本的には上述した特許文献等に記載されたものであり、本明細書ではこれ以上詳しく触れない。このうち『is\_angle\_change\_point』と

いうフラグは、本願の特徴にあたるものなので、以降より詳しく説明する。

『is\_angle\_change\_point』は、Entry Pointにて指定されたIピクチャが、他のAVClipからの進入点になるか否かを示すフラグである。図12は、AVClipへの進入、AVClipからの脱出についての概念を示す図である。ここでAVClipの進入点とは、あるAVClipを構成するTSパケットを光ピックアップが読み取っている際、その光ピックアップをシークさせて、別のAVClipを構成するTSパケットの記録位置に光ピックアップを移動させることをいう。図12における矢印er1は、AVClipへの進入時における、光ピックアップの移動を模式的に示す。この進入時において、is\_angle\_change\_point“=1”のEntry Pointで示されるTSパケットは、進入可能な位置として解釈される。

[0036] is\_angle\_change\_point“=1”のEntry Pointにより指示されるTSパケットの直前のTSパケットはAVClipからの脱出点として解釈される。ここでAVClipからの脱出とは、あるAVClipを構成するTSパケット列を読み取っている際、光ピックアップをシークさせて、他のAVClipを構成するTSパケット列まで移動させることである。図12における矢印ex1は、AVClipからの脱出時における、光ピックアップの移動を模式的に示す。

[0037] 他のAVClipからの進入時には、それまでのデコードの過程で得られたピクチャを参照することはできない。従って、is\_angle\_change\_point“=1”のEntry Pointで指示されるIピクチャは、IDRピクチャでなければならない。is\_angle\_change\_pointは、“=1”に設定されることにより、対応するIピクチャがIDRピクチャであることを意味し、“=0”に設定されることにより、対応するIピクチャがNon-IDR Iピクチャであることを意味する。本図に示した操作、つまり、現在再生中のAVClipからの「脱出」と、別のAVClipへの「進入」とからなる操作を、アングル切り換え“angle\_change”という。is\_angle\_change\_pointは、この“angle\_change”が可能であることから命名されている。但し、アングル切り換えの実現には、is\_angle\_change\_point“=1”に設定されたEP\_mapだけではなく、AVClipやPlayList情報に対する改良が必要になる。アングル実現のためのAVClip、PlayList情報に対する改良は、第2実施形態において詳しく説明するので本実施形態での説明は省略する。

[0038] また、データ構造上EP\_mapは、EP\_High、EP\_Lowの組みで表現されるが、この表記では、説明が煩雑になるので、特に断らない限り、これらEP\_Highに示されるPTS・SPN



の上位ビット、EP\_Lowに示されるPTS・SPNの下位ビットをまとめて、PTS\_EP\_start、SPN\_EP\_startと表記する。

図5、図8に示したビデオストリームに対し、EP\_mapがどのように設定されるかについて説明する。図13は、図5のビデオストリームに対するEP\_map設定を示す図である。第1段目は、表示順序に配置された複数のピクチャを示し、第2段目は、そのピクチャにおける時間軸を示す。第4段目は、BD-ROM上のTSパケット列を示し、第3段目は、EP\_mapの設定を示す。第2段目における時間軸のt1、t2、t3、t4、t5に、Iピクチャが存在する場合、これらt1～t5が、EP\_mapにおいてPTS\_EP\_startとして設定されることになる。一方、ビデオストリームのAccess Unit DelimiterがBD-ROMにおけるTSパケット列のn1、n2、n3、n4、n5に存在する場合、これらn1～n5が、EP\_mapにおいてSPN\_EP\_startとして設定される。これらt1～t5、n1～n5にあたるEntry Point#1～Entry Point#5のうち、Entry Point#1、Entry Point#3は、IDRピクチャに対応しているので、is\_angle\_change\_pointは“1”に設定される。それ以外のEntry Point#2、Entry Point#4、Entry Point#5におけるis\_angle\_change\_pointは、“0”に設定される。

[0039] 図14は、図13におけるEntry Point#1～Entry Point#5のPTS\_EP\_start、SPN\_EP\_startを、EP\_Low、EP\_Highの組みで表現したものである。本図の左側にEP\_Lowを示し、右側にEP\_Highを示す。

図14左側のEP\_Low(0)～(Nf-1)のうち、EP\_Low(i)～(i+1)のPTS\_EP\_Lowは、t1～t5の下位ビットを示す。EP\_Low(0)～(Nf-1)のうち、EP\_Low(i)～(i+1)のSPN\_EP\_Highは、n1～n5の下位ビットを示す。そしてEP\_Low(i)～(i+1)におけるis\_angle\_change\_point(i)～(i+1)のうち、(i)、(i+2)は、対応するIピクチャがIDRピクチャであるので、is\_angle\_change\_pointは“1”に設定されている。(i+1)、(i+3)、(i+4)は、対応するIピクチャがNon-IDR Iピクチャであるので、is\_angle\_change\_pointは“0”に設定されている。

[0040] 図14右側は、EP\_mapにおけるEP\_High(0)～(Nc-1)を示す。ここでt1～t5は共通の上位ビットをもっており、またn1～n5も共通の上位ビットをもっているとすると、この共通の上位ビットが、PTS\_EP\_High、SPN\_EP\_Highに記述される。そしてEP\_Highに対応するref\_to\_EP\_LOW\_idは、t1～t5、n1～n5にあたるEP\_Lowのうち、先頭のもの(EP\_Low(i))を示すように設定しておく。こうすることにより、PTS\_EP\_start、SPN\_EP\_start

の共通の上位ビットは、EP\_Highにより表現されることになる。

- [0041] かかるEP\_mapの最大の特徴は、飛込再生時の読出範囲の拡大が必要最低限になることである。図15は、飛込再生時における読出範囲の拡大を示す図である。

ここで図中のIn\_timeから、飛込再生を実行する場合を考える。このIn\_timeが飛び込み位置であるとする、再生装置は、この飛び込み位置に最も近いEntry Pointであつて、is\_angle\_change\_pointが“1”に設定されているものを判定する。本図では、時刻t3にあたるEntry Pointが、is\_angle\_change\_point“=1”に設定されているので、このPTS\_EP\_start=t3にあたるEntry Point#3からSPN\_EP\_start=n3を取り出し、AVClipを構成するTSパケットのうち、n3以降を読み出してデコーダに供給する。こうすることによりビデオストリーム先頭にまで読出範囲を拡大することなく、Iピクチャにあたるピクチャのデコードに必要な全ての参照ピクチャをデコーダ内に準備しておくことができる。

- [0042] ビデオストリームの再生時間長が2時間であり、飛込位置であるIn\_timeが、1時間経過後の再生位置である場合、t3がIn\_timeの15分前であれば、その15分前のt3まで読出範囲を拡大することにより、In\_timeにあるピクチャのデコードに必要な参照ピクチャを、デコーダ内に準備することができる。

“1時間経過後”を示すIn\_timeから飛込再生を実行する場合、15分前のt3まで読出範囲を拡大するだけで、飛込再生のデコードに必要な参照ピクチャを、デコーダ内に準備することができるので、読出範囲の必要最低限の拡大により、BD-ROM上のMPEG4-AVC形式のビデオストリームを自由な位置から再生してゆくことができる。これにより、BD-ROMを用いた映画作品の頒布という用途に、MPEG4-AVCを利用することができ、MPEG4-AVCの用途を大きく広げることができる。

- [0043] 上述したようなMPEG4-AVC対応のEP\_mapを、MPEG2-Videoに対応するEP\_mapのデータ構造と比較すると、IピクチャのSPNを、PTSに対応づけて示しているという点において、MPEG4-AVC対応のEP\_mapのデータ構造は、MPEG2-Video対応のEP\_mapと共通している。違いは、MPEG4-AVC対応のEP\_mapに、is\_angle\_change\_pointが存在していて、対応するIピクチャが、IDRピクチャであるか、Non-IDR Iピクチャであるかが、このis\_angle\_change\_pointに示されている点である。MPEG4-AVC対応のEP\_mapは、IDRピクチャ及びNon-IDR IピクチャのSPN-PTSの組みにis\_angle\_change\_point

を付すという形式で表現されていて、MPEG2-Videoに対応したEP\_mapと互換性をもっている。MPEG4-AVC対応のEP\_mapを、MPEG2-Videoと互換性がある形式で表現することができるので、BD-ROMを制作しようとする者は、MPEG2-Videoの符号化方式、MPEG4-AVCの符号化方式のどちらかを採択するにあたって、EP\_mapの形式を意識する必要はない。EP\_mapのデータ構造を意識することなく、MPEG2-Videoの符号化方式、MPEG4-AVCの符号化方式のどちらかを比較的自由に選ぶことができる。そのため、符号化方式の選択の幅が広がるという効果がある。

[0044] 以上が、本実施形態にかかるClip情報についての説明である。続いて拡張子“mpls”が付与されたファイルについて説明する。

<PlayList情報>

拡張子“mpls”が付与されたファイル(00001.mpls,00002.mpls,00003.mpls……)は、PlayList情報を格納したファイルである。PlayList情報は、AVClipを参照してPlayListと呼ばれる再生経路を定義する情報である。図16は、PlayList情報の構成を示す図であり、本図の左側に示すように、PlayList情報は、複数のPlayItem情報からなる。PlayItemとは、1つ以上のAVClip時間軸上において、In\_Time,Out\_Timeを指定することで定義される再生区間である。PlayItem情報を複数配置させることで、複数再生区間からなるPlayList(PL)が定義される。図中の破線hs1は、PlayItem情報の内部構成をクローズアップしている。本図に示すようにPlayItem情報は、対応するClip情報を示す『Clip\_information\_file\_name』と、対応するAVClipの符号化方式を示す『Clip\_codec\_identifier』と、『In\_time』と、『Out\_time』とからなる。図17は、AVClipと、PlayList情報との関係を示す図である。第1段目はAVClipがもつ時間軸を示し、第2段目は、PlayListがもつ時間軸(PL時間軸という)を示す。PlayList情報は、PlayItem#1,#2,#3という3つのPlayItem情報を含んでおり、これらPlayItem#1,#2,#3のIn\_time,Out\_timeにより、3つの再生区間が定義されることになる。これらの再生区間を配列させると、AVClip時間軸とは異なる時間軸が定義されることになる。これが第2段目に示すPL時間軸である。このように、PlayItem情報の定義により、AVClipとは異なる時間軸の定義が可能になる。

[0045] Clip情報におけるEP\_mapは、上述したようにビデオストリームにおけるIピクチャの

SPNを、IDRピクチャの有無と共に、PTSに対応して示している。このEP\_mapにより、任意の時刻からの特殊再生の効率化は保証されているから、PlayList情報は、特殊再生が効率化されていることを前提にして、時間情報をもって表現されている。この時間情報による表現により、BD-ROMにおけるPlayList情報は、書換可能タイプの記録媒体(BD-RE)におけるPlayList情報のデータ構造との互換性をもつことができる。

[0046] 以上が本実施形態に係るPlayList情報の内部構成である。以上で本発明に係る記録媒体についての説明を終わる。続いて本発明に係る再生装置について説明する。

#### <再生装置の内部構成>

図18は、本発明に係る再生装置の内部構成を示す図である。本発明に係る再生装置は、本図に示す内部構成に基づき、工業的に生産される。本発明に係る再生装置は、主としてシステムLSIと、ドライブ装置という2つのパーツからなり、これらのパーツを装置のキャビネット及び基板に実装することで工業的に生産することができる。システムLSIは、再生装置の機能を果たす様々な処理部を集積した集積回路である。こうして生産される再生装置は、BDドライブ1、Arrivaltime Clock Counter2、Source de-packetetizer3、PID Filter4、Transport Buffer5、Multiplexed Buffer6、Coded Picture Buffer7、ビデオデコーダ8、Decoded Picture Buffer10、ビデオプレーン11、Transport Buffer12、Coded Data Buffer13、Stream Graphics Processor14、Object Buffer15、Composition Buffer16、Composition Controller17、Presentation Graphicsプレーン18、CLUT部19、Transport Buffer20、Coded Data Buffer21、Stream Graphics Processor22、Object Buffer23、Composition Buffer24、Composition Controller25、Interactive Graphicsプレーン26、CLUT部27、合成部28、合成部29、スイッチ30、Network Device31、Local Storage32、Arrival Time Clock Counter33、Source De-Packetizer34、PIDフィルタ35、スイッチ36、Transport Buffer37、Elementary Buffer38、オーディオデコーダ39、Transport Buffer40、バッファ41、テキスト字幕デコーダ42、シナリオメモリ43、制御部44、PSRセット46から構成される。本図における内部構成は、MPEGのT-STDモデルをベースとしたデコーダモデルであり、ダウンコンバートを想定した含めたデコーダモデルになっている。

[0047] BD-ROMドライブ1は、BD-ROMのローディング／イジェクトを行い、BD-ROMに対

するアクセスを実行して、32個のセクタからなるAligned UnitをBD-ROMから読み出す。

Arrival time Clock Counter2は、27MHzの水晶発振器(27MHz X-tal)に基づき、Arrival Time Clockを生成する。Arrival Time Clockとは、TSパケットに付与されたATSの基準となる時間軸を規定するクロック信号である。

[0048] Source de-packetizer3は、BD-ROMから32個のセクタからなるAligned Unitが読み出されれば、Aligned Unitを構成するそれぞれのTSパケットから、TP\_extra\_headerを取り外して、TSパケットのみをPIDフィルタ4に出力する。Source De-Packetizer3によるPIDフィルタ4への出力は、Arrival time Clock Counter2が経時している時刻が、TP\_extra\_headerに示されるATSになったタイミングになされる。PIDフィルタ4への出力は、ATSに従いなされるので、たとえBD-ROMからの読み出しに1倍速、2倍速といった速度差があっても、PIDフィルタ4へのTSパケット出力は、Arrival Time Clockが経時する現在時間に従いなされることになる。

[0049] PID Filter4は、TSパケットに付加されているPIDを参照することにより、TSパケットが、ビデオストリーム、PGストリーム、IGストリームの何れに帰属するのかを判定して、Transport Buffer5、Transport Buffer12、Transport Buffer20、Transport Buffer37のどれかに出力する。

Transport Buffer(TB)5は、ビデオストリームに帰属するTSパケットがPIDフィルタ4から出力された際、一旦蓄積されるバッファである。

[0050] Multiplexed Buffer(MB)6は、Transport Buffer5からElementary Buffer7にビデオストリームを出力するにあたって、一旦PESパケットを蓄積しておくためのバッファである。

Coded Picture Buffer(CPB)7は、符号化状態にあるピクチャ(Iピクチャ、Bピクチャ、Pピクチャ)が格納されるバッファである。

[0051] ビデオデコーダ8は、ビデオエレメンタリストリームの個々のフレーム画像を所定の復号時刻(DTS)ごとにデコードすることにより複数フレーム画像を得て、Decoded Picture Buffer10に書き込む。

Decoded Picture Buffer10は、復号されたピクチャが書き込まれるバッファである。

ビデオプレーン11は、非圧縮形式のピクチャを格納しておくためのプレーンである

。プレーンとは、再生装置において一画面分の画素データを格納しておくためのメモリ領域である。ビデオプレーン11における解像度は $1920 \times 1080$ であり、このビデオプレーン11に格納されたピクチャデータは、16ビットのYUV値で表現された画素データにより構成される。

- [0052] Transport Buffer(TB)12は、PGストリームに帰属するTSパケットがPIDフィルタ4から出力された際、一旦蓄積されるバッファである。

Coded Data Buffer(CDB)13は、PGストリームを構成するPESパケットが格納されるバッファである。

Stream Graphics Processor(SGP)14は、グラフィクスデータを格納したPESパケット(ODS)をデコードして、デコードにより得られたインデックスカラーからなる非圧縮状態のビットマップをグラフィクスオブジェクトとしてObject Buffer15に書き込む。

- [0053] Object Buffer15は、Stream Graphics Processor14のデコードにより得られたグラフィクスオブジェクトが配置される。

Composition Buffer16は、グラフィクスデータ描画のための制御情報(PCS)が配置されるメモリである。

Graphics Controller17は、Composition Buffer16に配置されたPCSを解読して、解読結果に基づく制御をする。

- [0054] Presentation Graphicsプレーン18は、一画面分の領域をもったメモリであり、一画面分の非圧縮グラフィクスを格納することができる。本プレーンにおける解像度は $1920 \times 1080$ であり、Presentation Graphicsプレーン18中の非圧縮グラフィクスの各画素は8ビットのインデックスカラーで表現される。CLUT(Color Lookup Table)を用いてかかるインデックスカラーを変換することにより、Presentation Graphicsプレーン18に格納された非圧縮グラフィクスは、表示に供される。

- [0055] CLUT部19は、Presentation Graphicsプレーン18に格納された非圧縮グラフィクスにおけるインデックスカラーを、Y,Cr,Cb値に変換する。

Transport Buffer(TB)20は、IGストリームに帰属するTSパケットが一旦蓄積されるバッファである。

Coded Data Buffer(CDB)21は、IGストリームを構成するPESパケットが格納されるバッファである。

- [0056] Stream Graphics Processor(SGP)22は、グラフィクスデータを格納したPESパケットをデコードして、デコードにより得られたインデックスカラーからなる非圧縮状態のビットマップをグラフィクスオブジェクトとしてObject Buffer23に書き込む。

Object Buffer23は、Stream Graphics Processor22のデコードにより得られたグラフィクスオブジェクトが配置される。

- [0057] Composition Buffer24は、グラフィクスデータ描画のための制御情報が配置されるメモリである。

Graphics Controller25は、Composition Buffer24に配置された制御情報を解読して、解読結果に基づく制御をする。

Interactive Graphicsプレーン26は、Stream Graphics Processor(SGP)22によるデコードで得られた非圧縮グラフィクスが書き込まれる。本プレーンにおける解像度は1920×1080であり、Interactive Graphicsプレーン26中の非圧縮グラフィクスの各画素は8ビットのインデックスカラーで表現される。CLUT(Color Lookup Table)を用いてかかるインデックスカラーを変換することにより、Interactive Graphicsプレーン26に格納された非圧縮グラフィクスは、表示に供される。

- [0058] CLUT部27は、Interactive Graphicsプレーン26に格納された非圧縮グラフィクスにおけるインデックスカラーを、Y,Cr,Cb値に変換する。

合成部28はビデオプレーン11に格納された非圧縮状態のフレーム画像と、Presentation Graphicsプレーン18に格納された非圧縮状態のグラフィクスオブジェクトとを合成させる。かかる合成により、動画像上に、字幕が重ね合わされた合成画像を得ることができる。

- [0059] 合成部29は、Interactive Graphicsプレーン26に格納された非圧縮状態のグラフィクスオブジェクトと、合成部28の出力である合成画像(非圧縮状態のピクチャデータと、Presentation Graphicsプレーン18の非圧縮グラフィクスオブジェクトとを合成したもの)とを合成する。

スイッチ30は、BD-ROMから読み出されたTSパケット、Local Storage32から読み出

されたTSパケットの何れか一方を、選択的にTransport Buffer20に供給する。

- [0060] Network Device31は、再生装置における通信機能を実現するものであり、URLにあたるwebサイトとのTCPコネクション、FTPコネクション等を確立する。

Local Storage32は、様々な記録媒体及び通信媒体から供給されたコンテンツを格納しておくためのハードディスクである。Network Device31により確立されたコネクションを通じてwebサイトからダウンロードされたコンテンツ等も、このLocal Storage32に格納される。

- [0061] Source de-packetizer34は、Local Storage32から読み出されたAVClipのTSパケットから、TP\_extra\_headerを取り外して、TSパケットのみをPIDフィルタ35に出力する。Source de-packetizer34によるPIDフィルタ35への出力は、Arrival Time Clock Counter33が経時している時刻が、TP\_extra\_headerに示されるATSになったタイミングになされる。

- [0062] PIDフィルタ35は、Local Storage32から読み出されたTSパケットを、IGストリームデコーダ側、オーディオデコーダ側、テキスト字幕デコーダ側の何れかに切り換える。
- スイッチ36は、BD-ROMから読み出されたTSパケット、Local Storage32から読み出されたTSパケットのどちらかをオーディオデコーダ39側に許可要求する。

Transport Buffer(TB)37は、オーディオストリームに帰属するTSパケットを蓄積する。

- [0063] Elementary Buffer(EB)38は、オーディオストリームを構成するPESパケットが格納されるバッファである。

オーディオデコーダ39は、Elementary Buffer38から出力されたPESパケットを復号して、非圧縮形式のオーディオデータを出力する。

Transport Buffer(TB)40は、テキスト字幕ストリームに帰属するTSパケットを蓄積する。

- [0064] Elementary Buffer(EB)41は、テキスト字幕ストリームを構成するPESパケットが格納されるバッファである。

テキスト字幕デコーダ42は、バッファ41に読み出されたPESパケットをデコードして、表示に供する。このデコードは、Local Storage32から別途読み出されるフォントを



用いて、テキスト字幕ストリーム中のテキスト文字列を、ビットマップに展開することでなされる。デコードにより得られたテキスト字幕は、Presentation Graphicsプレーン18に書き込まれる。

- [0065] シナリオメモリ43は、カレントのPlayList情報やカレントのClip情報を格納しておくためのメモリである。カレントPlayList情報とは、BD-ROMに記録されている複数PlayList情報のうち、現在処理対象になっているものをいう。カレントClip情報とは、BD-ROMに記録されている複数Clip情報のうち、現在処理対象になっているものをいう。

制御部44は、命令ROMと、CPUとからなり、命令ROMに格納されているソフトウェアを実行して、再生装置全体の制御を実行する。この制御の内容は、ユーザ操作に応じて発生するユーザイベント、及び、PSRセット46における各PSRの設定値に応じて動的に変化する。

- [0066] PSRセット46は、再生装置に内蔵される不揮発性のレジスタであり、64個のPlayer Status Register(PSR(1)～(64))と、4096個のGeneral Purpose Register (GPR)とからなる。64個のPlayer Status Register(PSR)は、それぞれ現在の再生時点等、再生装置における諸状態を示す。64個のPSR(PSR(1)～(64))のうちPSR(5)～PSR(8)は、現在の再生時点を表すものである。このうちPSR(5)は、1～999の値に設定されることで、現在の再生時点が属するチャプター番号を示し、0xFFFFに設定されることで、再生装置においてチャプター番号が無効であることを示す。

- [0067] PSR(6)は、0～999の値に設定されることで、現在の再生時点が属するPlayList(カレントPlayList)の番号を示す。

PSR(7)は、0～255の値に設定されることで、現在の再生時点が属するPlay Item(以下カレントPIという)の番号を示す。

PSR(8)は、0～0xFFFFFFFFの値に設定されることで、45KHzの時間精度を用いて現在の再生時点(カレントPTM)を示す。

- [0068] 以上が再生装置の内部構成である。これらの構成要素のうち、ビデオデコーダ8、Decoded Picture Buffer10は特に重要であるので、図19～図21を参照して、より詳しく説明する。

Decoded Picture Buffer10には、復号化されたピクチャが複数格納される。図19は

、Decoded Picture

Buffer10の内部構成を示す図であり、本図に示すように、Decoded Picture Buffer10には復号化されたピクチャとして、参照ピクチャと、非参照ピクチャとが格納される。参照ピクチャには、短時間参照ピクチャと、長時間参照ピクチャとがある。短時間参照ピクチャは、FIFO領域に格納され、先入先出し式に扱われる。一方、長時間参照ピクチャは、FIFO領域に格納されず、先入先出し式には扱われない。

[0069] 図20は、ビデオデコーダ8によりNon-IDR Iピクチャが復号される過程を示す図である。Non-IDR Iピクチャの復号過程において、Decoded Picture Buffer10に格納される長時間参照ピクチャ、短時間参照ピクチャは参照されることになる。図中の矢印rf1,rf2,rf3は、短時間参照ピクチャに対する参照を、模式的に示し、矢印rf4,rf5,rf6は、長時間参照ピクチャに対する参照を、模式的に示す。図21は、IDRピクチャをデコードする際の、Decoded Picture Buffer10の格納内容を示す。IDRピクチャのデコード時にあたっては、ビデオデコーダ8、Decoded Picture Buffer10に対する瞬時リフレッシュがなされるので、Decoded Picture Buffer10に格納されていた短期間参照ピクチャ、長期間参照ピクチャは全て消去されることになる。以上がCoded Picture Buffer7、ビデオデコーダ8、Decoded Picture Buffer10についての詳細である。続いて制御部44の処理手順について説明する。

[0070] 制御部44は、MPEG4-AVC形式のビデオストリームの再生時において倍速再生や飛込再生を実行するよう、BDドライブ1、ビデオデコーダ8を制御する。

倍速再生は、ビデオストリームを構成する複数ピクチャのうち、Iピクチャ(IDRピクチャ、Non-IDR Iピクチャを含む)を順次再生してゆくことにより、実現することができる。ここでEP\_mapのEntry Pointには、IDRピクチャ及びNon-IDR Iピクチャの位置及びサイズが示されているので、ビデオストリームのうちIピクチャや、Iピクチャのみを読み込んで再生することにより、2倍速、3倍速といった特殊再生を実現することができる。

[0071] 一方飛込再生には、タイムサーチと、PL再生とがある。タイムサーチとは、“何時何分何秒”に再生せよという時間情報をユーザから受け付けて、指示された再生開始時点にあたる位置から、ビデオストリームを再生する技術である。この際制御部44は、時間情報をBD-ROM上のピクチャアドレスに変換するという変換処理を行い、Iピク

チャアドレスを求めてから、そのアドレス以降のTSパケットをBD-ROMから読み出させ、そのTSパケットを順次デコーダに投入する。

- [0072] 一方、PL再生とは、PlayList情報のIn\_timeにあたる位置から、Out\_timeにあたる位置までビデオストリームを再生する技術である。

これらの制御の根幹にあるのは、時間情報からピクチャアドレスを導く処理である。図22は、時間情報をピクチャアドレスに変換する手順を示すフローチャートである。本フローチャートにおいて、飛込再生の飛込位置を示す時間情報をIn\_timeと表記している。図22のステップS1では、In\_timeをPTS\_EP\_startとし、ステップS2では、PTS\_EP\_startに最も近い、EP\_High\_id、EP\_Low\_idの組みを求める。ここでEP\_High\_idとは、In\_time以前の時点を示すEP\_Highであって、In\_timeに最も近いものを特定する識別子である。一方、EP\_Low\_idとは、EP\_High[EP\_High\_id]以降、In\_time以前の時点を示すEP\_Lowであって、In\_timeに最も近いものを特定する識別子である。

- [0073] EP\_High\_idを求めるため、制御部44は、複数EP\_HighのPTS\_EP\_Highに示される時間幅を足し合わせてゆく。ここでPTS\_EP\_Highに示される時間幅とは、PTS\_EP\_Highを上位ビットとする時間の単位である。そして何個目のEP\_High\_idにおいて、時間幅の総和 $\Sigma$ がIn\_timeを越えるかを判定する。ここでk個目のEP\_High\_idにおいて、時間幅の総和 $\Sigma$ がIn\_timeを越えた場合、このkから1を減じた数値(k-1)を、EP\_High\_idとする。

- [0074] EP\_Low\_idを求めるため、制御部44は、PTS\_EP\_High(EP\_High\_id)までの総和 $\Sigma$ に、複数EP\_LowのPTS\_EP\_Lowに示される時間幅を足し合わせてゆく。そして何個目のEP\_Low\_idにおいて、時間幅の総和がIn\_timeを越えるかを判定する。ここでh個目のEP\_Low\_idにおいて、時間幅の総和がIn\_timeを越えた場合、このhから1を減じた数値(h-1)を、EP\_Low\_idとする。

- [0075] このようにして求められたEP\_High\_id及びEP\_Low\_idの組みにより、In\_timeに最も近いEntry Pointが特定されることになる。

こうしてEP\_Low\_idを求めれば、ステップS3～ステップS5からなるループ処理に移行する。EP\_Low\_idを変数jに代入した上で(ステップS3)、ステップS4～ステップS5からなるループ処理を実行するというものである。このループ処理は、ステップS5がYes

と判定されるまで、変数jのデクリメント(ステップS4)を繰り返すものである。このステップS5は、変数jにて特定されるEntry Pointのis\_angle\_change\_point(PTS\_EP\_Low[i].is\_angle\_change\_point)が1であるか否かを判定するものであり、変数jにて特定されるEntry Pointのis\_angle\_change\_pointが連続して“0”を示している限り、このループ処理は繰り返し実行される。

[0076] 変数jにて特定されるEntry Pointのis\_angle\_change\_pointが“1”になれば、このループ処理は終了することになる。ステップS5がYesになれば、変数jをEP\_Low\_idに代入し(ステップS6)、このEP\_Low\_idに最も近いref\_to\_EP\_Low\_id[i]を有するEP\_High[i]を求める(ステップS7)。こうしてEP\_Low\_idと、iとが求められれば、SPN\_EP\_Low[EP\_Low\_id]と、SPN\_EP\_High[i]とからSPN\_EP\_Startを求めて(ステップS8)、このSPN\_EP\_Startを、Iピクチャアドレスに変換する(ステップS9)。

[0077] ここでSPNは、TSパケットのシリアル番号であるので、このSPNに基づきTSパケットを読み出すには、SPNを相対セクタ数に変換する必要がある。ここで図4に示したように、TSパケットは32個毎に1つのAligned Unitに変換され、3つのセクタに記録されるので、SPNを32で割ることにより商を得て、その商を、Iピクチャが存在するAligned Unitの番号として解釈する。こうして得られたAligned Unit番号に3を乗ずることにより、SPNに最も近いAligned Unitのセクタアドレスを求めることができる。こうして得られたセクタアドレスは、1つのAVClipファイルの先頭からの相対セクタ数なので、この相対セクタ数をファイルポインタに設定して、AVClipを読み出すことにより、Iピクチャをビデオデコーダ8に読み出すことができる。

[0078] 以上の手順により、In\_time以前を指し示すEntry Pointであって、IDRピクチャを指示するものを探し出すことができる。こうして多重化されたIDRピクチャ以降を読み出すことにより、In\_timeのデコードに必要な参照ピクチャをデコーダ内に準備することができる。以上が時間情報からIピクチャアドレスを導く処理の手順である。続いて、PlayList情報に基づく再生手順について説明する。

[0079] 図23は、制御部44によるPL再生手順を示すフローチャートである。本フローチャートにおいて処理対象たるPlayItemをPlayItem#xとする。本フローチャートは、カレントPlayList情報(.mpls)の読み込みを行い(ステップS101)、その後、ステップS102～ス

テップS110の処理を実行するというものである。ここでステップS102～ステップS110は、ステップS109がYesになるまで、カレントPlayList情報を構成するそれぞれのPI情報について、ステップS103～ステップS110の処理を繰り返すというループ処理を構成している。このループ処理において処理対象となるPlayItemを、PlayItem#x(PI#x)とよぶ。このPlayItem#xは、カレントPlayListの先頭のPlayItemに設定されることにより、初期化される(ステップS102)。上述したループ処理の終了要件は、このPlayItem#xがカレントPlayListの最後のPlayItemになることであり(ステップS109)、もし最後のPlayItemでなければ、カレントPlayListにおける次のPlayItemがPlayItem#xに設定される(ステップS110)。

- [0080] ループ処理において繰り返し実行されるステップS103～ステップS110は、以下の処理からなる。先ず初めに、PlayItem#xのClip\_information\_file\_nameで指定されるClip情報をメモリに読み込み(ステップS103)、PlayItem#xのIn\_timeを、カレントClip情報のEPmapを用いて、Iピクチャアドレスuに変換する(ステップS104)。この変換は、図22のフローチャートに従ってなされ、IDRピクチャのアドレスが、Iピクチャアドレスuとして算出される。
- [0081] その一方、PlayItem#xのOut\_timeを、カレントClip情報のEP\_mapを用いて、Iピクチャアドレスvに変換する(ステップS105)。Out\_timeの変換には、図22のフローチャートの実行は不要であり、最も近い位置にあるIピクチャのアドレスをアドレスvとして算出すればよい。これらの変換で得られたアドレスvの次のIピクチャを求めて、そのアドレスの1つ手前をアドレスwに設定し(ステップS107)、そうして算出されたアドレスwを用いて、IピクチャアドレスuからアドレスwまでのTSパケットの読み出しをBD-ROMドライブ1に命じる(ステップS108)。
- [0082] 一方、ビデオデコーダ8に対しては、カレントPlayListMarkのmark\_time\_stampからPlayItem#xのOut\_timeまでの出力を命じる(ステップS106)。以上のステップS105～ステップS108により、AVClipにおいて、PlayItem#xにより指示されている部分の再生がなされることになる。

その後、PlayItem#xがカレントPlayListの最後のPIであるかの判定がなされる(ステップS109)。

[0083] PlayItem#xがカレントPlayListの最後のPIでなければ、カレントPlayListにおける次のPlayItemを、PlayItem#xに設定して(ステップS110)、ステップS103に戻る。以上のステップS103～ステップS110を繰り返すことにより、PlayListを構成するPlayItemは順次再生されることになる。

以上のように本実施形態によれば、is\_angle\_change\_point“=1”のEntry Pointにより指示されるピクチャまで読出範囲を広げれば、IDRピクチャをビデオデコーダ8に供給することができ、飛込再生時のデコードに必要な全ての参照ピクチャをDecoded Picture Buffer10内に準備することができるので、飛込再生時における読出範囲の拡大を必要最小限にすることができる。

[0084] 高い圧縮率を得るため、15分、30分というように、比較的長い時間間隔でIDRピクチャがビデオストリームに挿入されている場合において、特殊再生の効率化を実現することができるので、MPEG4-AVCによる圧縮符号化の利点を大きく損なう事はなく、特殊再生の効率化を実現することができる。

(第2実施形態)

第1実施形態では、EP\_mapは、AVClipにおける進入点を指示する、is\_angle\_change\_pointをEP\_mapのデータ構造と共に開示した。第2実施形態では、is\_angle\_change\_pointにより指示される進入点及び脱出点により実現される、アングル切り換え操作について説明する。アングル切り換え操作とは、第1実施形態で述べたように、現在再生中のAVClipからの「脱出」と、別のAVClipへの「進入」とからなる操作のことである。

[0085] ここで正面、右方向、左方向というように、1つの被写体を複数のカメラアングルから捉えた複数の映像が、複数のAVClipとして記録されており、これらのうち正面からの映像を表すAVClipの再生中において、上述した「脱出」と、右方向からの映像を表すAVClipへの「進入」がなされると、正面から右方向というように、再生映像の切り換わりが生じる。カメラアングルを切り換えるように、再生映像を変化させることができるので、この変化に由来して、上述した「脱出」及び「進入」からなる操作は、“アングル切り換え”と呼ばれる。かかるアングル切り換えの実現にあたって、AVClipやPlayList情報に対する改良が必要になる。アングル切り換えのための改良が加えられたPlayList情

報のPlayItem情報、及び、複数のAVClipを、マルチアングル区間とよぶ。

- [0086] マルチアングル区間実現のための応用層レイアウトを図24に示す。本実施形態で、対象としているマルチアングル区間は、4つのアングル映像の切り換えを意図しているものだとすると、マルチアングル区間は、4つのAVClip(00001.m2ts,00002.m2ts,00003.m2ts,00004.m2ts)と、1つのPlayList情報(00001.mpls)と、4つのClip情報(00001.clpi,00002.clpi,00003.clpi,00004.clpi)とにより構成される。

- [0087] 図25は、PlayList情報のデータ構造を示す図である。本図に示すようにマルチアングル区間対応のPlay Item情報は、通常のPlay Itemとの互換部分と、マルチアングル区間実現のための拡張部分とからなる。互換部分のデータ構造は図16と同じであり、『Clip\_information\_file\_name』、『Clip\_codec\_identifier』、『IN\_time』、『OUT\_time』である。マルチアングル区間において、この互換部分で指定されるAVClipは、1本目のアングル区間として取り扱われる。こうすることで、マルチアングル区間に対応しえない再生装置(BD-REのデータ構造しか対応しえない再生装置)が、マルチアングル区間対応のPlay Itemを読み取ったとしても、この互換部分のみを参照して再生を行うことで、1本目のアングル区間を再生してゆくことができる。拡張部分のデータ構造は、『is\_multi\_angles』、『number\_of\_angles』、『is\_seamless\_angle\_change』、『Angle情報[2][3]・・・[j]』からなる。

- [0088] 『is\_multi\_angles』は、このPlay Itemに対応する再生区間がマルチアングル区間であるか、非アングル区間であるかを示す。

『number\_of\_angles』は、マルチアングル区間を示すよう『is\_multi\_angles』が設定されている場合、このマルチアングル区間を構成するアングル数を示す。

『is\_seamless\_angle\_change』は、シームレスなアングル切り換えが意図されているかを示す。シームレスなアングル切り換えが意図されているかどうかは、AVClipが、後述するインターリーブ記録により記録されているか否かによって変わる。従って、インターリーブ記録により記録されている場合、『is\_seamless\_angle\_change』はオンに設定され、記録されてない場合、『is\_seamless\_angle\_change』はオフに設定される。

- [0089] 『Angle情報[2]・・・[j]』は、マルチアングル区間における個々のアングル区間につい

ての情報であり、『Clip\_Information\_file\_name』、『Clip\_codec\_identifier』を含む。

『Clip\_Information\_file\_name[angle\_id]』には、アングル区間を構成するAVClipのファイル名が記述される。

『Clip\_codec\_identifier[angle\_id]』は、アングル情報のClip\_Information\_file\_nameにて記述されたファイル名のAVClipにおける符号化方式を示す。

- [0090] 以上の説明においてアングル情報には、In\_time、Out\_timeがない。これは、2本目以降のアングル区間は、互換部分に存在するIn\_time、Out\_timeにより、Play Itemの始点、終点が指定されるためである。従って、アングル情報内のClip\_Information\_file\_nameで指定されるAVClipは、互換部分内のClip\_Information\_file\_nameで指定されるAVClipと、同一再生時間でなければならない。また、AVClip再生時間軸において、個々の再生タイミングを規定するタイムスタンプ(System Time Clock)の値が厳密に同一でなければならない。

- [0091] PlayItem情報の互換部分及び拡張部分は、Clip\_Information\_file\_nameを有しているので、複数のAVClipに対し、再生区間を一括して指定することができる。

図26(a)は、PlayItem情報の4つのClip\_Information\_file\_nameによりなされた一括指定を示す図である。本図において第1段目～第4段目は、4つのAVClip時間軸(AVClip#1,#2,#3,#4の時間軸)を示し、第5段目は、PL時間軸を示す。PlayItem情報が有する、4つのClip\_Information\_file\_nameにて、これら4つの時間軸が指定されている。こうすることで、PlayItemが有するIn\_time、Out\_timeにより、択一的に再生可能な4つの再生区間が定義されることになる。これにより、PL時間軸には、切り換え可能な複数アングル映像からなる区間(いわゆるマルチアングル区間)が定義されることになる。In\_time、Out\_timeにより指定される、4つのAVClip上の4つの再生区間は、PlayList時間軸において同じ再生時間帯に位置することになる。

- [0092] マルチアングル区間を構成する各AVClipが、どのように分割されてBD-ROM上に記録されるかについて説明する。AVClipは、複数のエクステントに分割され、BD-ROMに記録される。エクステントとは、BD-ROM上の連続領域に記録されるBD-ROM上の1の分割部分であり、セグメントとも呼ばれる。

図24に示したAVClip#1～AVClip#4は、4つのアングルから撮影された動画データ



であるものとする。この場合AVClip#1～#4は、

AVClip#1⇒

AVClip#1.1/5,AVClip#1.2/5,AVClip#1.3/5,AVClip#1.4/5,AVClip#1.5/5

AVClip#2⇒

AVClip#2.1/5,AVClip#2.2/5,AVClip#2.3/5,AVClip#2.4/5,AVClip#2.5/5

AVClip#3⇒

AVClip#3.1/5,AVClip#3.2/5,AVClip#3.3/5,AVClip#3.4/5,AVClip#3.5/5

AVClip#4⇒

AVClip#4.1/5,AVClip#4.2/5,AVClip#4.3/5,AVClip#4.4/5,AVClip#4.5/5

という5つのエクステントに分割される。

図26(b)は、各AVClipを構成するエクステントを、PlayList時間軸上に記述した図である。各AVClipを構成する5つのエクステントは、同じ再生時間帯に位置する。つまり、AVclip#1.1/5、AVclip#2.1/5、AVclip#3.1/5、AVclip#4.1/5は同じ時間帯に位置する。AVclip#1.2/5、AVclip#2.2/5、AVclip#3.2/5、AVclip#4.2/5は同じ時間帯に、AVclip#1.3/5、AVclip#2.3/5、AVclip#3.3/5、AVclip#4.3/5は同じ時間帯に位置する。

[0093] これら4つのAVClipを構成するエクステントは、BD-ROMにおいてインターリーブ記録される。ここでインターリーブ記録とは、複数のファイルを分割することで得られた分割部分を、交互に記録しておくことをいう。かかるインターリーブ記録により、あるファイルの読み出しの途中で、別のファイルを読み出すという、読出先ファイルの切り換えを好適に行うことができる。これにより、AVClipの再生途中において、再生映像を途切れさせることなく、上述した「脱出」、「進入」を実現することができる。結果としてシームレスなアングル切り換えの実現が可能になる。

[0094] 図26(b)に示したエクステントは、BD-ROM上において、図27(a)のようにインターリーブ記録される。

図27(a)は、マルチアングル区間を構成する4つのAVClipがBD-ROM上でどのように配置されているかという、アロケーションイメージを示す。ここで4つのAVClipのそれぞれが、5つエクステントから構成されているとすると、各AVClipを構成する5つの分

割部分のうち、1つ目のもの

(AVClip#1.1/5, AVClip#1.2/5, AVClip#3.1/5, AVClip#4.1/5)がひとまとまりに記録される。これらAVClip#1.1/5～AVClip#4.1/5は、同じ時間帯に再生されるべきAVClipの一部である。このように同じ時間帯に再生されるべきエクステントが、集められ、連続することになる。かかるインターリーブ記録により、AVClip#1を構成するエクステントと、AVClip#2を構成するエクステントとが交互に現れるので、例えばAVClip#1.1/5、AVClip#2.1/5をまとめて読み出させれば、AVClip#1.1/5、AVClip#2.1/5のうち一方を択一的にデコードすることができる。これによりユーザ操作に応じたアングル切り換えが実現されることになる。

[0095] マルチアングル区間においてAVClipは、第1実施形態に示した進入点、脱出点にあたる位置を分割境界にして、分割されている。そのため分割部分の先頭位置は、進入点になり、終端位置は、脱出点になる。進入点で始まり、脱出点で終わる分割部分が、互いに交互に配置されているので、あるAVClipからの脱出と、他のAVClipへの進入とが好適に行われることになる。

[0096] 図27(b)は、AVClipを構成する分割部分の内部構成を示す。本図に示すように、エクステントの先頭(若しくは最初のビデオデータの内部)には、Access Unit Delimiter(AUD)があり、完結したAccess UnitであるIDRピクチャが存在している。進入点にあたるIDRピクチャのPTS及びSPNは、is\_angle\_change\_point="1"に設定されたEntry Pointにより指示される。1つのエクステントの長さは、所定の長さを下回ってはならない。もしこの長さが短ければ、BD-ROMからの読み出し時において、バッファのアンダーフローが生じかねないからである。

[0097] 1つのエクステントには、進入点にあたるIDRピクチャが2以上存在してもよい。しかし、1つのエクステント内の最後のIDRピクチャから、エクステントの末尾までの長さは、上述した所定の長さを下回ってはならない。図28は、エクステントの連続長をどのように決定するかを概念を示す図である。本図のEntry Point#1～#5は、is\_angle\_change\_pointがそれぞれ1,0,1,0,1に設定されている。このうちEntry Point#5から、エクステント末尾までの長さは、所定の長さを下回ってはならない。

[0098] 図29は、BD-ROMにおけるエクステントのアロケーションと、これらエクステントに対

するEntry Point設定とを対応づけて示す図である。本図におけるハッチング部は、AVClip#2を構成する各エクステントの先頭に位置するIピクチャ(IDRピクチャ、Non-IDR Iピクチャ)のAccess Unit Delimiterを示す。AVClip#2だけではなく、AVClip#1、AVClip#3,#4,#5についても、各AVClipを構成するエクステントの先頭に、Iピクチャ(IDRピクチャ、Non-IDR Iピクチャ)は存在するが、簡略化のため、これらについての図示は省略している。AVClip#2を構成する複数のエクステント(AVclip#2.1/5、AVclip#2.2/5、AVclip#2.3/5、AVclip#2.4/5、AVclip#2.5/5)が、他のAVClipを構成する複数のエクステントとインターリーブ記録されている場合、AVClip#2に対応するClip情報のEP\_mapは、Entry Point#1,#2,#3,#4,#5という5つのEntry Pointを有する。Entry Point#1,#2,#3,#4,#5は、AVClip#2を構成するAVclip#2.1/5、AVclip#2.2/5、AVclip#2.3/5、AVclip#2.4/5、AVclip#2.5/5のSPNを、PTSと対応づけて示すよう、設定される。

- [0099] AVClip#2を構成する5つのエクステントのうち、AVclip#2.2/5、AVclip#2.4/5、AVclip#2.5/5の先頭はNon-IDR Iピクチャであり、AVclip#2.1/5、AVclip#2.3/5の先頭はIDRピクチャである場合、AVclip#2.1/5、AVclip#2.3/5のSPNを示すEntry Point#1、Entry Point#3のis\_angle\_change\_pointは、=1に設定される。

以上のようにAVClip#2を構成する各エクステントの先頭は、is\_angle\_change\_point“=1”に設定されたEntry Pointにより指示されることになる。これによりエクステントの先頭は、他のAVClipからの進入点として解釈されることになる。エクステントの末尾は、is\_angle\_change\_point“=1”により指定された点の直前にあたるから、他のAVClipへの脱出点として解釈される。図29は、AVClip#2を構成する各エクステントについてのEntry Point設定であるが、AVClip#1を構成する各エクステント、AVClip#3,#4,#5を構成する各エクステントの先頭も、AVClip#2同様、is\_angle\_change\_point“=1”に設定されたEntry Pointにより指示される。AVClip#1,#2,#3,#4,#5を構成する各エクステントの末尾と、エクステントの先頭との間の境界において、脱出、進入が可能になるので、かかるシームレスなアングル切替が可能になる。

- [0100] 以上が、本実施形態に係る記録媒体についての改良である。続いて再生装置の改良について説明する。第2実施形態に示した再生装置において、アングル区間の指

定を示すのは、PSRセット46におけるPSR(3)である。PSR(3)は、カレントアングルを示す数値を格納するという役割をもつ。第2実施形態に係る制御部44は、このPSR(3)の設定値に従い、アングル区間を選択して再生すると処理を行う。

[0101] 図30は、PSR(3)の設定値が取り得る複数の値と、PlayItem及びClip情報の関係を示す図である。本図の左側は、PSR(3)が取り得る複数の値(1〜4)を示す。

PSR(3)の設定値が1である場合、PlayItem情報において互換部分にあるClip\_information\_file\_nameが参照され、このClip\_information\_file\_nameに記述されているファイル名00001.clpiのClip情報がメモリに読み出されることになる。そしてこのClip情報の中にあるEntry Pointが参照され、AVClip(00001.m2ts)の再生がなされる。

[0102] PSR(3)の設定値が2である場合、PlayItem情報においてAngle情報[2]内にあるClip\_information\_file\_nameが参照され、このClip\_information\_file\_nameに記述されているファイル名00002.clpiのClip情報がメモリに読み出されることになる。そしてこのClip情報の中にあるEntry Pointが参照され、AVClip(00002.m2ts)の再生がなされる。

PSR(3)の設定値が3である場合、PlayItem情報においてAngle情報[3]内にあるClip\_information\_file\_nameが参照され、このClip\_information\_file\_nameに記述されているファイル名00003.clpiのClip情報がメモリに読み出されることになる。そしてこのClip情報の中にあるEntry Pointが参照され、AVClip(00003.m2ts)の再生がなされる。

[0103] PSR(3)の設定値が4である場合、PlayItem情報においてAngle情報[4]内にあるClip\_information\_file\_nameが参照され、このClip\_information\_file\_nameに記述されているファイル名00004.clpiのClip情報がメモリに読み出されることになる。そしてこのClip情報の中にあるEntry Pointが参照され、AVClip(00004.m2ts)の再生がなされる。

続いて図25のPlayItem情報に基づく、制御部44の処理手順について説明する。

図31は、第2実施形態に係るPlayList情報再生手順を示すフローチャートである。

[0104] 本フローチャートが、図23のフローチャートと異なっているのは、ステップS103がステップS111〜ステップS114に置き換えられている点である。具体的にいうと制御部44は、カレントPlayList情報のうち、1つのPlay Itemを再生する際、PSR(3)の設定値を変数Vに代入して(ステップS111)、変数Vが2以上であるか否かを判定する(ステップS112)。PSR(3)の設定値Vが1であれば(ステップS112でNo)、Play Itemの互換部分

のClip\_information\_file\_nameに記述されているClip情報をメモリ読み出す(ステップS113)。そして、Play ItemのIn\_timeからOut\_timeまでのTSパケットを読み出すようBD-ROMドライブ1を制御する(ステップS104～ステップS108)。

- [0105] PSR(3)の設定値Vが2以上であれば(ステップS112でYes)、PlayItem#xにおいて、V個目のアングル情報V.Clip\_Information\_file\_nameで指定されているClip情報をメモリに読み出す(ステップS114)。そして、Play ItemのIn\_timeからOut\_timeまでのTSパケットを読み出すようBD-ROMドライブ1を制御する(ステップS104～ステップS108)。

このようにPSR(3)の設定値に応じて、異なるAVClipをアクセスすることにより、アングル区間の選択的な再生が実現される。

- [0106] 図32は、マルチアングル区間を対象にしたディスク読出処理の処理手順を示すフローチャートである。本図においてカレントアドレスとは、光ピックアップによる現在の読出先のアドレスである。カレントエクステントとは、カレントアドレスによる読出先になっているエクステントを意味する。カレントアングルとは、マルチアングル区間のうち、現在再生されているアングル映像を意味する。

- [0107] ステップS50～ステップS52は、本フローチャートにおけるメインループである。このループ処理は、カレントアドレスを次のアドレスに更新するという処理(ステップS50)を繰り返すものである。

このステップS50～ステップS52の繰り返しにより、1つのエクステントの内部において、読出先を示すカレントアドレスは、順次更新されてゆく。

- [0108] ステップS51は、アングル切り換えがなされたかどうかの判定である。ここでアングル切り換えは、リモコンにおいて設けられているアングルキーの押下や、数値ボタンの押下によりなされる。もしなされれば、切り換え先となるアングルを示す数値を変数Vに代入して(ステップS53)、準備フラグを“=1”に設定する(ステップS54)。

ここでアングルキーの押下によりアングル切り換えがなされたなら、PSR(3)の数値に、“1”を加えた値を、変数vに代入する。数値ボタンの押下によりアングル切り換えがなされた場合は、その押下された数値キーに対応する値を変数vに代入する。

- [0109] ステップS52は、カレントアドレスが、カレントエクステントの終了アドレスになったかどうかの判定である。1つのエクステントを構成するTSパケットが全て読み出され、カレ

ントアドレスがエクステントの終端に達すれば、このステップS52がYesになる。

ステップS52がYesになれば、ステップS55～ステップS57の処理を実行する。ステップS55は、準備フラグが=1であるか否かの判定であり、もし準備フラグが0であれば、カレントAVClipの次のエクステントをカレントエクステントに設定し(ステップS56)、カレントエクステントの先頭Access Unit Delimiterのアドレスをカレントアドレスに設定した上で(ステップS57)、ステップS50～ステップS52からなるループ処理に戻る。これにより準備フラグが=0である場合は、カレントアングルに属する次のエクステントが、読み込まれることになる。

- [0110] 準備フラグが=1である場合、読出先となるAVClipファイルの切り換え処理を実行する。カレントの読出先アドレスが、カレントエクステントの末尾に到達したことを契機にして、読出先となるAVClipファイルの切り換え処理を実行するからである。

先ず初めに、切換先アングルのエクステントのうち、カレントエクステントの次の時間帯に再生されるものを、エクステントdstに設定する(ステップS58)。そしてエクステントdstの先頭Access Unit Delimiterを指示するEPtopを特定する(ステップS59)。その後、EPtopのis\_angle\_change\_pointが=1であるか否かを判定する(ステップS60)。この判定は、エクステントdstの先頭が、進入点になりうるかどうかの判定を意味する。もしis\_angle\_change\_pointが=0であるなら、準備フラグを=1に設定したままステップS56に移行する。ステップS56～ステップS57の処理は、カレントアングルに属する次のエクステントの読み込みである。かかる処理により、カレントアングルの再生は継続することになる。つまり、エクステントdstが、is\_angle\_change\_point“=1”に設定された進入点でないなら、カレントアングルの再生を継続するのである。

- [0111] もしis\_angle\_change\_pointが=1であるなら、エクステントdstをカレントエクステントに設定し(ステップS61)、エクステントdstの先頭Access Unit Delimiterのアドレスをカレントアドレスに設定する(ステップS62)。そして、準備フラグを0にクリアし、切換先アングルを示す変数VをPSR(3)に設定する(ステップS63)。最後にステップS113に戻る。これにより、変数VにあたるClip\_information\_file\_nameに記述されている、Clip情報が読み出され、そのClip情報に基づき、再生を継続することになる。

- [0112] 図33は、アングル映像Aを再生する際のBD-ROMからの読み出しを示す図である

。本図では、AVClip#1を構成する5つのエクステント(AVclip#1.1/5、AVclip#1.2/5、AVclip#1.3/5、AVclip#2.4/5、AVclip#1.5/5)が順次読み出されている。

図34は、アングル映像切り換え操作がなされた際のBD-ROMからの読み出しを示す図である。AVClip#1を構成する5つのエクステントのうち、AVClip#1.2/5が読み出されている途中で、アングル切換操作を意図する操作がユーザによりなされたとする(ステップS51でYes)。これにより準備フラグは1に設定される(ステップS54)。この操作は、AVClip#1にあたるアングル映像からAVClip#2にあたるアングル映像への切り換えを意図するものである。切り換え操作は、AVclip#1.2/5の読み出しの途中でなされていたため、切り換え時点の次の時間帯に再生されるエクステントとして、AVclip#2.3/5が、エクステントdstとして特定される(ステップS58)。このエクステントdstの先頭は、PTS\_EP\_start=t3にあたるEntry Point#3により指示されているので、このAVClip#2のEntry Point#3におけるis\_angle\_change\_pointが参照される(ステップS60)。ここでEntry Point#3のis\_angle\_change\_pointは=1であり、進入点として解釈することができる。故に、エクステントdstにあたるAVclip#2.3/5を、カレントエクステントに設定して(ステップS61)、このカレントエクステント先頭のAccess Unit Delimiterのアドレスを、カレントアドレスに設定した上で(ステップS62)、AVClip#2を示す“2”を、PSR(3)を設定する(ステップS64)。こうすることにより、以降、AVClip#2を構成するAVclip#2.3/5、AVclip#2.4/5、AVclip#2.5/5が読み出されることになる。

- [0113] 図35は、アングル映像切り換え操作がなされた際のBD-ROMからの読み出しを示す図である。AVClip#1を構成する5つのエクステントのうち、AVclip#1.1/5が読み出されている途中で、アングル切換操作を意図する操作がユーザによりなされたとする(ステップS51でYes)。これにより準備フラグは1に設定される(ステップS54)。切り換え操作は、AVclip#1.1/5の読み出しの途中でなされていたため、AVclip#1.2/5の読み出しがなされれば、切り換え時点の次の時間帯に再生されるエクステントとして、AVclip#2.2/5が、エクステントdstとして特定される(ステップS58)。このエクステントdstの先頭は、PTS\_EP\_start=t2にあたるEntry Point#3により指示されているので、このAVClip#2のEntry Point#2におけるis\_angle\_change\_pointが参照される(ステップS60)。ここでEntry Point#2のis\_angle\_change\_pointは=0であり、進入点として解釈すること

ができない。アングル切り換えを実行することはできず、AVclip#1.1/5の次にあたるAVclip#1.2/5を、カレントエクステントに設定し、カレントエクステントの先頭をカレントアドレスに設定して(ステップS56、ステップS57)、AVclip#1.2/5の読み出しを行う。

- [0114] AVclip#1.2/5の読み出し時において、カレントアドレスがAVclip#1.2/5の末尾に達すれば(ステップS52)、準備フラグが1であるか否かの判定がなされる(ステップS55)。ここで準備フラグは1に設定されているので、切り換え時点の次の時間帯に再生されるエクステントとして、AVclip#2.3/5が、エクステントdstとして特定される(ステップS56)。このエクステントdstの先頭は、PTS\_EP\_start=t3にあたるEntry Point#3により指示されているので、このAVClip#2のEntry Point#3におけるis\_angle\_change\_pointが参照される(ステップS60)。ここでEntry Point#3のis\_angle\_change\_pointは=1であり、進入点として解釈することができる。故に、エクステントdstにあたるAVclip#2.3/5を、カレントエクステントに設定して(ステップS61)、このカレントエクステント先頭のAccess Unit Delimiterのアドレスを、カレントアドレスに設定した上で(ステップS62)、AVClip#2を示す2を、PSR(3)を設定する(ステップS64)。こうすることにより、以降、AVClip#2を構成するAVclip#2.3/5、AVclip#2.4/5、AVclip#2.5/5が読み出されることになる。

- [0115] 図35のように、切り換え時点の次の時間帯に再生されるエクステントが進入点になりえない場合は、進入点に到達するまで、カレントアングルを構成するエクステントの再生を継続することになる。

また、AVclip#2.3/5への切り換えが可能となる期間は、PlayList時間軸において、同じ時間帯に位置するAVclip#1のエクステント(AVclip#1.3/5)の再生が開始されるまでである。即ち、同じ時間帯に位置するエクステント(AVclip#1.3/5)の再生が開始されれば、もはやAVclip#1.3/5への再生切り換えを実現することはできない。

- [0116] 以上のように本実施形態によれば、AVClipを構成する複数エクステントの先頭が、Entry Pointにより指示されており、このEntry Pointのis\_angle\_change\_pointを参照することにより、切換先のアングル映像を構成する複数のエクステントのうち、どれが進入点になりうるかを、即座に知得することができる。そうして知得した進入点からIDRピクチャを供給することができるので、ビデオストリームがMPEG4-AVCにより符号化されている場合であっても、スムーズなアングル切り換えを、実現することができる。



[0117] (第3実施形態)

第1実施形態は、IDRピクチャが15分、30分置きに置かれている場合の飛込再生を効率化するための改良を提案した。これに対し第3実施形態は、ビデオストリームを構成する複数のピクチャのうち、どれをIDRピクチャにするかという、IDRピクチャ選択を提案する。つまりエンコード条件を定めるにあたって、どのピクチャをIDRピクチャにするという最適な選択を提案する。MPEG4-AVC形式のビデオストリームは、MPEG4-AVCに多重化され、Clip情報を介してPlayList情報により参照される。本実施形態におけるIDRピクチャの選択は、このPlayList情報の性質を考慮に入れたものである。

[0118] 以降本実施形態に係るPlayList情報のデータ構造について説明する。図36は、第3実施形態に係るPlayList情報の内部構成を示す図である。本図のPlayList情報が、第2実施形態と異なるのは、複数のPLMark(#1～#n)が追加されている点である。本実施形態におけるIDRピクチャ選択は、こうしたデータ構造をもつPlayList情報のPL再生をより効率化する改良にほかならない。

[0119] 図36におけるPLmark情報(PLmark())は、PL時間軸のうち、任意の区間を、チャプター点として指定する情報である。図36の引き出し線pm1に示すようにPLmark情報は、『ref\_to\_PlayItem\_Id』と、『mark\_time\_stamp』とを含む。図37は、PLmark情報によるチャプター定義を示す図である。本図において第1段目は、AVClip時間軸を示し、第2段目はPL時間軸を示す。図中の矢印pk1,2は、PLmark情報におけるPlayItem指定(ref\_to\_PlayItem\_Id)と、一時点の指定(mark\_time\_stamp)とを示す。これらの指定によりPL時間軸には、3つのチャプター(Chapter#1,#2,#3)が定義されることになる。以上がPLmarkについての説明である。

[0120] 図38は、PlayList情報のうち、PlayItem#1により指定されている部分のビデオストリームの内容及びEP\_map設定を示す図である。ここでPlayItem#1のIn\_timeが、時間軸においてt2の時点を示しているとする、このt2にあたるピクチャをIDRピクチャにエンコードしておく。これにより、PlayList情報による再生時において、PlayItem#1のIn\_time以降のピクチャを読み出すことにより、PlayList#1を再生してゆくことができる。

[0121] 図39は、ビデオストリームにおけるピクチャ列のうち、PlayItem#2で指定されるものを

示す。PlayItem#1のIn\_timeで指定されたピクチャがIDRピクチャであったのに対し、PlayItem#2のIn\_timeで指定されているピクチャはIDRピクチャでなくてもよい。つまり、PlayList情報を構成する複数PlayItem情報のうち、先頭以外のPlayItemについては、In\_timeにて指定されるピクチャをIDRピクチャにエンコードしておく必要はない。Non-IDRピクチャに符号化しておけばよい。何故なら、MPEG4-AVCでは長時間参照ピクチャの利用が可能であるので、PlayItem#1のIn\_timeからOut\_timeまでに存在するピクチャを、長時間参照ピクチャとして利用するよう、PlayItem#2のIn\_timeからOut\_timeまでに存在するピクチャ、及び、PlayItem#3のIn\_timeからOut\_timeまでに存在するピクチャをエンコードしておけば、PlayItem#2のIn\_time、PlayItem#3のIn\_timeに、IDRピクチャを配置しておく必要が無いという理由による。長時間参照ピクチャの利用したエンコードにより、IDRピクチャを置く個数を少なくすることができるので、MPEG4-AVC形式のビデオストリームを高い圧縮率で圧縮することができる。その反面、PlayList情報を構成する複数PlayItem情報のうち、先頭PlayItemにおけるIn\_timeは、先行するピクチャが存在しないので、この先頭PlayItemにおけるIn\_timeからの再生時には、Decoded Picture Buffer10には参照ピクチャを得ることができない。従って、先頭PlayItemにおけるIn\_timeで指定されるピクチャは、必ずIDRピクチャにエンコードしておかねばならない。

[0122] Playitem情報#2のIn\_timeからOut\_timeまでに存在するピクチャのうち、PLMark#1で指定されるものについては、IDRピクチャにエンコードしておく。PLMark情報で指定されるピクチャは、チャプターとして解釈される。そしてチャプターサーチでこのPLMark情報で指定されるピクチャから飛込再生される際、Decoded Picture Buffer10には参照ピクチャを得ることができない。従って、PLMark情報で指定されるピクチャは必ずIDRピクチャにエンコードしておくのである。

[0123] 図40は、ビデオストリームにおけるピクチャ列のうち、PlayItem#3で指定されるものを示す。図40においても、図39同様、PlayItem#3のIn\_timeで指定されているピクチャはIDRピクチャでなくてもよい。PlayItem情報のIn\_timeからOut\_timeまでに存在するピクチャのうち、PLMark#3で指定されるものについても、IDRピクチャにエンコードしておく。こうすることで、チャプターからの再生時には、参照ピクチャは不要になるので、

PLMark情報に基づく再生が好適に行われる。

- [0124] 以上が本実施形態に係る記録媒体の改良である。続いて、本実施形態に係る再生装置の改良について説明する。PlayList情報に基づく再生制御手順は、第1実施形態に示したものと同一であり、PlayList情報のIn\_time及びOut\_timeをIピクチャアドレスに変換するとの手順を経て、PlayList情報に基づく再生を実行する。

PlayList情報を構成する複数のPlayItem情報のうち、先頭のPlayItem情報のIn\_timeにて指定されるピクチャは、IDRピクチャであり、このIDRピクチャは、is\_angle\_change\_point“=1”に設定されたEntry Pointにより指示されるので、制御部44は、In\_timeに対応するEntry Pointに示されるSPN\_EP\_start以降を読み出すことにより、IDRピクチャをビデオデコーダ8に供給する。ビデオデコーダ8へのIDRピクチャ供給により、Decoded Picture Buffer10のクリアがなされる。

- [0125] このように本実施形態の再生装置は、In\_timeに最も近い時点を指すEntry Pointを検索しなくても、In\_timeに相当する位置をBD-ROMから読み出すだけで、IDRピクチャをビデオデコーダ8に供給することができ、PL再生の高速化を図ることができる。

また、PLMark情報によりチャプターが規定されているので、本実施形態に係る再生装置は、PlayList情報を用いたチャプターサーチ機能及びチャプタースキップ機能を実行する。チャプターサーチ機能とは、PLMark情報に記述されているref\_to\_PlayItem\_Idに対応するPlayItem情報を、複数のPlayItem情報の中から特定して、特定したPlayItem情報が定義されているAVClipにおいて、PLMark情報に記述されたmark\_time\_stampに示される位置からの飛込再生を行うものであり、この際、制御部44は、複数のEntry Pointのうち、PLMark情報に記述されたmark\_time\_stampに最も近いPTS\_EP\_startをもつEntry Pointを特定して、特定したEntry PointのSPN\_EP\_startに対応するIピクチャアドレスからの再生を行わせる。

- [0126] チャプタースキップは、現在の再生位置にあたるチャプターの直前又は直後のチャプターを規定するPLMark情報を特定して、そのPLMark情報に対するチャプターサーチを実行するものである。上述のように、PLMark情報のmark\_time\_stampにて指定されるピクチャは、IDRピクチャにエンコードされており、is\_angle\_change\_point“=1”に設定されたEntry PointのPTS\_EP\_startは、このIDRピクチャの再生時刻を示している

ので、Entry PointのSPN\_EP\_startに示される位置以降のピクチャを読み出すことにより、IDRピクチャをビデオデコーダ8に供給することができる。

- [0127] 以降、フローチャートを参照しながら、チャプターサーチ及びチャプタースキップの処理手順について説明する。図41は、チャプターサーチの処理手順を示すフローチャートである。

本フローチャートにおいて先ずチャプターメニューにおけるチャプター選択を待ち(ステップS124)、チャプター選択がなされれば、選択されたチャプターにあたるPLMark情報をカレントPlayListMarkとする(ステップS125)。ステップS126では、カレントPlayListMarkのref\_to\_PlayItem\_Idに記述されているPIを、PlayItem#xに設定し、ステップS127では、PlayItem#xのClip\_information\_file\_nameで指定されるClip情報を読み込む。ステップS128では、カレントClip情報のEP\_mapを用いて、カレントPlayListMarkのmark\_time\_stampを、Iピクチャアドレスuに変換する。ここでPLMark情報のmark\_time\_stampで指示されているピクチャは、is\_angle\_change\_point“=1”に設定されたEntry Pointにより指示されている。そのため、Iピクチャアドレスuは、IDRピクチャのアドレスを指示することになる。

- [0128] 一方ステップS129では、PlayItem#xのOut\_timeを、カレントClip情報のEP\_mapを用いて、Iピクチャアドレスvに変換する。ステップS130は、カレントPlayListMarkのmark\_time\_stampからPlayItem#xのOut\_timeまでの出力をPresentation Engine31に命じる。こうしてIピクチャアドレスu,vを変化して、別の部分の再生を命じた上、図23のステップS107へ移行するので、別のAVClipからTSパケットが読み出されることになり、映像内容が切り換えが実現する。以上がチャプターサーチの処理手順である。続いてチャプタースキップの処理手順について説明する。図42は、チャプタースキップの処理手順を示すフローチャートである。

- [0129] ステップS131はリモコンに対するSkipNextキー、SkipBackキーに対する操作待ちを行う。もし操作がなされれば、ステップS132を実行する。ステップS132は、押下されたのがSkipNextキーであるか、SkipBackキーであるかの判定であり、SkipBackキーであるならステップS133において方向フラグを-1に設定し、SkipNextキーであるならステップS134において方向フラグを+1に設定する。

- [0130] ステップS135は、カレントPlayListMarkの番号に方向フラグの値を足した番号を、カレントPlayListMarkの番号として設定する。ここでSkipNextキーであるなら方向フラグは+1に設定されているのでカレントPlayListMarkはインクリメントされることになる。SkipBackキーであるなら方向フラグは-1に設定されているので、カレントPlayListMarkはデクリメントされることになる。このようにしてPLMark情報を設定すれば、図41同様、ステップS126～ステップS130の処理手順を実行することにより、TSパケット読み出しを行う。
- [0131] ここでPLMark情報のmark\_time\_stampにて指定されるピクチャは、IDRピクチャにエンコードされており、is\_angle\_change\_point="1"に設定されたEntry PointのPTS\_EP\_startは、このIDRピクチャの再生時刻を示しているので、Entry Pointに示されるSPN位置以降のピクチャを読み出すことにより、IDRピクチャをビデオデコーダ8に供給することができる。
- [0132] 以上のように本実施形態によれば、PlayList情報を構成する複数PlayItemのうち、先頭のPlayItemのIn\_timeにより指示されているピクチャや、PLMark情報によりチャプター位置として指示されているピクチャをIDRピクチャに設定しておくので、PlayItemのIn\_timeや、PLMark情報のチャプター位置から、IDRピクチャを検索してゆくという検索の手間を省くことができる。こうした検索の手間の省略により、PlayList情報を用いた再生制御の高速化を図ることができる。
- [0133] (備考)
- 以上の説明は、本発明の全ての実施行為の形態を示している訳ではない。下記(A)(B)(C)(D)……の変更を施した実施行為の形態によっても、本発明の実施は可能となる。本願の請求項に係る各発明は、以上に記載した複数の実施形態及びそれらの変形形態を拡張した記載、ないし、一般化した記載としている。拡張ないし一般化の程度は、本発明の技術分野の、出願当時の技術水準の特性に基づく。
- [0134] (A)全ての実施形態では、本発明に係る記録媒体をBD-ROMとして実施したが、本発明の記録媒体は、記録されるEP\_mapに特徴があり、この特徴は、BD-ROMの物理的性質に依存するものではない。EP\_mapを記録しうる記録媒体なら、どのような記録媒体であってもよい。例えば、

DVD-ROM,DVD-RAM,DVD-RW,DVD-R,DVD+RW,DVD+R,CD-R,CD-RW等の光ディスク、PD,MO等の光磁気ディスクであってもよい。また、コンパクトフラッシュカード(登録商標)、スマートメディア、メモリスティック、マルチメディアカード、PCM-CIAカード等の半導体メモリカードであってもよい。フレキシブルディスク、SuperDisk,Zip,Clik!等の磁気記録ディスク(i)、ORB,Jaz,SparQ,SyJet,EZFley,マイクロドライブ等のリムーバブルハードディスクドライブ(ii)であってもよい。更に、機器内蔵型のハードディスクであってもよい。

- [0135] (B)全ての実施形態における再生装置は、BD-ROMに記録されたAVClipをデコードした上でTVに出力していたが、再生装置をBD-ROMドライブのみとし、これ以外の構成要素をTVに具備させてもよい。この場合、再生装置と、TVとをIEEE1394で接続されたホームネットワークに組み入れることができる。また、実施形態における再生装置は、テレビと接続して利用されるタイプであったが、ディスプレイと一体型となった再生装置であってもよい。更に、各実施形態の再生装置において、処理の本質的部分をなすシステムLSI(集積回路)のみを、実施としてもよい。
- [0136] (C)各フローチャートに示したプログラムによる情報処理は、ハードウェア資源を用いて具体的に実現されていることから、上記フローチャートに処理手順を示したプログラムは、単体で発明として成立する。全ての実施形態は、再生装置に組み込まれた態様で、本発明に係るプログラムの実施行為についての実施形態を示したが、再生装置から分離して、各実施形態に示したプログラム単体を実施してもよい。プログラム単体の実施行為には、これらのプログラムを生産する行為(1)や、有償・無償によりプログラムを譲渡する行為(2)、貸与する行為(3)、輸入する行為(4)、双方向の電子通信回線を介して公衆に提供する行為(5)、店頭、カタログ勧誘、パンフレット配布により、プログラムの譲渡や貸渡を、一般ユーザに申し出る行為(6)がある。
- [0137] (D)各実施形態におけるデジタルストリームは、BD-ROM規格のAVClipであったが、DVD-Video規格、DVD-Video Recording規格のVOB(Video Object)であってもよい。VOBは、ビデオストリーム、オーディオストリームを多重化することにより得られたISO/IEC13818-1規格準拠のプログラムストリームである。またAVClipにおけるビデオストリームは、MPEG4やWMV方式であってもよい。更にオーディオストリームは、

Linear-PCM方式、Dolby-AC3方式、MP3方式、MPEG-AAC方式、dts方式であってもよい。

- [0138] (E)第3実施形態では、PlayList情報の全てのPlayItem情報のIn\_timeで指定されるピクチャをIDRピクチャにエンコードしてもよい。

#### 産業上の利用可能性

- [0139] 本発明に係る記録媒体及び再生装置は、ホームシアターシステムでの利用のように、個人的な用途で利用されることがありうる。しかし本発明は、上記実施形態に内部構成が開示されており、この内部構成に基づき量産することが明らかであるので、本発明に係る記録媒体及び再生装置は、工業製品の生産分野において生産し、又は、使用することができる。このことから本発明に係る記録媒体及び再生装置は、産業上の利用可能性を有する。

#### 図面の簡単な説明

- [0140] [図1]本発明に係る記録媒体の、使用行為についての形態を示す図である。
- [図2]BD-ROMの内部構成を示す図である。
- [図3]拡張子.m2tsが付与されたファイルがどのように構成されているかを模式的に示す図である。
- [図4]AVClipを構成するTSパケットがどのような過程を経てBD-ROMに書き込まれるかを示す図である。
- [図5](a)表示順序に配置される複数のピクチャを示す図である。(b)(a)に示したビデオストリームのGOP構造を示す図である。
- [図6](a)表示順序及び符号化順序におけるClosed-GOPの内部構成を示す図である。(b)Open-GOPの内部構成を示す図である。
- [図7](a)IDRピクチャの内部構成を示す図である。(b)Non-IDR Iピクチャの内部構成を示す図である。(c)Non-IDR Iピクチャにおける依存関係を示す図である。
- [図8]Non-IDR Iピクチャがもちうる依存関係を示す図である。
- [図9]IDRピクチャ、Non-IDR IピクチャがTSパケットに変換される過程を示す図である。
- [図10]Clip情報の内部構成を示す図である。

[図11](a)ビデオストリームについてのStream\_Coding\_Infoを示す。(b)オーディオストリームについてのStream\_Coding\_Infoを示す。

[図12]AVClipへの進入、AVClipからの脱出についての概念を示す図である。

[図13]図5のビデオストリームに対するEP\_map設定を示す図である。

[図14]図13におけるEntry Point#1～Entry Point#5のPTS\_EP\_start、SPN\_EP\_startを、EP\_Low、EP\_Highの組みで表現した図である。

[図15]飛込再生時における読出範囲の拡大を示す図である。

[図16]PlayList情報の構成を示す図である。

[図17]AVClipと、PlayList情報との関係を示す図である。

[図18]本発明に係る再生装置の内部構成を示す図である。

[図19]Decoded Picture Buffer10の内部構成を示す図である。

[図20]ビデオデコーダ8によりNon-IDR Iピクチャが復号される過程を示す図である。

[図21]IDRピクチャをデコードする際の、Decoded Picture Buffer10の格納内容を示す図である。

[図22]In\_timeをIピクチャアドレスに変換する変換手順を示すフローチャートである。

[図23]制御部44によるPL再生手順を示すフローチャートである。

[図24]マルチアングル区間実現のための応用層レイアウトを示す図である。

[図25]PlayList情報のデータ構造を示す図である。

[図26](a)PlayItem情報の4つのClip\_Information\_file\_nameによりなされた一括指定を示す図である。

[0141] (b)各AVClipを構成するエクステントを、PlayList時間軸上に記述した図である。

[図27](a)マルチアングル区間を構成する4つのAVClipがBD-ROM上でどのように配置されているかという、アロケーションイメージを示す図である。(b)AVClipを構成する分割部分の内部構成を示す図である。

[図28]エクステントの連続長をどのように決定するかの概念を示す図である。

[図29]BD-ROMにおけるエクステントのアロケーションと、これらエクステントに対するEntry Point設定とを対応づけて示す図である。

[図30]PSR(3)の設定値が取り得る複数の値と、PlayItem及びClip情報の関係を示す



図である。

[図31]第2実施形態に係るPlayList情報再生手順を示すフローチャートである。

[図32]マルチアングル区間を対象にしたディスク読出処理の処理手順を示すフローチャートである。

[図33]アングル映像Aを再生する際のBD-ROMからの読み出しを示す図である。

[図34]アングル映像切り換え操作がなされた際のBD-ROMからの読み出しを示す図である。

[図35]アングル映像切り換え操作がなされた際のBD-ROMからの読み出しを示す図である。

[図36]PLmark情報の内部構成を示す図である。

[図37]PLmarkによるチャプター定義を示す図である。

[図38]PlayList情報のうち、PlayItem#1により指定されている部分のビデオストリームの内容及びEP\_map設定を示す図である。

[図39]ビデオストリームにおけるピクチャ列のうち、PlayItem#2で指定されるものを示す図である。

[図40]ビデオストリームにおけるピクチャ列のうち、PlayItem#3で指定されるものを示す図である。

[図41]チャプターサーチの処理手順を示すフローチャートである。

[図42]チャプタースキップの処理手順を示すフローチャートである。

#### 符号の説明

- [0142]
- 1 BDドライブ
  - 2 Arrival time Clock Counter
  - 3 Source de-packetetizer
  - 4 PID Filter4
  - 5 Transport Buffer5
  - 6 Multiplexed Buffer6
  - 7 Coded Picture Buffer7
  - 8 ビデオデコーダ8

- 10 Decoded Picture Buffer10
- 11 ビデオプレーン11
- 12 Transport Buffer12
- 13 Coded Data Buffer13
- 14 Stream Graphics Processor14
- 15 Object Buffer15
- 15 Composition Buffer16
- 17 Composition Controller17
- 18 Presentation Graphicsプレーン18
- 19 CLUT部19
- 20 Transport Buffer20
- 21 Coded Data Buffer21
- 22 Stream Graphics Processor22
- 23 Object Buffer23
- 24 Composition Buffer24
- 25 Composition Controller25
- 26 Intaractive Graphicsプレーン26
- 27 CLUT部27
- 28 合成部28
- 29 合成部29
- 30 スイッチ30
- 31 Network Device31
- 32 Local Storage32
- 33 Arrival Time Clock Counter33
- 34 Source De-Packetizer34
- 35 PIDフィルタ
- 36 スイッチ
- 37 Transport Buffer

38	Elementary Buffer
39	オーディオデコーダ
40	Transport Buffer
41	バッファ
42	テキスト字幕デコーダ
43	シナリオメモリ
44	制御部
46	PSRセット
100	BD-ROM
200	再生装置
300	リモコン
400	テレビ

## 請求の範囲

- [1] 記録媒体であって、  
ビデオストリームと、エントリーマップとが記録されており、  
エントリーマップは、ビデオストリーム内における複数のエントリー位置を、エントリー時刻と、フラグとに対応づけて示し、  
前記フラグは、  
各エントリー位置に存在するピクチャが、デコーディングのリフレッシュ動作を意図しているイントラピクチャであるか否かを示す  
ことを特徴とする記録媒体。
- [2] 前記ビデオストリームは、マルチアングル区間において1つのアングル映像を構成しており、  
前記リフレッシュを意図したピクチャは、  
マルチアングル区間における他のアングル映像からの再生切り換えが可能となる位置に存在する、ことを特徴とする請求項1記載の記録媒体。
- [3] 前記ビデオストリームは、複数のセグメントに分割されて記録媒体に記録されており、  
前記再生が可能になる位置とは、  
セグメントの先頭にあたる、ことを特徴とする請求項2記載の記録媒体。
- [4] 前記記録媒体には、複数の管理情報ファイルと、再生区間情報とが記録されており、  
再生区間情報は、ビデオストリームにおけるマルチアングル区間の始点及び終点を規定する情報であり、複数の管理情報ファイルのファイル名が記述された領域を有しており、  
前記エントリーマップは、  
複数のうち、1つの管理情報ファイル内にある、ことを特徴とする請求項3記載の記録媒体。
- [5] ビデオストリーム内における複数のエントリー位置を、エントリー時刻と、フラグとに対応づけて示すエントリーマップに基づき、ビデオストリームを再生する再生装置であって、  
ビデオストリームを構成するピクチャを、記録媒体から読み出す読出手段と、

読み出されたピクチャを再生する再生手段と、

任意の再生開始時点からの再生が命じられた場合、フラグがオンに設定されているエンタリー時刻のうち、再生開始時点にもっとも近いものを特定し、特定されたエンタリー時刻に対応するエンタリー位置からの読み出しを、読出手段に行わせる制御手段と

を備えることを特徴とする再生装置。

[6] 前記再生手段は、

複数の参照ピクチャが格納されているピクチャバッファと、

参照ピクチャを用いた動き補償を実行するデコーダとを備え、

フラグがオンに設定されているエンタリー位置には、デコーディングのリフレッシュを意図しているイントラピクチャが存在しており、

前記デコーダは、

当該イントラピクチャをデコードした際、ピクチャバッファの格納内容をクリアする、請求項5記載の再生装置。

[7] 前記記録媒体には、複数の管理情報ファイルと、再生区間情報とが記録されており、

再生区間情報は、ビデオストリームにおけるマルチアングル区間の始点及び終点を規定する情報であり、複数の管理情報ファイルのファイル名が記述された領域を有しており、

前記再生装置は、

再生対象となるアングル映像を示す値を格納している状態レジスタと、

ユーザによる操作に従い、状態レジスタの値を更新する更新手段とを備え、

前記読出手段は、

状態レジスタの更新があれば、再生区間情報にファイル名が記述されている管理情報ファイルのうち、更新後の値に対応するものを、記録媒体から読み出し、

前記制御手段により参照されるエンタリーマップは、

読み出された管理情報ファイル内にある、請求項5記載の再生装置。

[8] 前記記録媒体には、AVファイルが複数記録されており、

読出手段の読み出しの対象となるビデオストリームは、

取り出された管理情報ファイルのファイル名と同じファイル名を有する、AVファイル内に存在し、

読出手段は、

AVファイルを構成する複数のエクステントのうち、特定されたエン트리時刻に対応するエン트리位置にあたるものを読み出す、請求項7記載の再生装置。

- [9] 記録媒体に記録されたビデオストリームを再生する手順を、コンピュータに行わせるプログラムであって、

前記記録媒体には、ビデオストリーム内における複数のエン트리位置を、エン트리時刻と、フラグとに対応づけて示すエンtrimapが記録されており、

ビデオストリームを構成するピクチャを、記録媒体から読み出す読出ステップと、

読み出されたピクチャを再生する再生ステップと、

任意の再生開始時点からの再生が命じられた場合、フラグがオンに設定されているエン트리時刻のうち、再生開始時点にもっとも近いものを特定し、特定されたエン트리時刻に対応するエン트리位置からの読み出しを、読出ステップに行わせる制御ステップと

を備えることを特徴とするプログラム。

- [10] 記録媒体に記録されたビデオストリームを再生する再生方法であって、

前記記録媒体には、ビデオストリーム内における複数のエン트리位置を、エン트리時刻と、フラグとに対応づけて示すエンtrimapが記録されており、

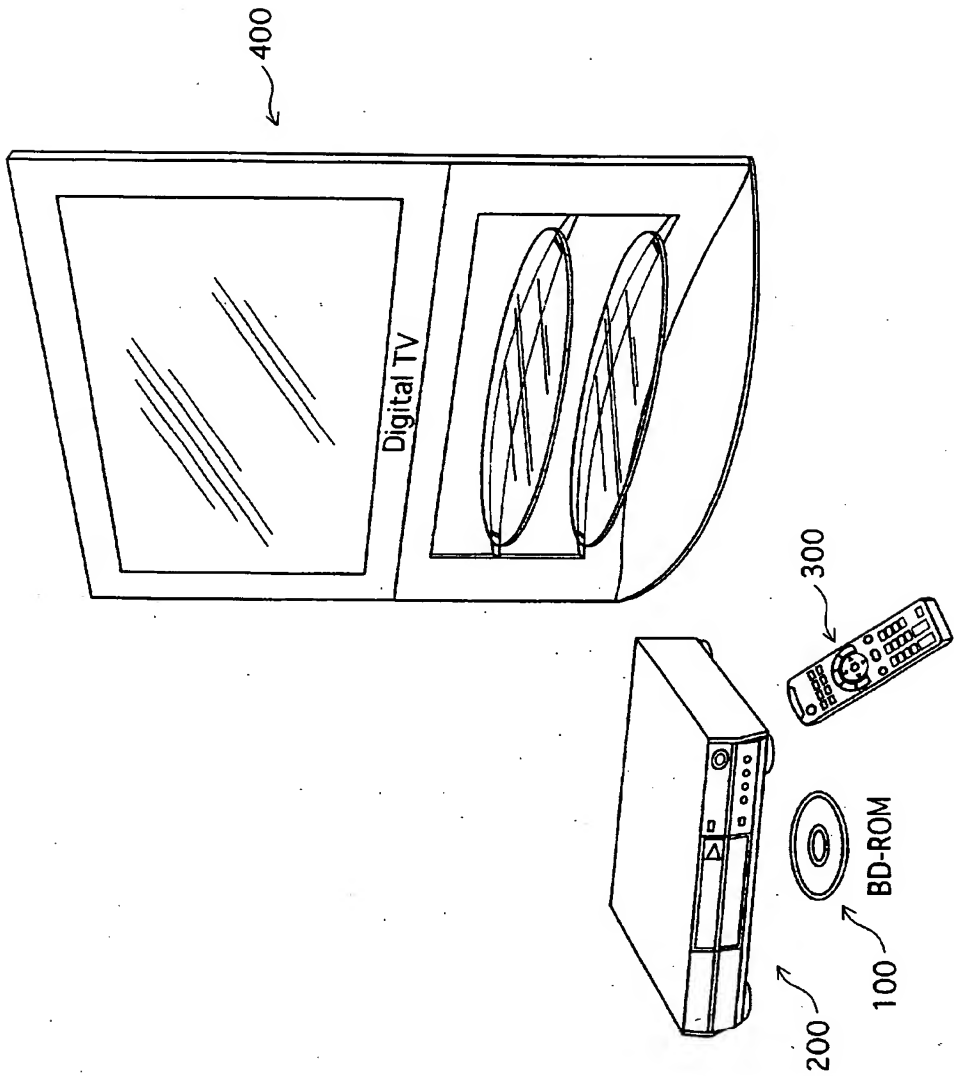
ビデオストリームを構成するピクチャを、記録媒体から読み出す読出ステップと、

読み出されたピクチャを再生する再生ステップと、

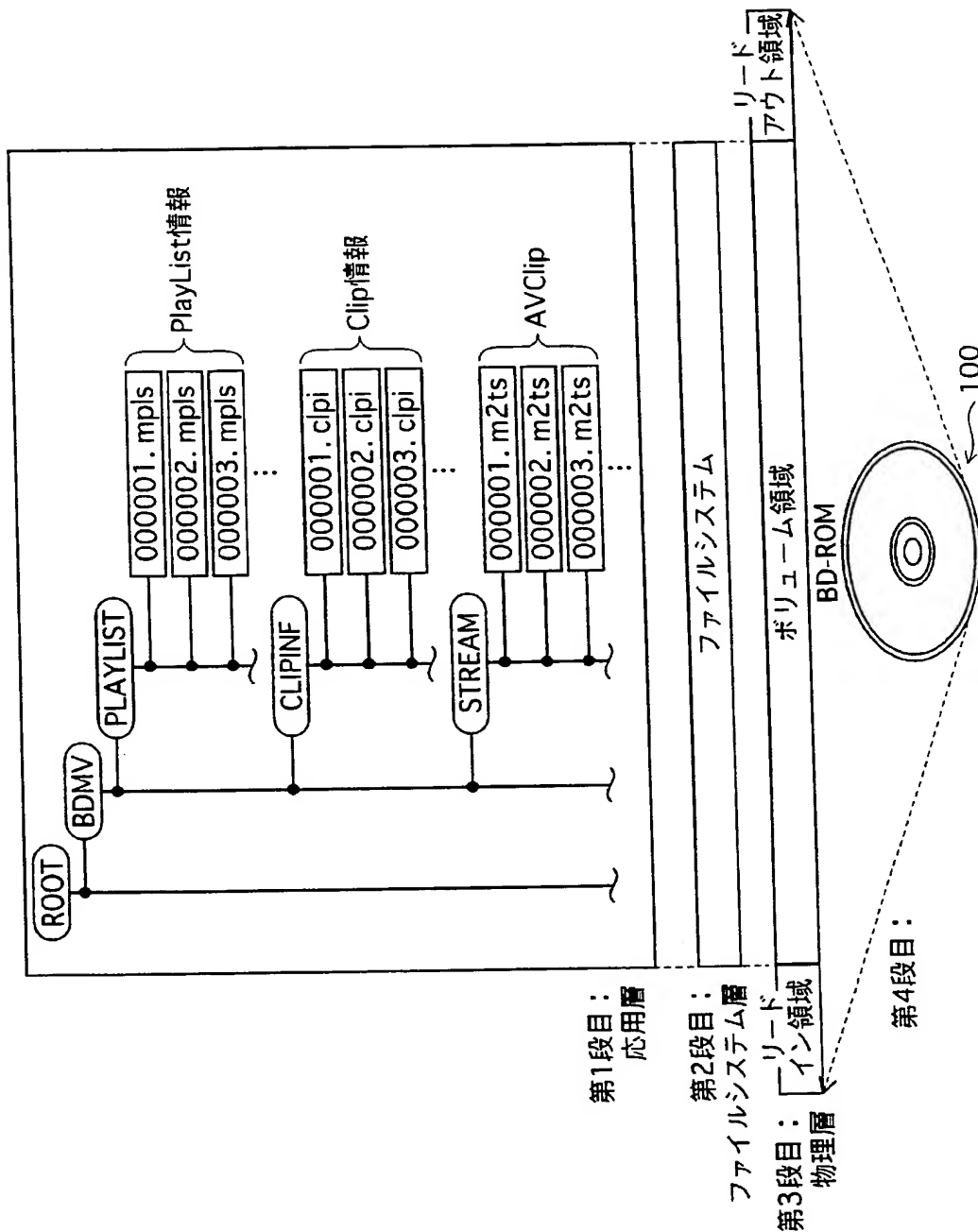
任意の再生開始時点からの再生が命じられた場合、フラグがオンに設定されているエン트리時刻のうち、再生開始時点にもっとも近いものを特定し、特定されたエン트리時刻に対応するエン트리位置からの読み出しを、読出ステップに行わせる制御ステップと

を備えることを特徴とする再生方法。

[図1]

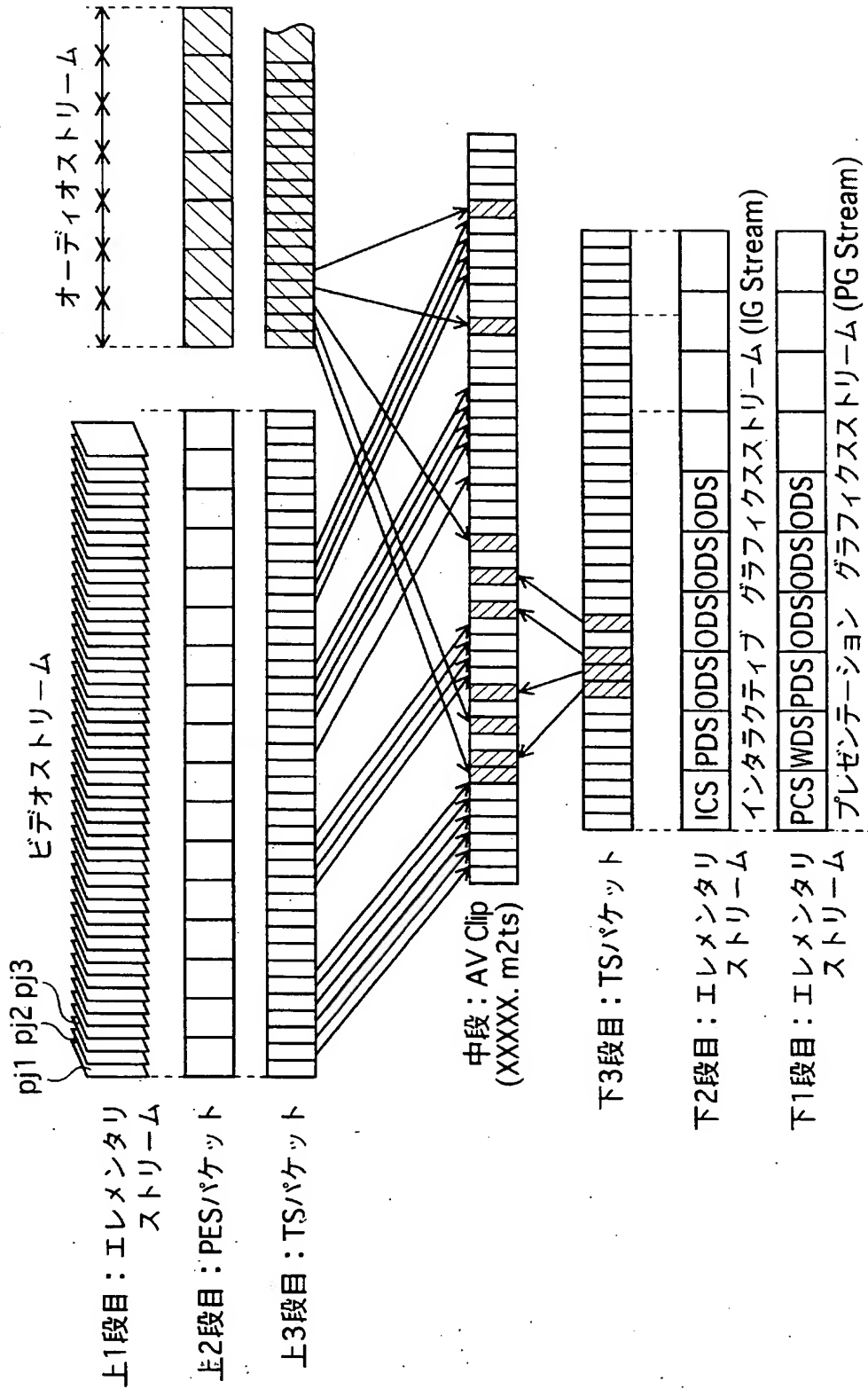


[図2]

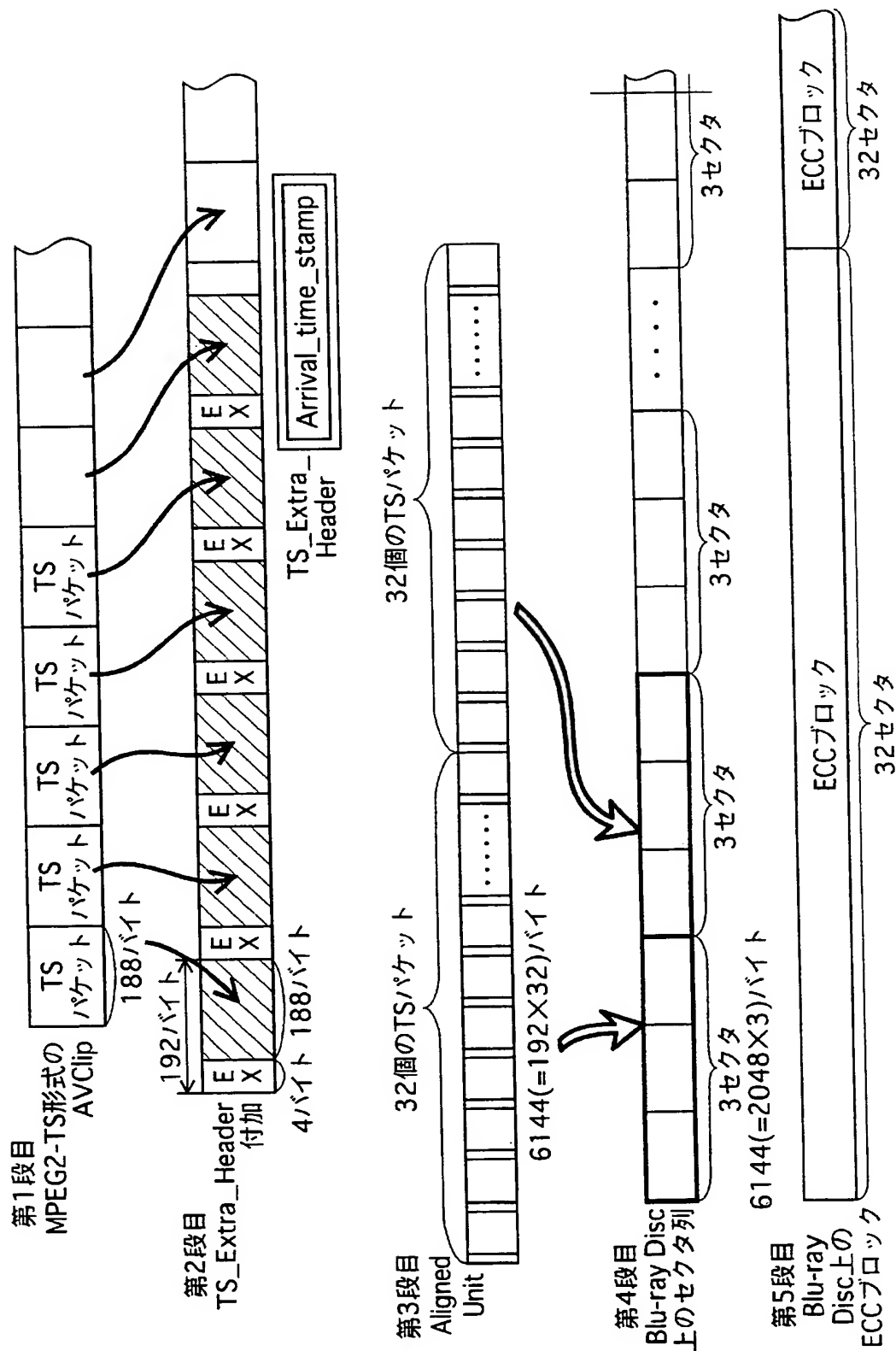




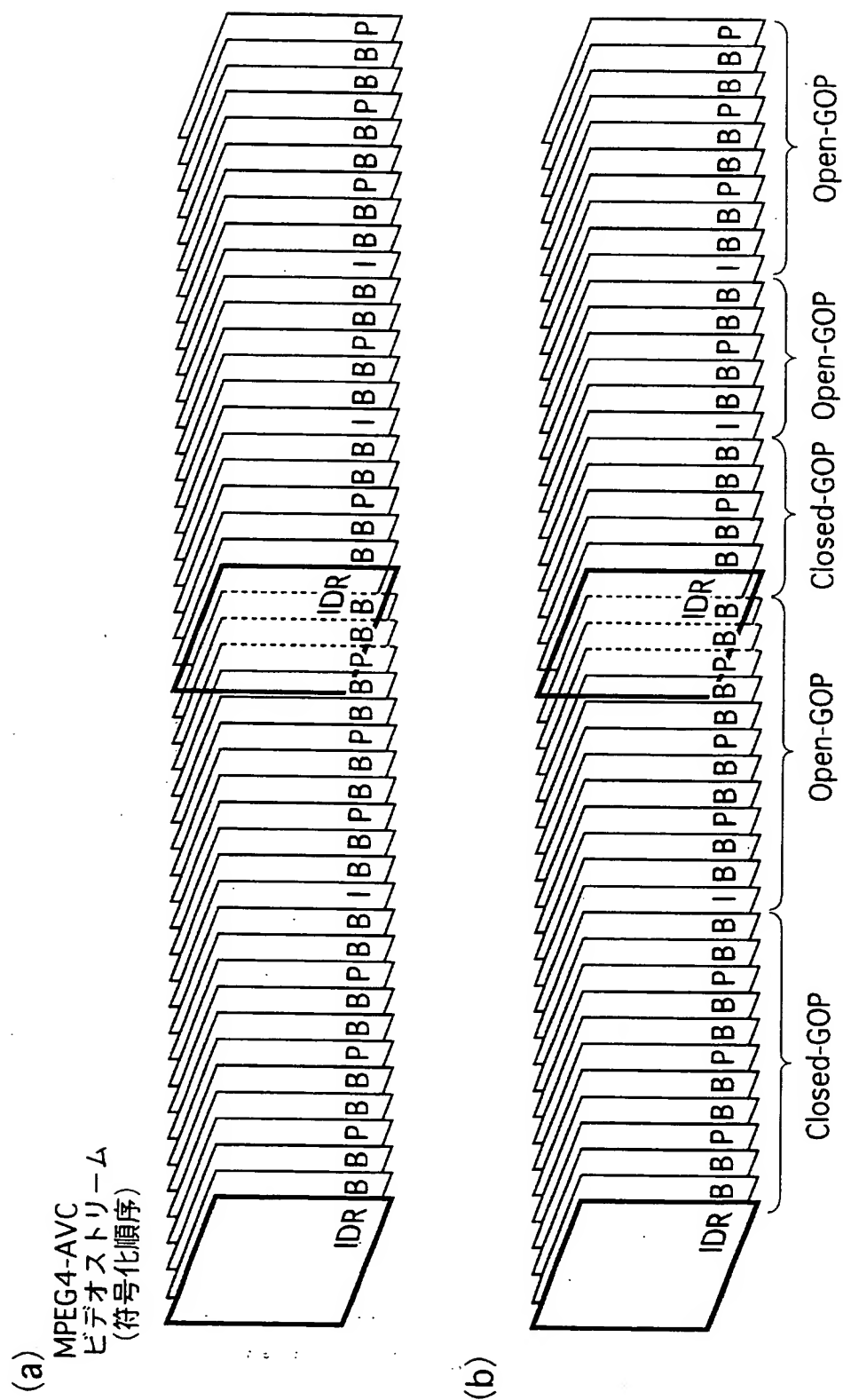
[図3]



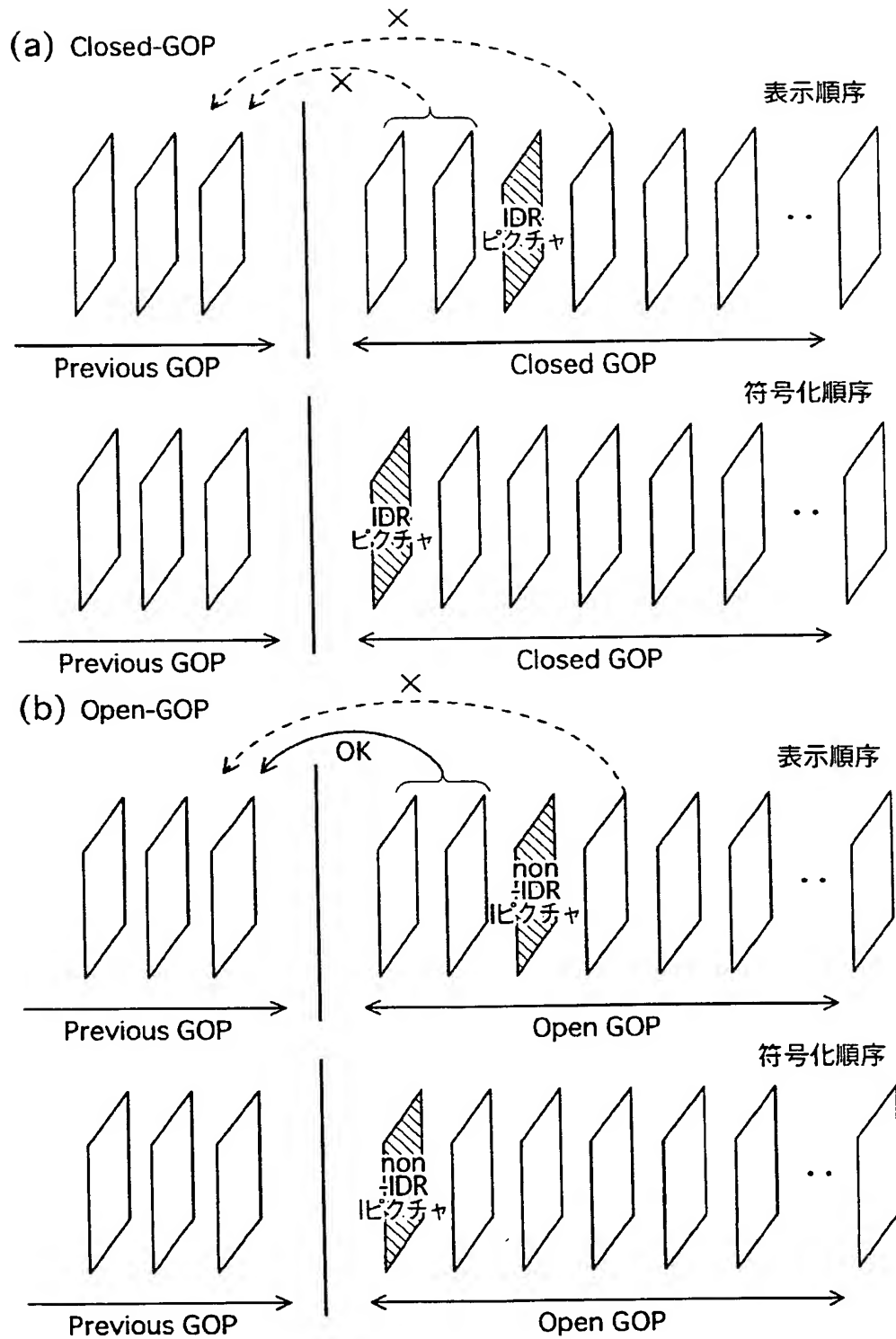
[図4]



[図5]



[図6]



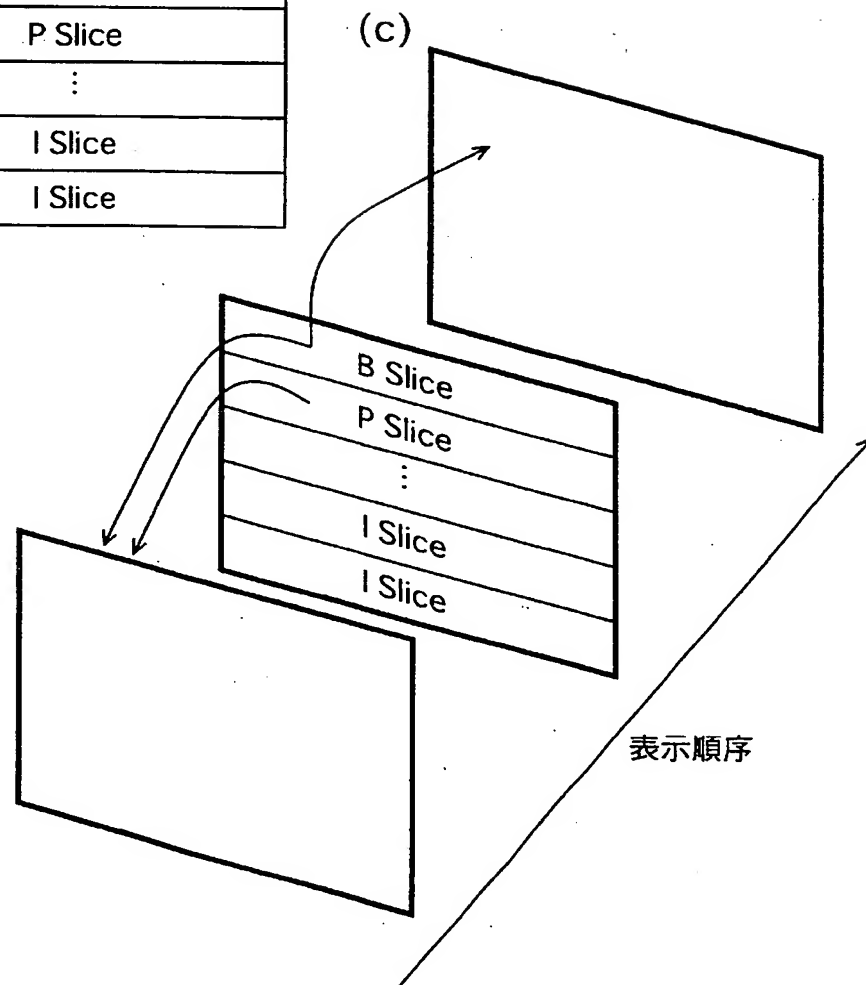
[図7]

(a) MPEG4-AVCにおける  
IDRピクチャ

I Slice
I Slice
⋮
I Slice
I Slice

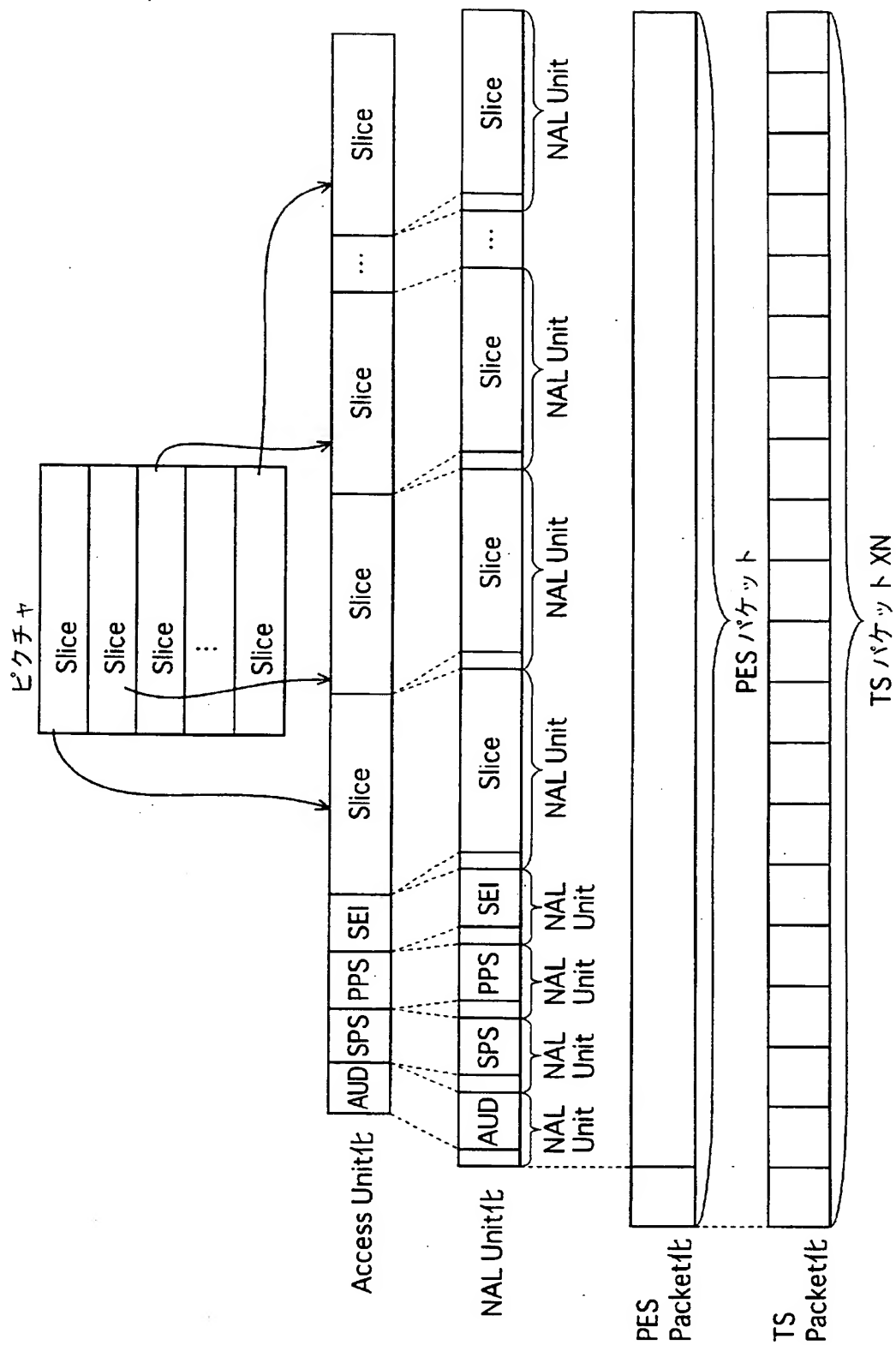
(b) Non-IDR Iピクチャ

B Slice
P Slice
⋮
I Slice
I Slice

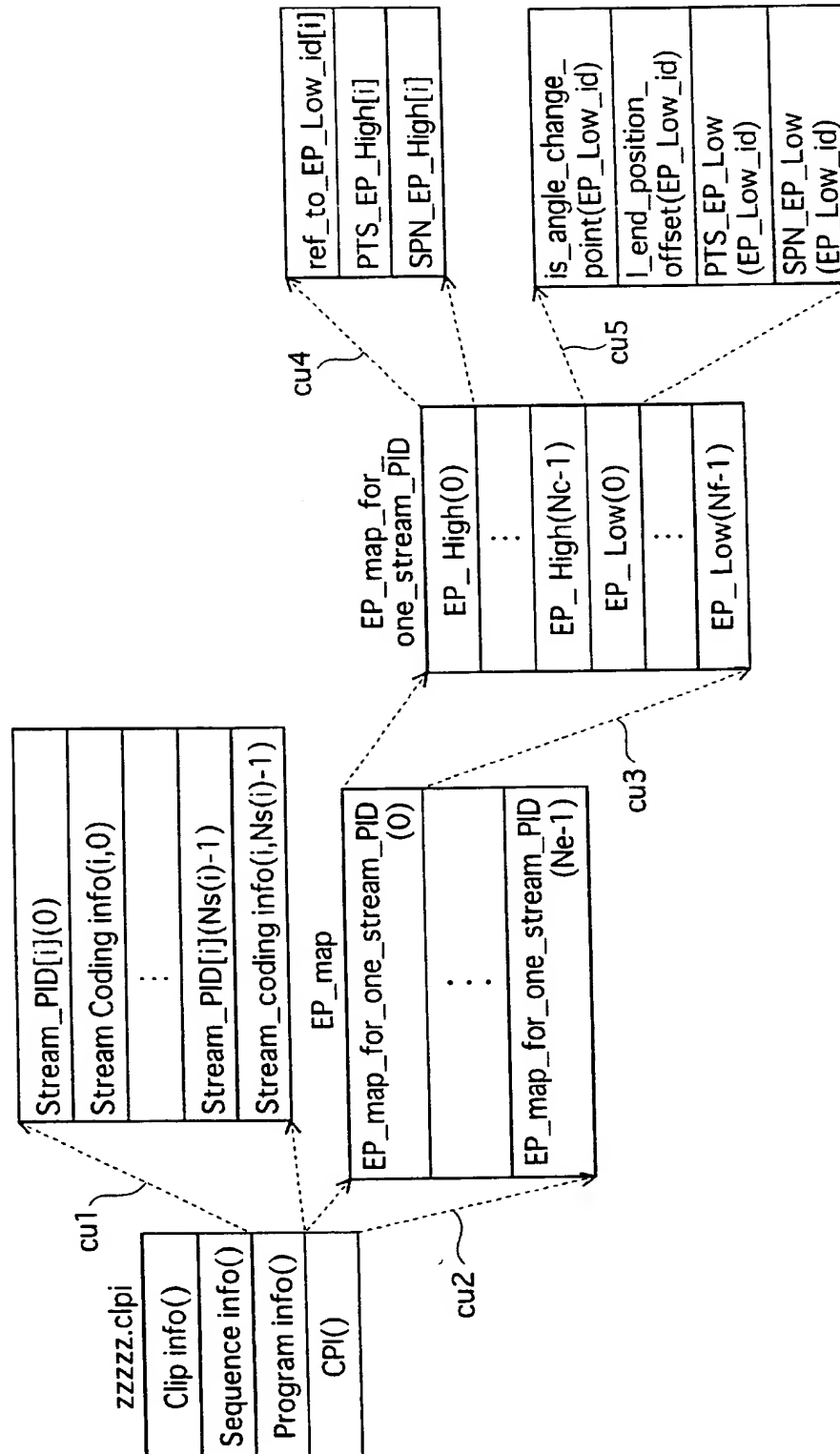




[図9]



[図10]





[図11]

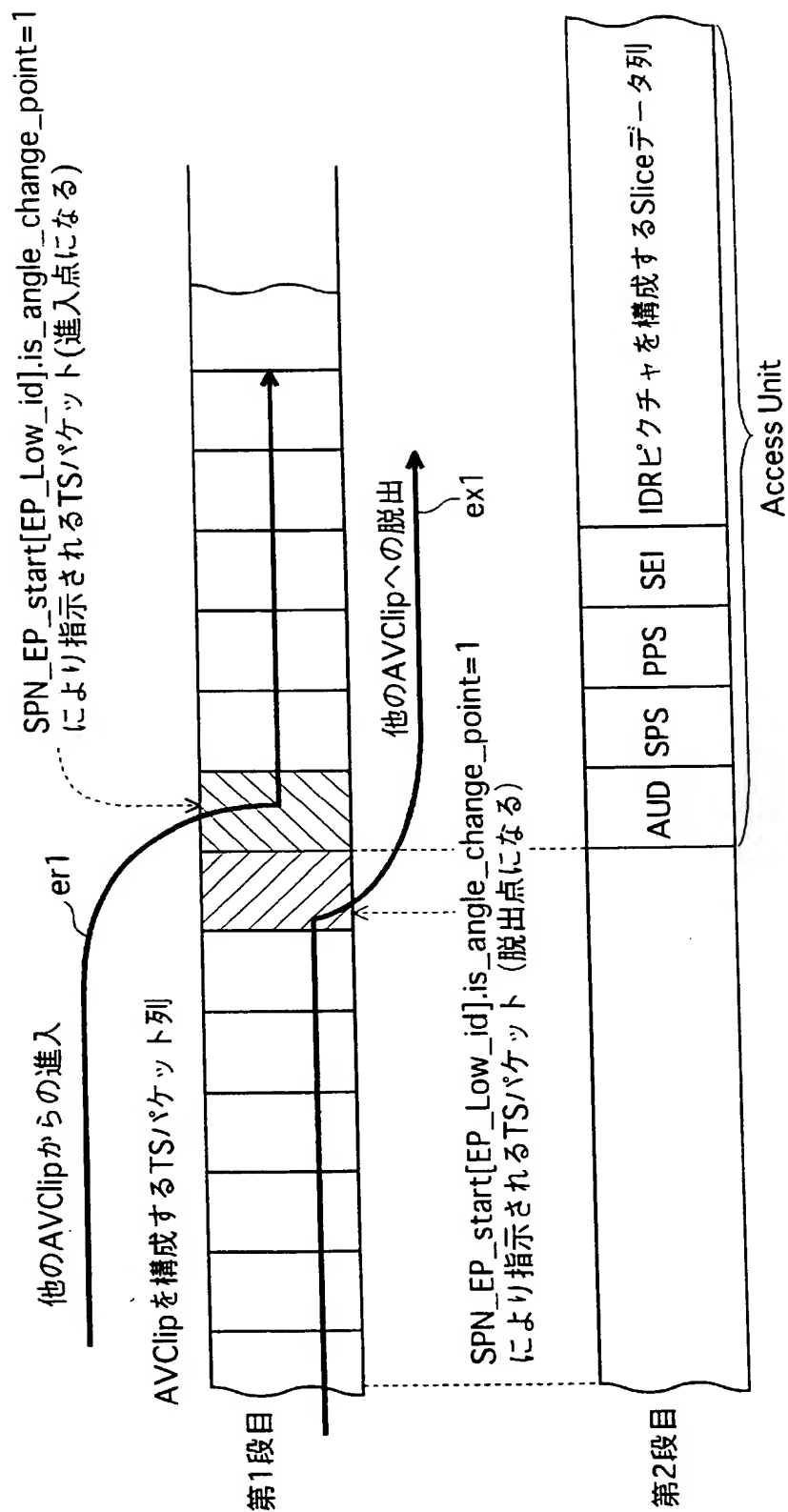
(a)

Stream_Coding_Info	
Stream_Coding_type	← MPEG4-AVC, MPEG2-Video
Video_format	← 480i, 576i, 480p, 1080i, 720p, 1080p
frame_rate	← 23.976, 29.97, 59.94
aspect_ratio	← 4:3, 16:9

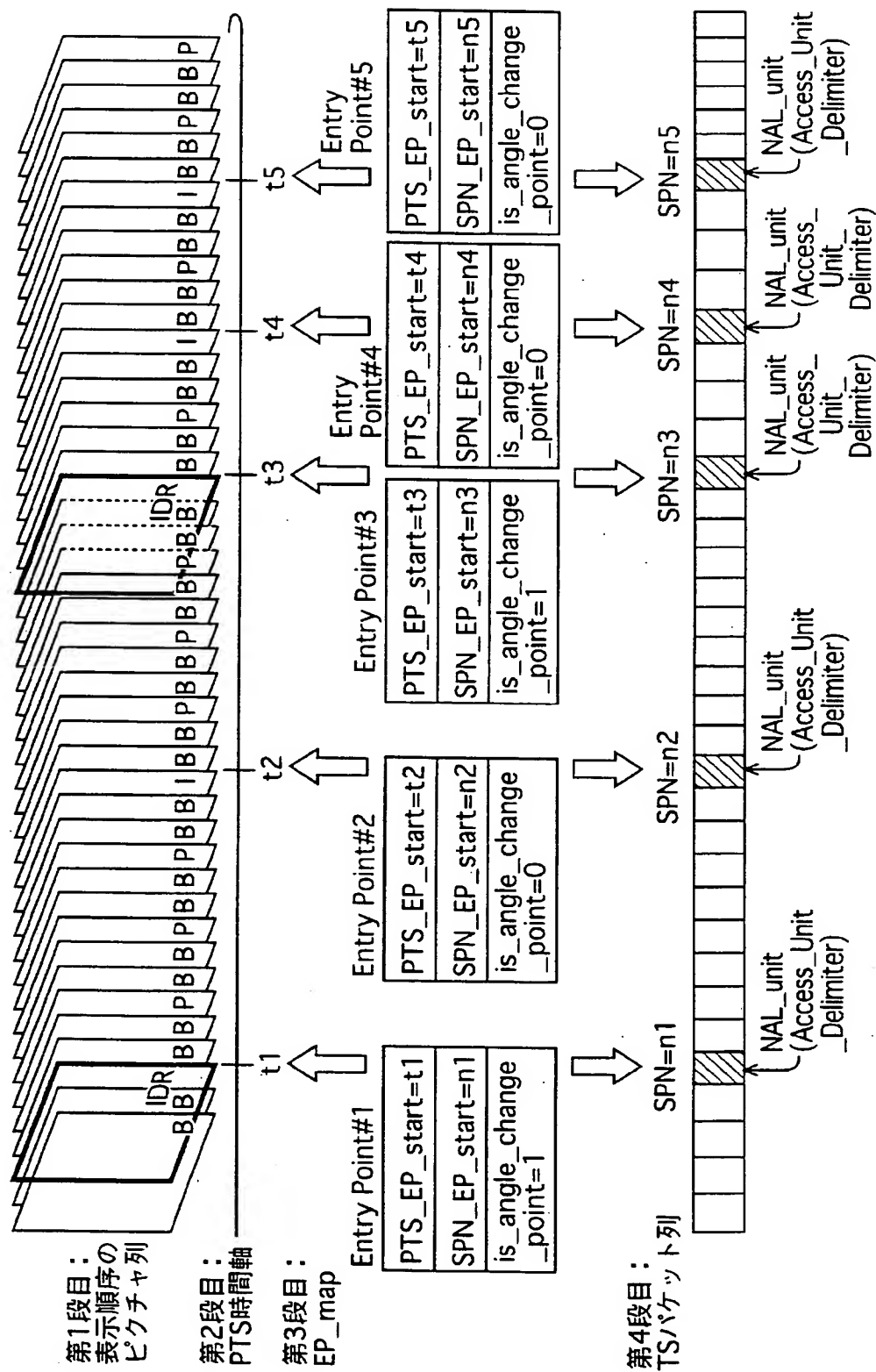
(b)

Stream_Coding_Info	
Stream_Coding_type	← LPCM, DolbyAC-3, Dts
audio_presentation_type	← ステレオ、モノラル、マルチ
Sampling_frequency	← 48kHz, 96kHz, 192kHz
audio_language_code	

[図12]



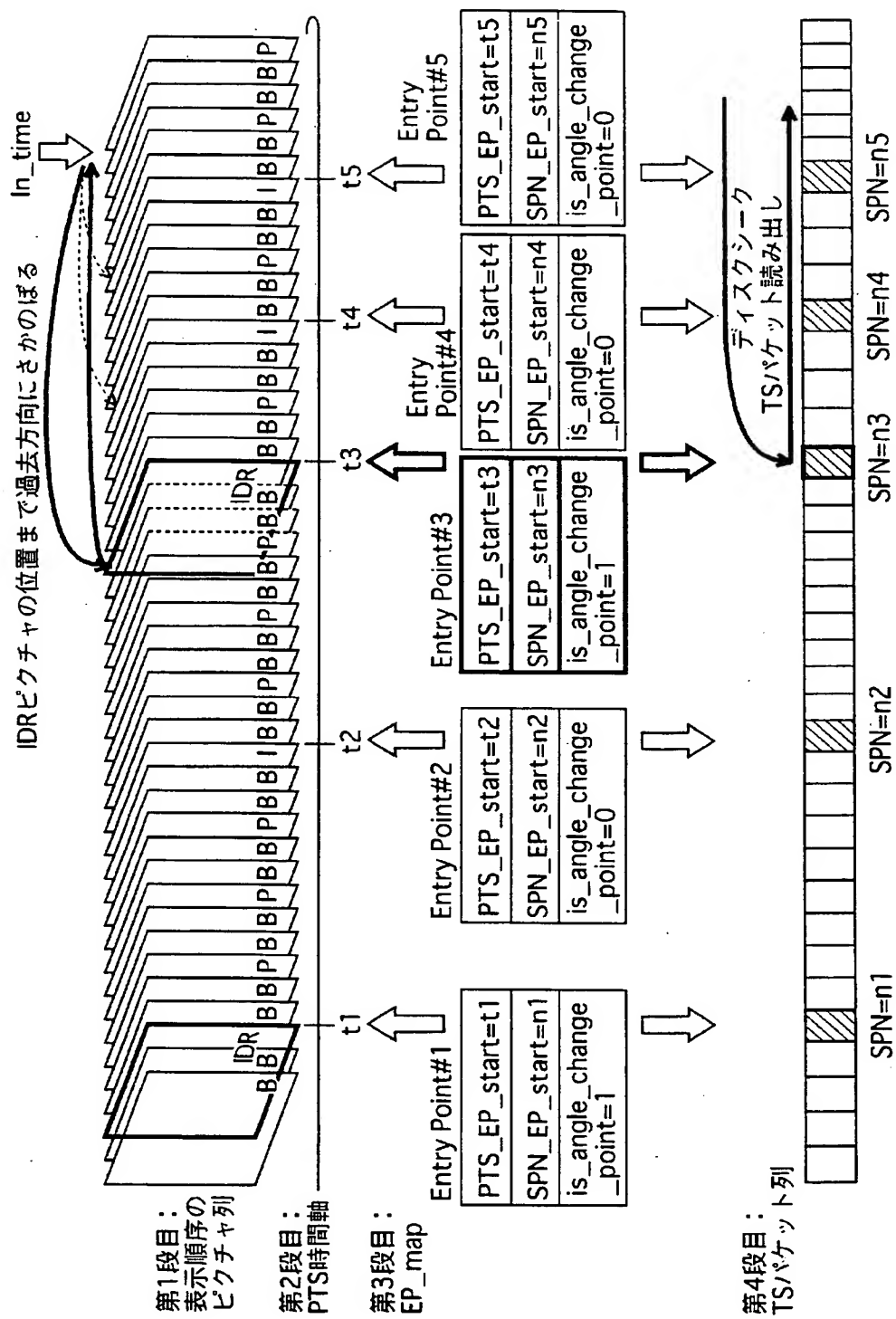
[図13]



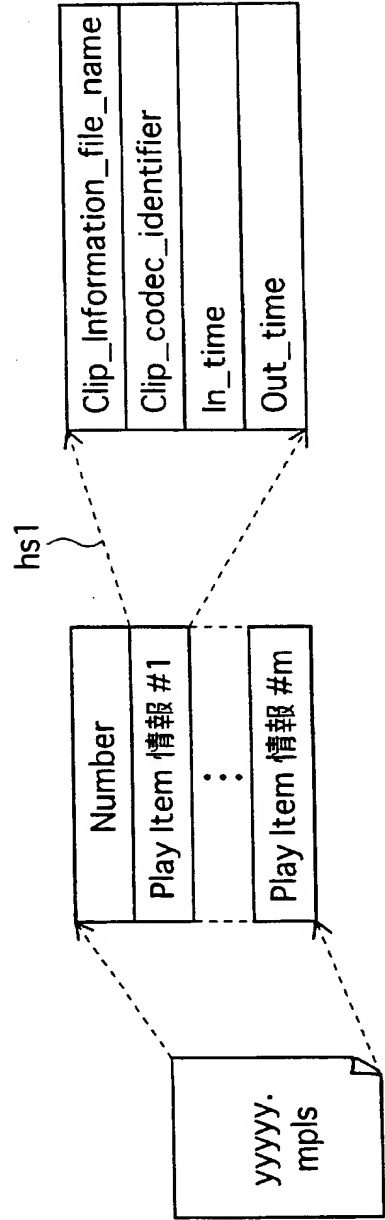
[図14]

EP_Low(O)~(Nf-1)				EP_High(O)~(Nc-1)			
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
is_angle_change_point (i)=1	PTS_EP_Low (i)=t1の下位ビット	SPN_EP_Low (i)=n1の下位ビット		ref_to_EP _Low_id(A) =EP_Low(i) への参照値	PTS_EP_ High(A) =t1~t5の 共通の上位 ビット	SPN_EP_ High_(A) =n1~n5の 共通の上位 ビット	
is_angle_change_point (i+1)=0	PTS_EP_Low (i+1)=t2の下位ビット	SPN_EP_Low (i+1)=n2の下位ビット		ref_to_EP _Low_id (A+1)	PTS_EP_ High(A+1)	SPN_EP_ High_(A+1)	
is_angle_change_point (i+2)=1	PTS_EP_Low (i+2)=t3の下位ビット	SPN_EP_Low (i+2)=n3の下位ビット		ref_to_EP _Low_id (A+2)	PTS_EP_ High(A+2)	SPN_EP_ High_(A+2)	
is_angle_change_point (i+3)=0	PTS_EP_Low (i+3)=t4の下位ビット	SPN_EP_Low (i+3)=n4の下位ビット		⋮	⋮	⋮	
is_angle_change_point (i+4)=0	PTS_EP_Low (i+4)=t5の下位ビット	SPN_EP_Low (i+4)=n5の下位ビット					
⋮	⋮	⋮	⋮				
is_angle_change_point (j)=0	PTS_EP_Low (j)	SPN_EP_Low (j)					
is_angle_change_point (j+1)=0	PTS_EP_Low (j+1)	SPN_EP_Low (j+1)					
is_angle_change_point (j+2)=0	PTS_EP_Low (j+2)	SPN_EP_Low (j+2)					
⋮	⋮	⋮	⋮				
is_angle_change_point (k)=0	PTS_EP_Low (k)	SPN_EP_Low (k)					
is_angle_change_point (k+1)=0	PTS_EP_Low (k+1)	SPN_EP_Low (k+1)					
is_angle_change_point (k+2)=0	PTS_EP_Low (k+2)	SPN_EP_Low (k+2)					
⋮	⋮	⋮	⋮				

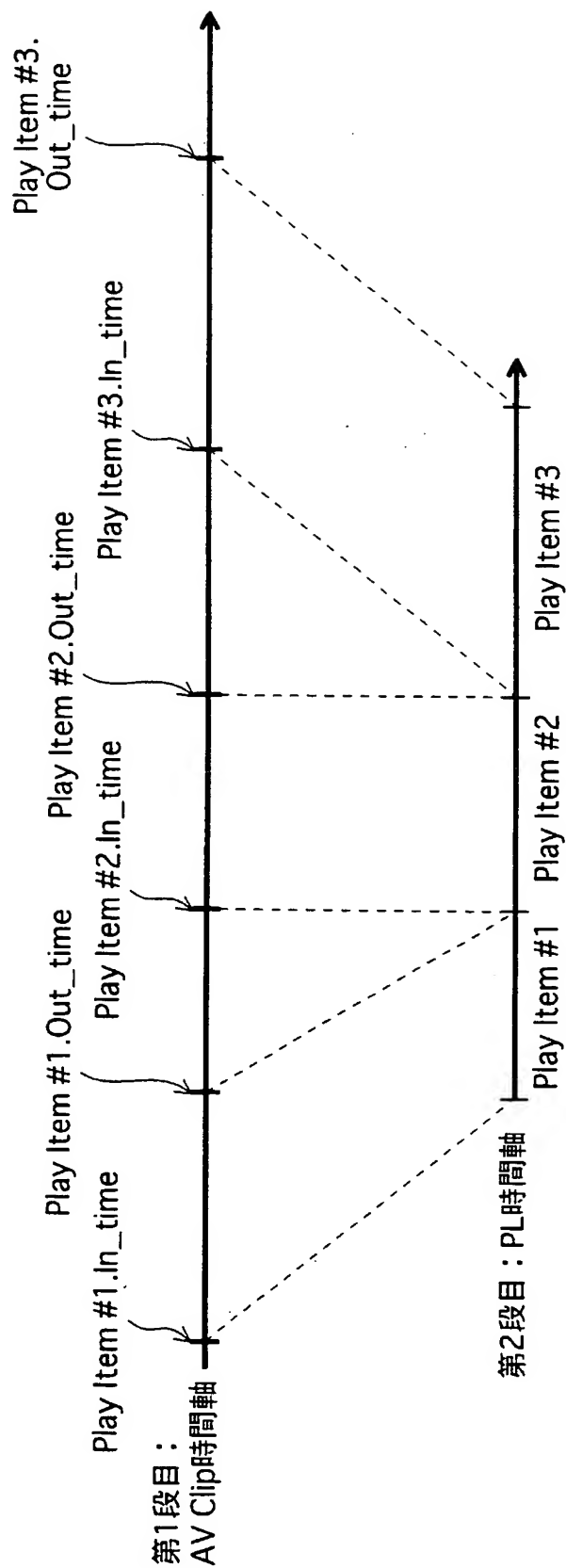
[図15]



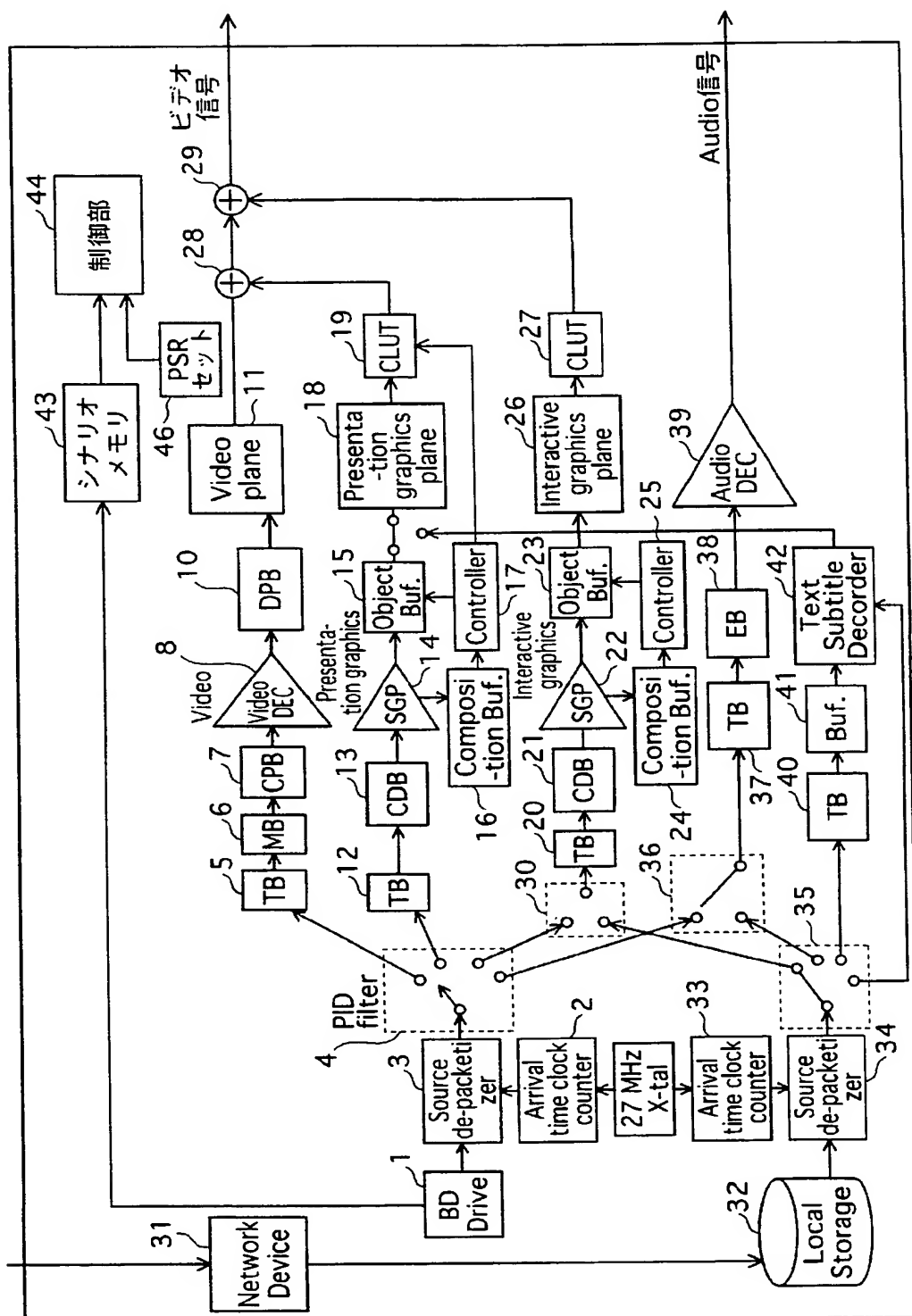
[図16]



[図17]

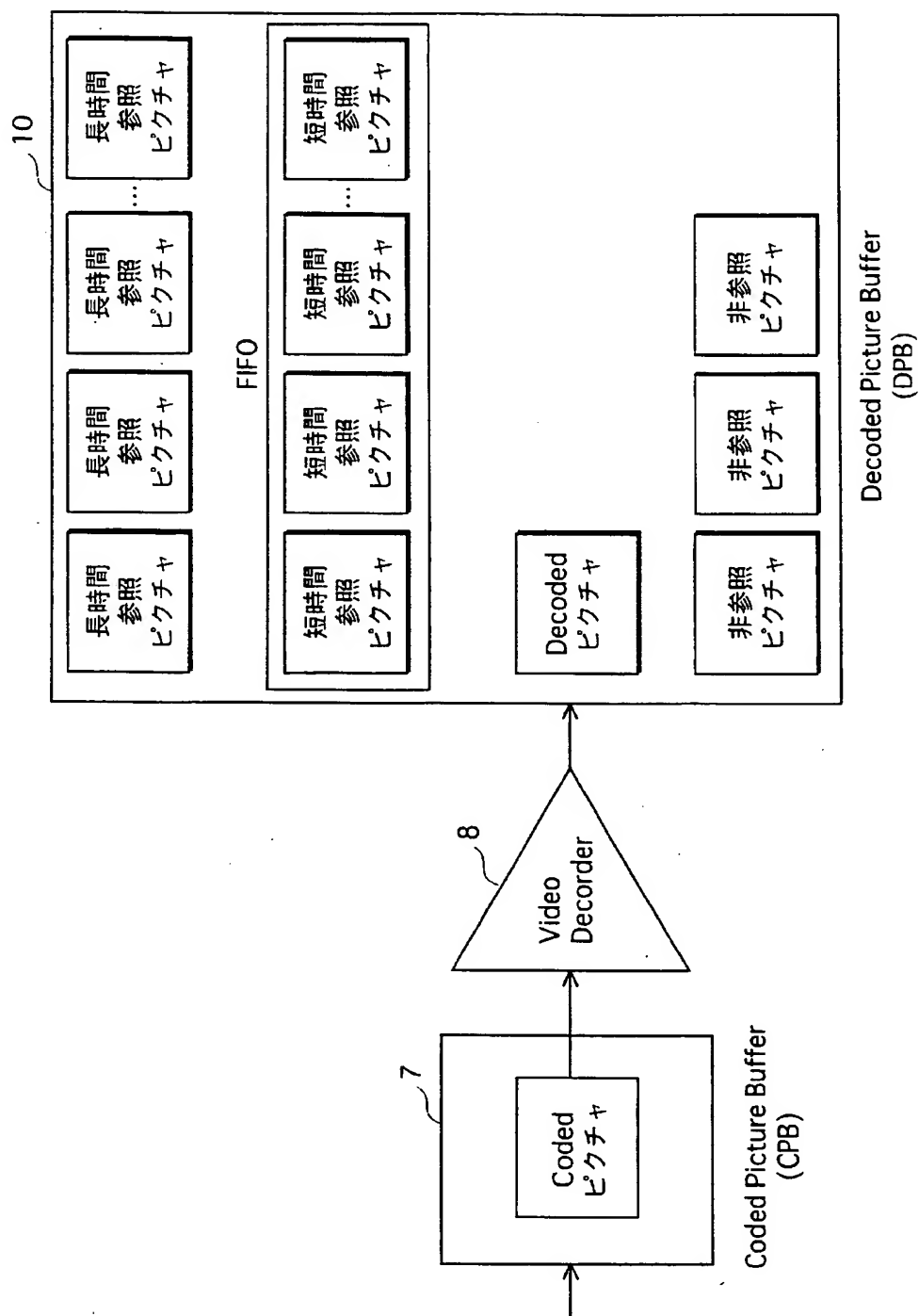


[図18]

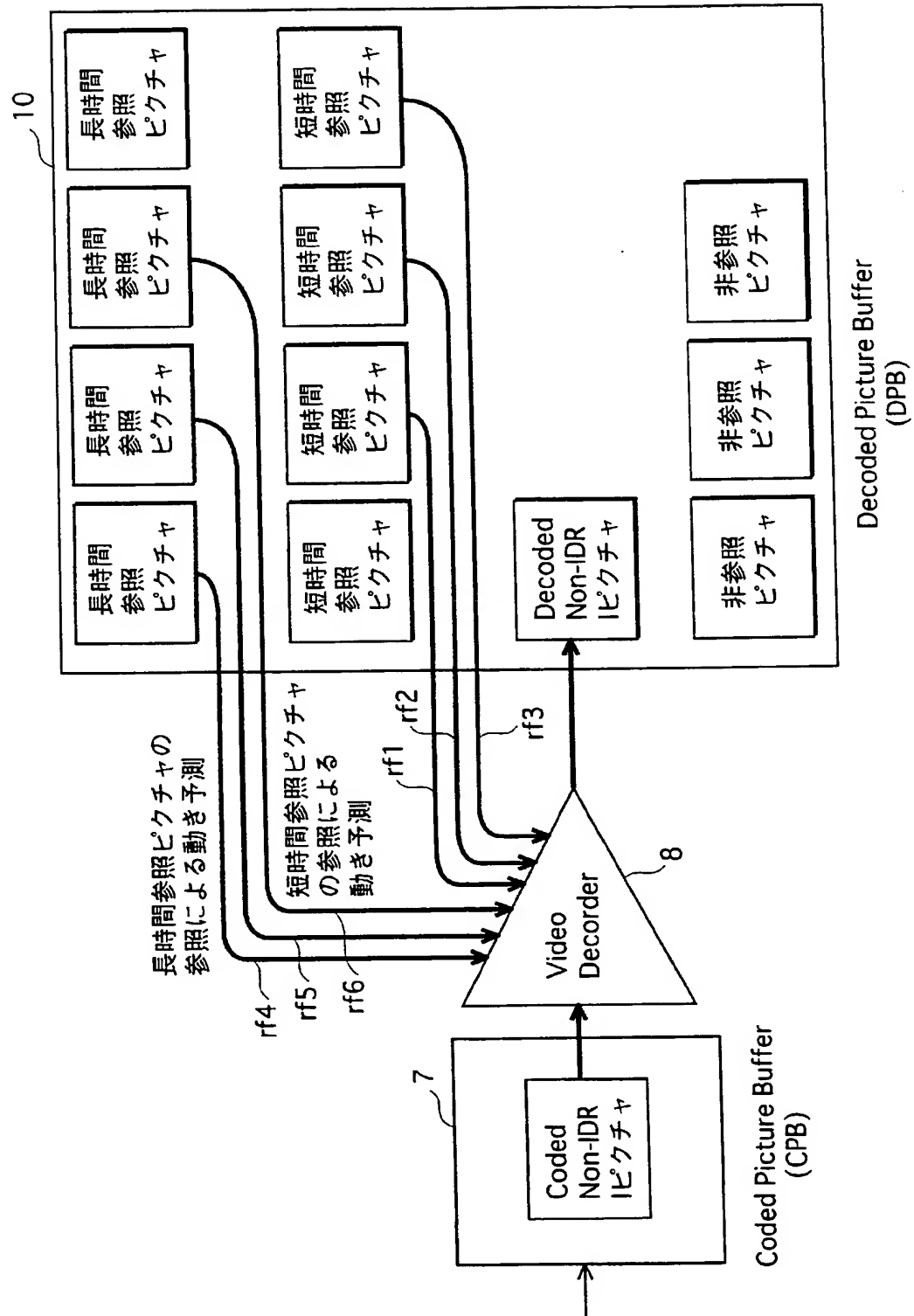




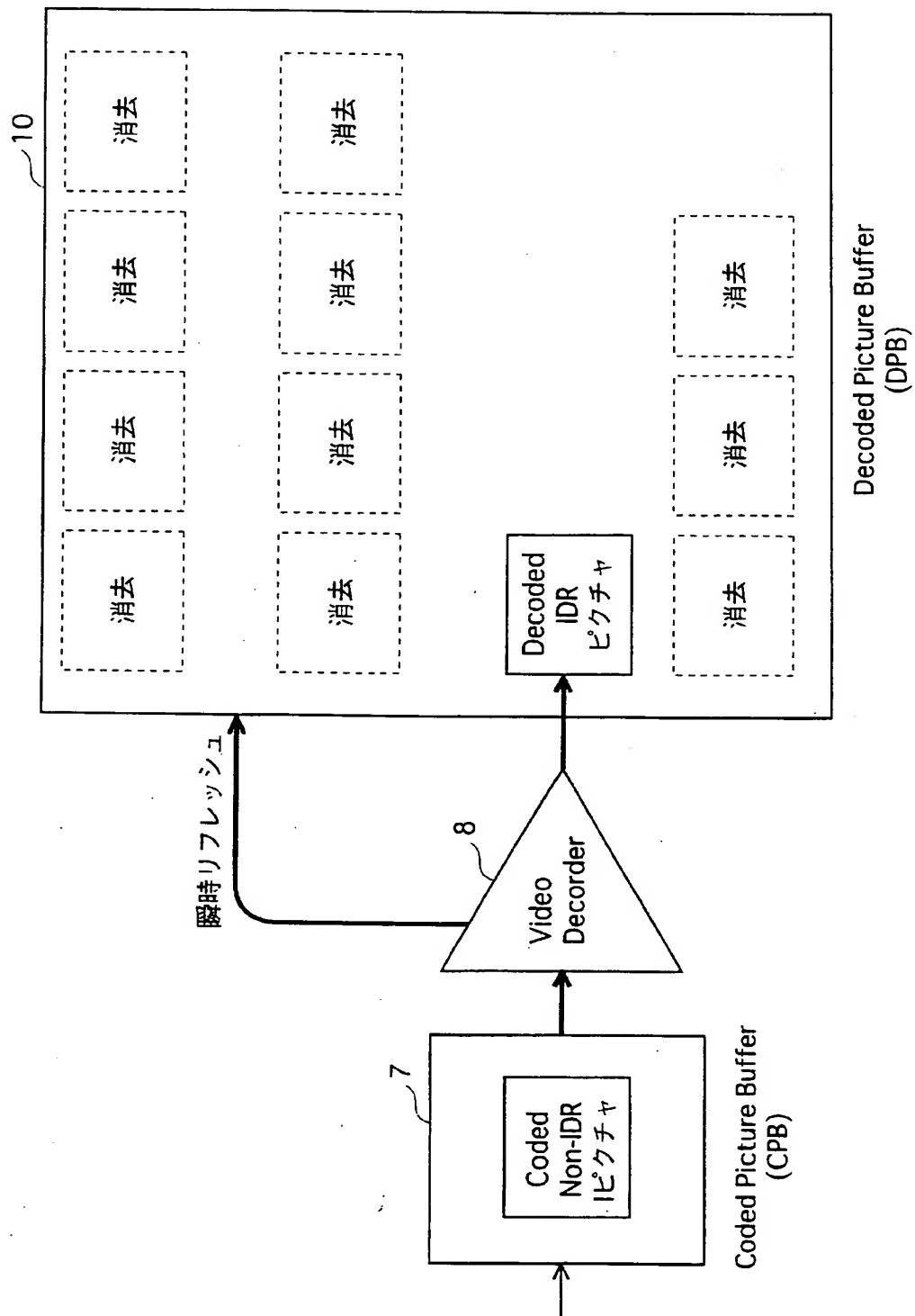
[図19]



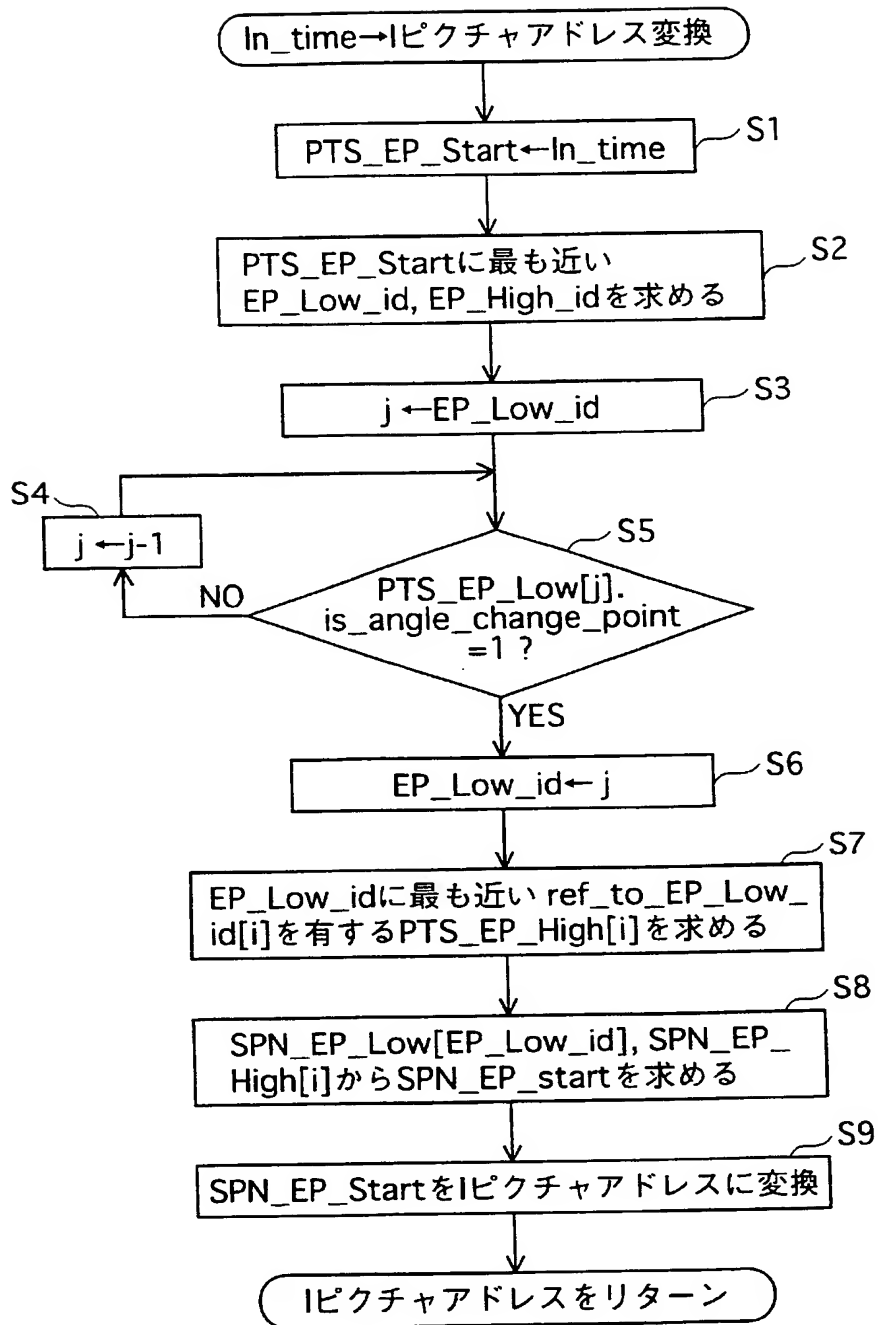
[図20]



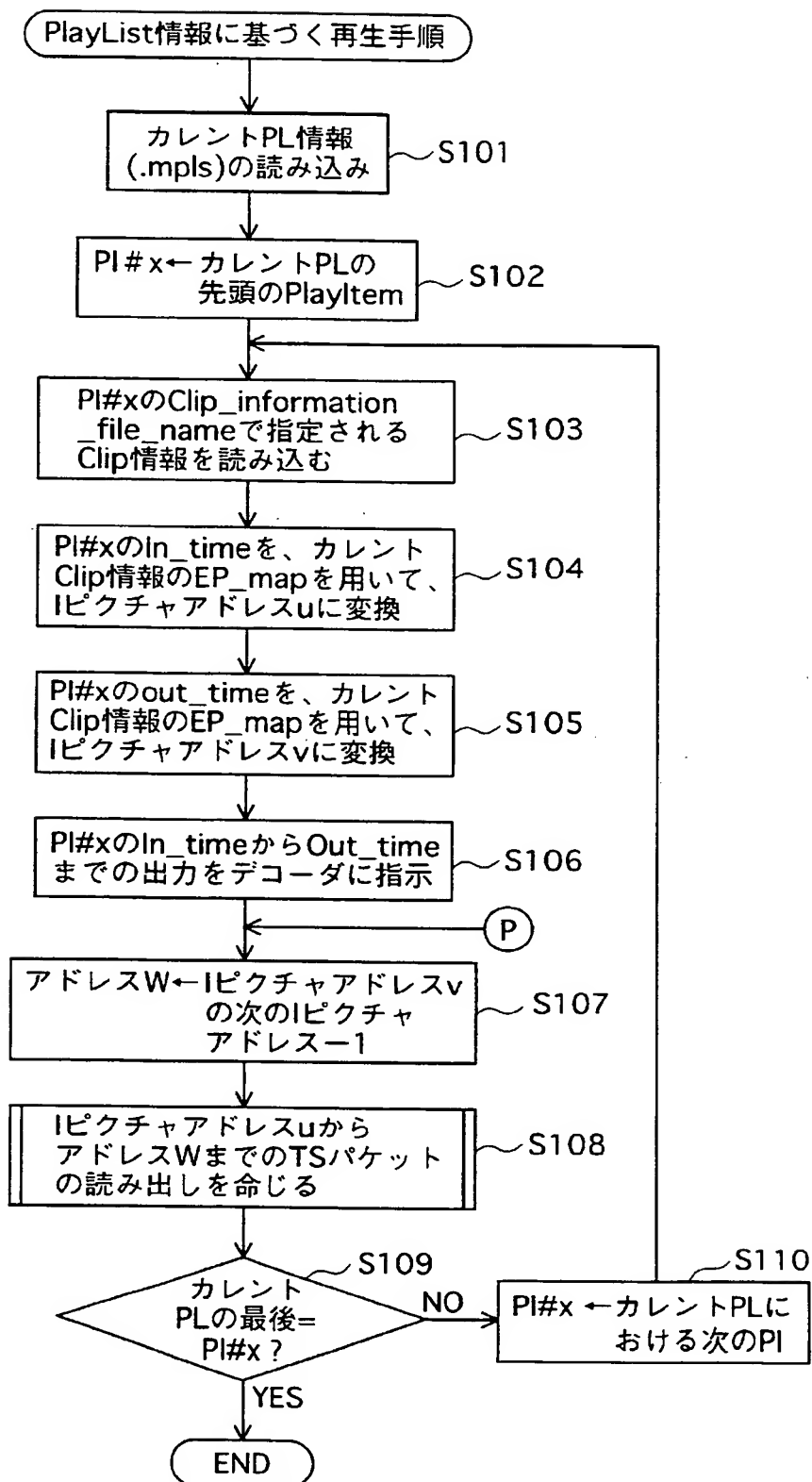
[図21]



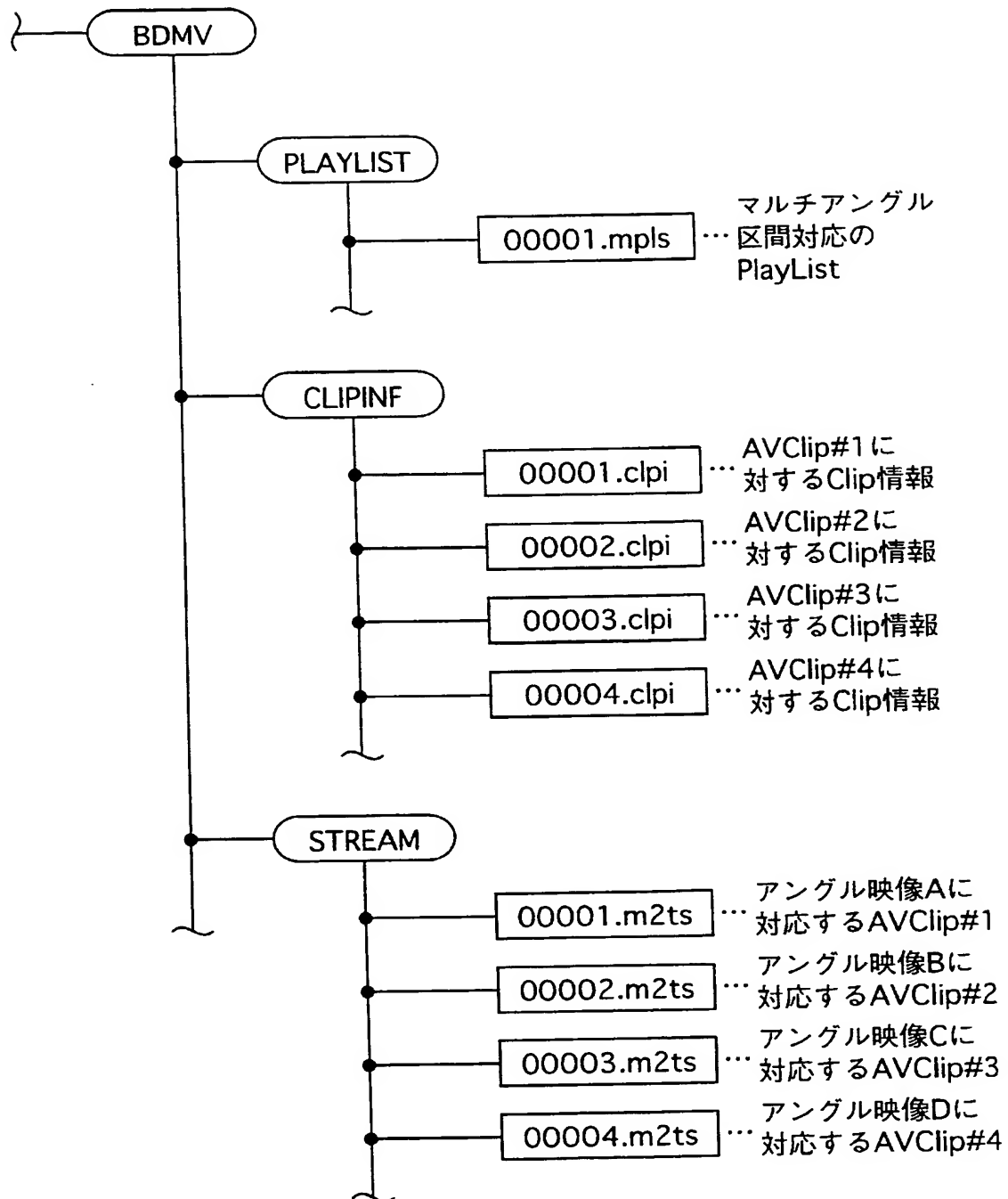
[図22]



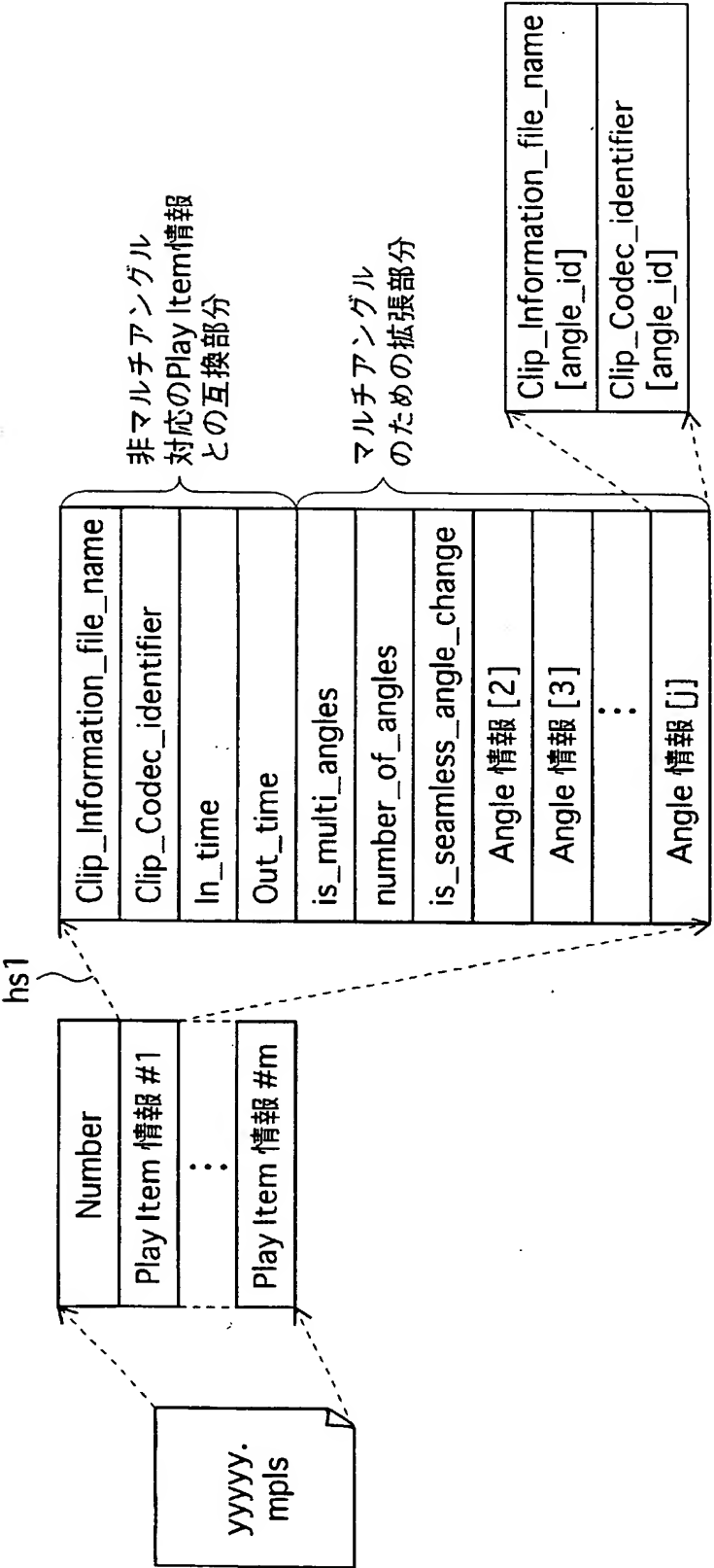
[図23]



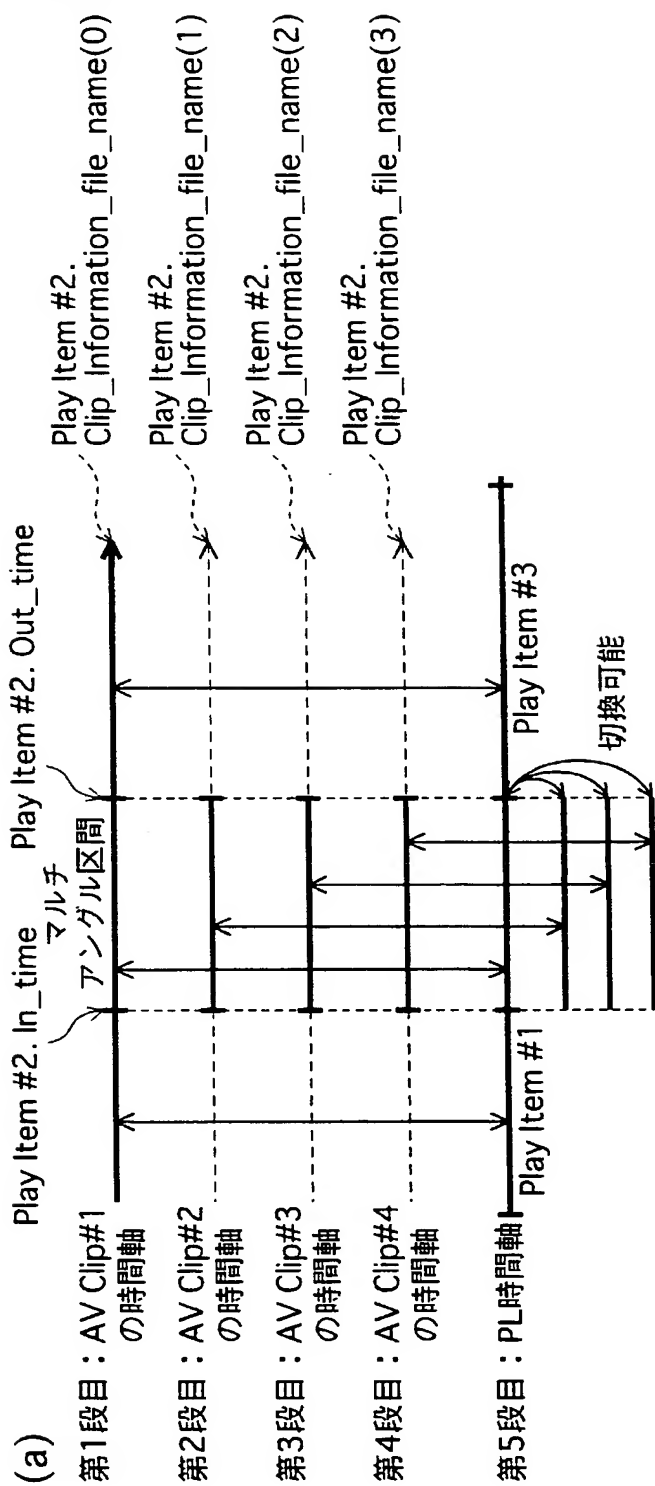
[図24]



[図25]



[図26]



(b)

PL時間軸	再生時間軸	再生時間軸	再生時間軸	再生時間軸	再生時間軸
AVClip#1.1/5	AVClip#1.2/5	AVClip#1.3/5	AVClip#1.4/5	AVClip#1.5/5	
AVClip#2.1/5	AVClip#2.2/5	AVClip#2.3/5	AVClip#2.4/5	AVClip#2.5/5	
AVClip#3.1/5	AVClip#3.2/5	AVClip#3.3/5	AVClip#3.4/5	AVClip#3.5/5	
AVClip#4.1/5	AVClip#4.2/5	AVClip#4.3/5	AVClip#4.4/5	AVClip#4.5/5	

同一の 再生時間軸 同一の 再生時間軸 同一の 再生時間軸 同一の 再生時間軸

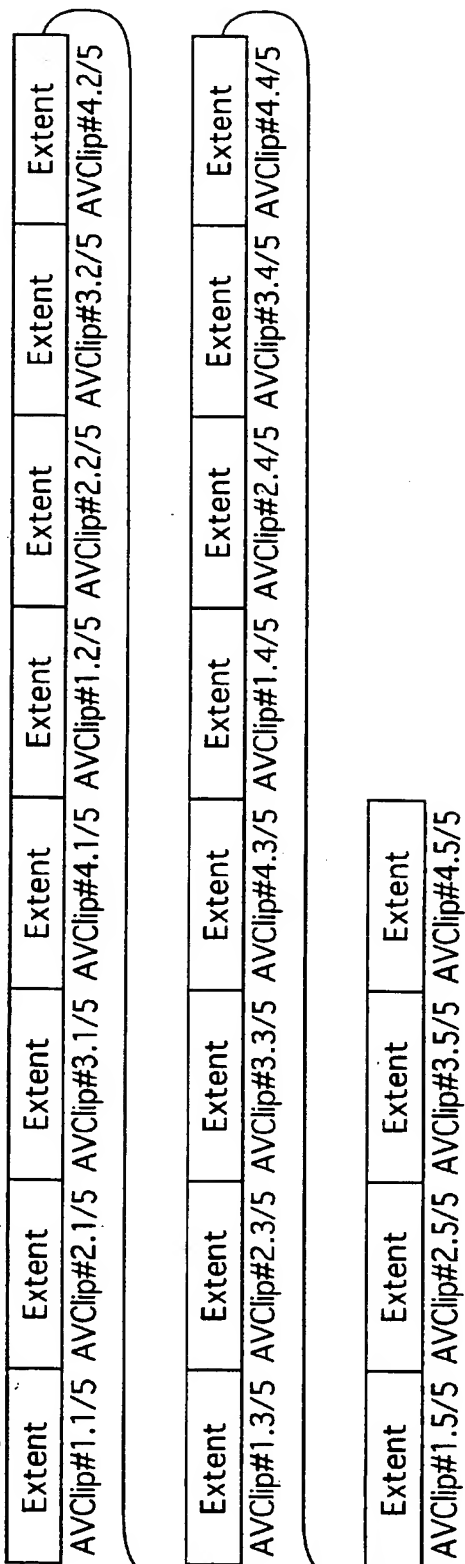
PL時間軸 : Extent



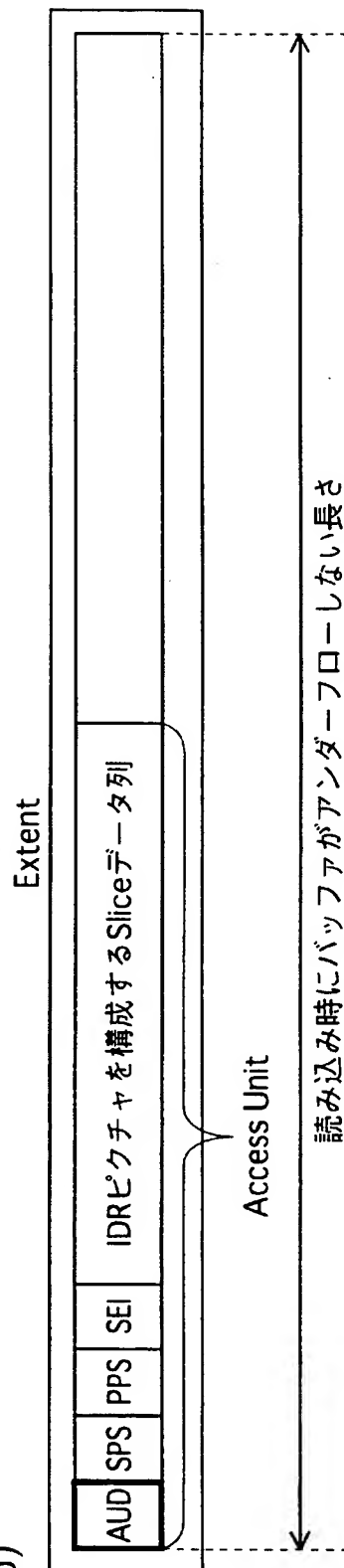
[図27]

(a)

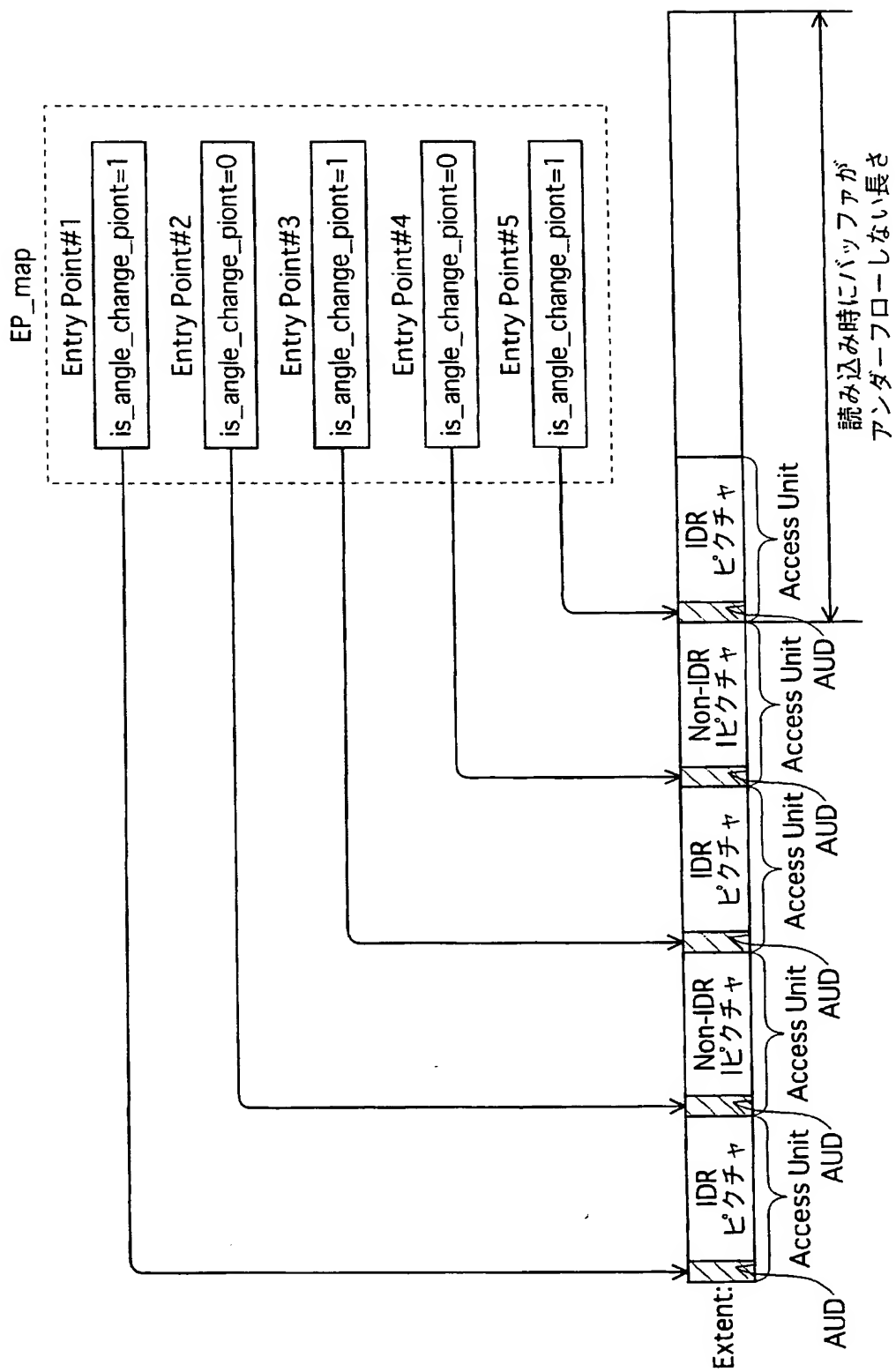
Blu-ray Disc上のAVClipアロケーション



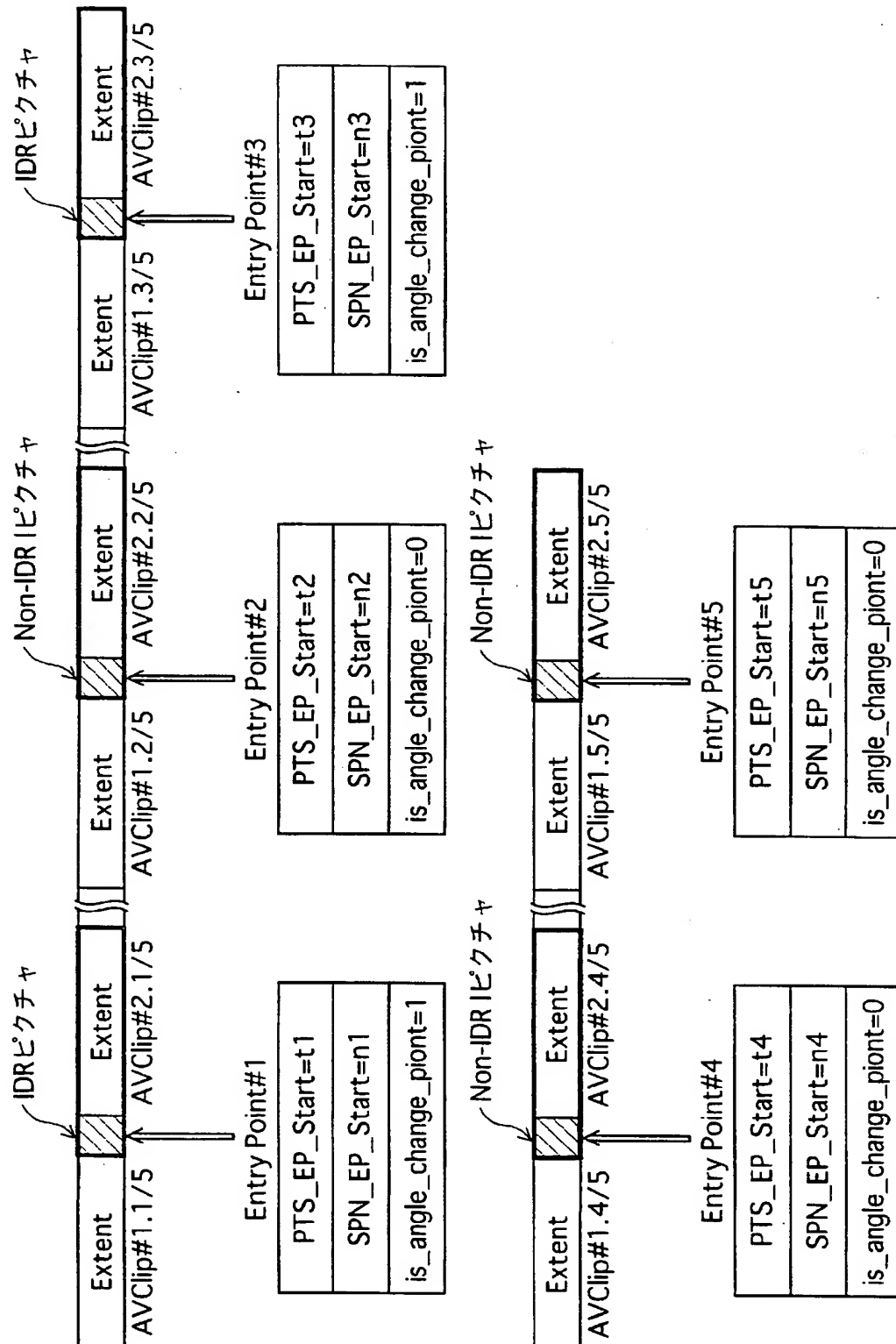
(b)



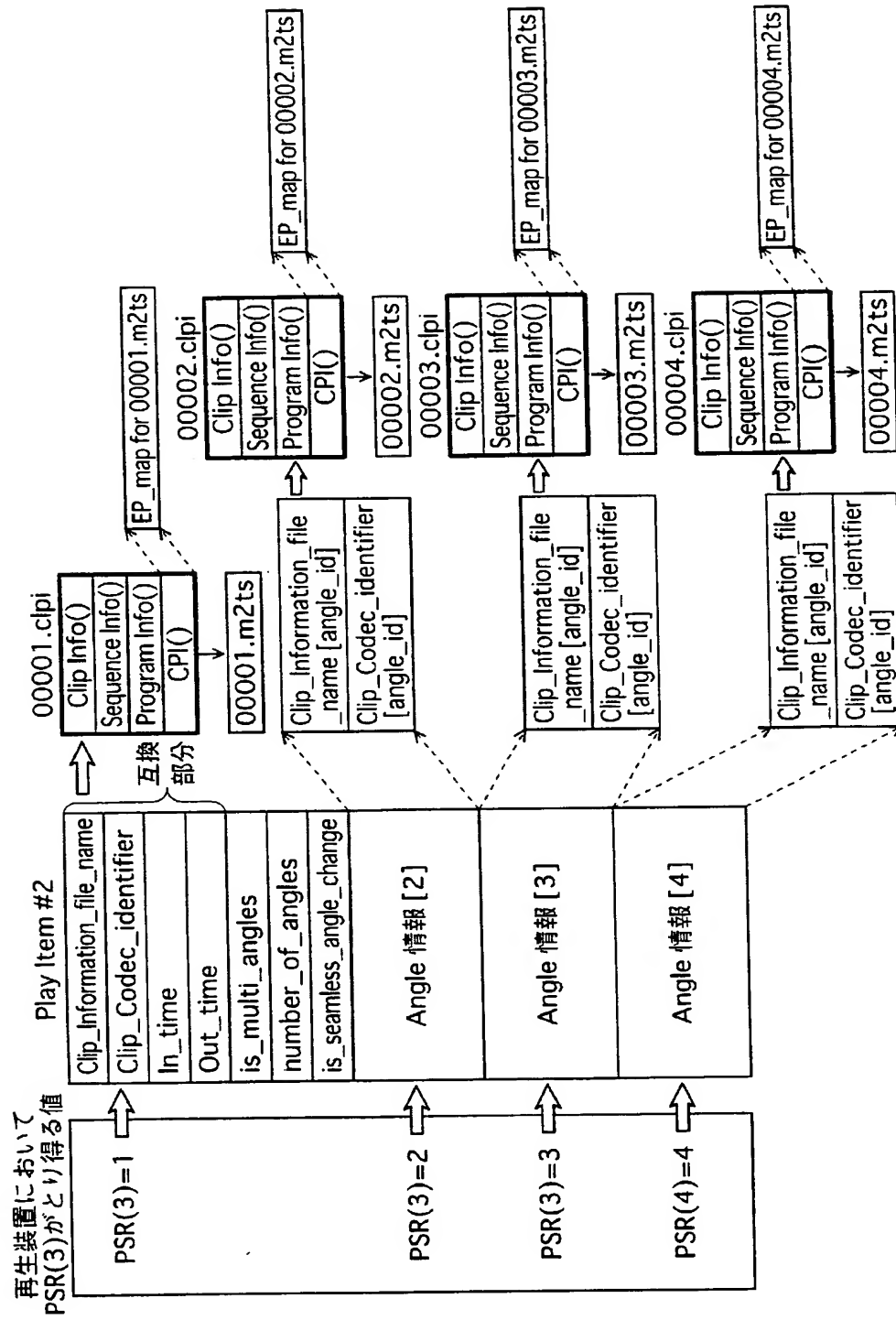
[図28]



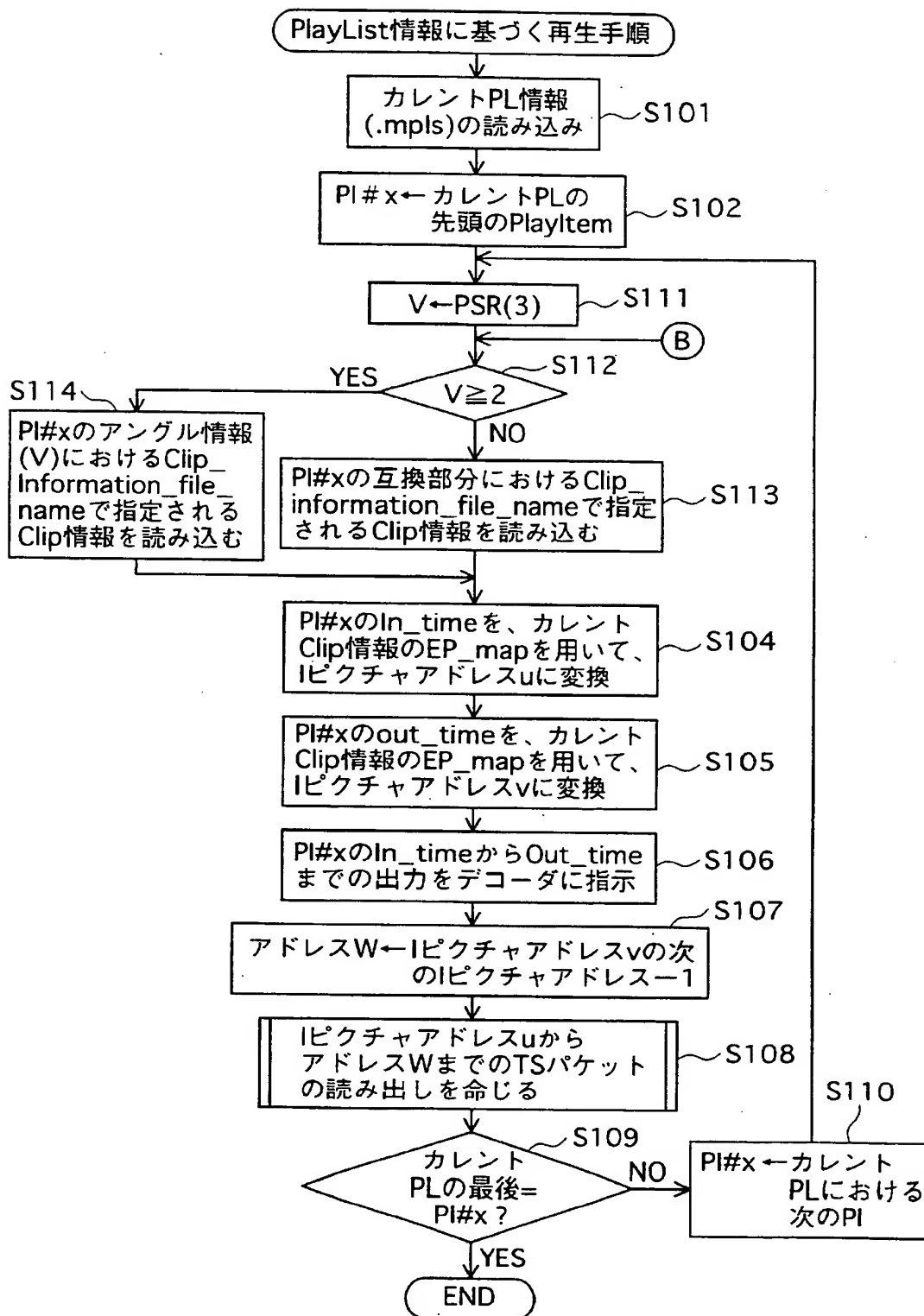
[図29]



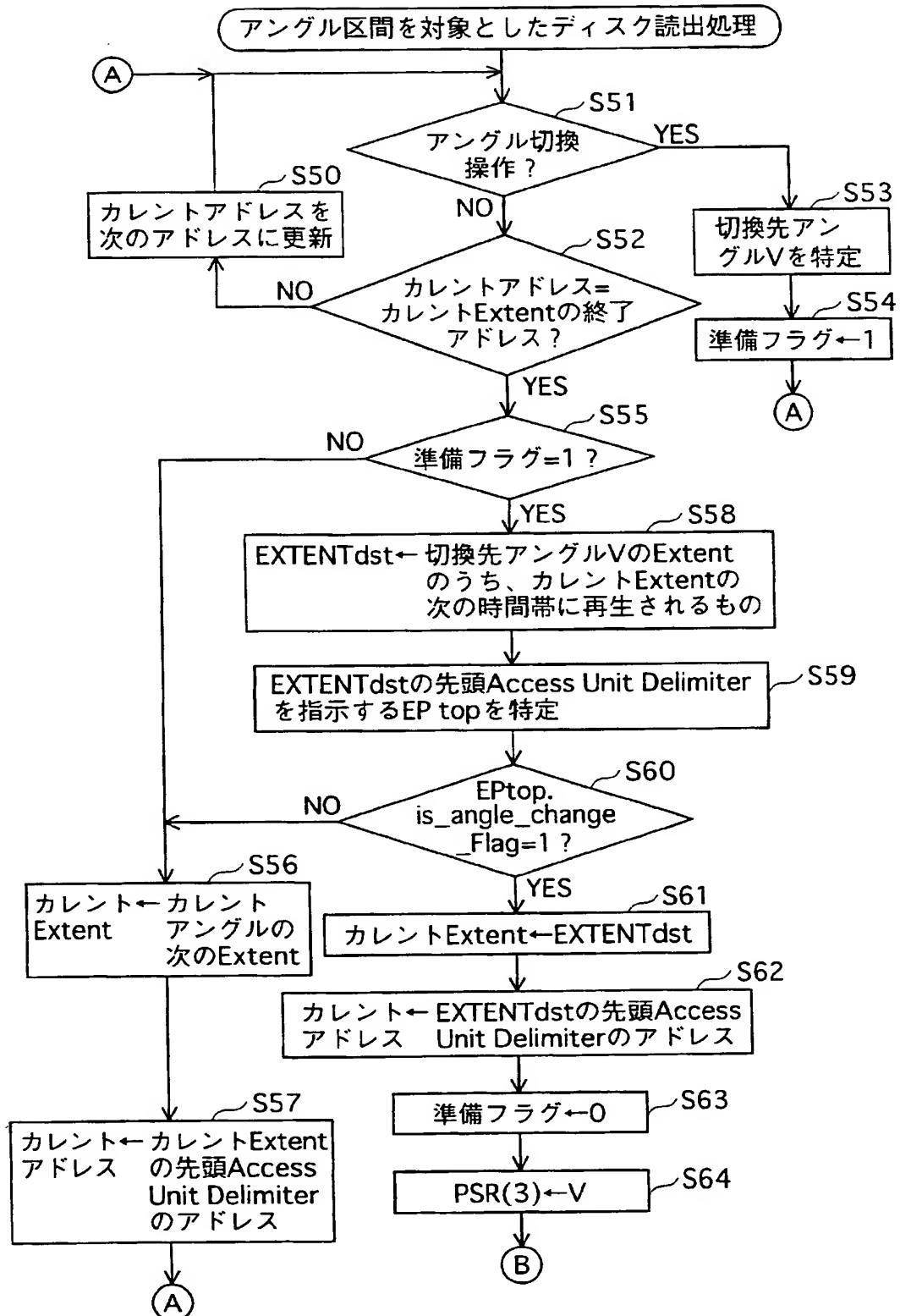
[図30]



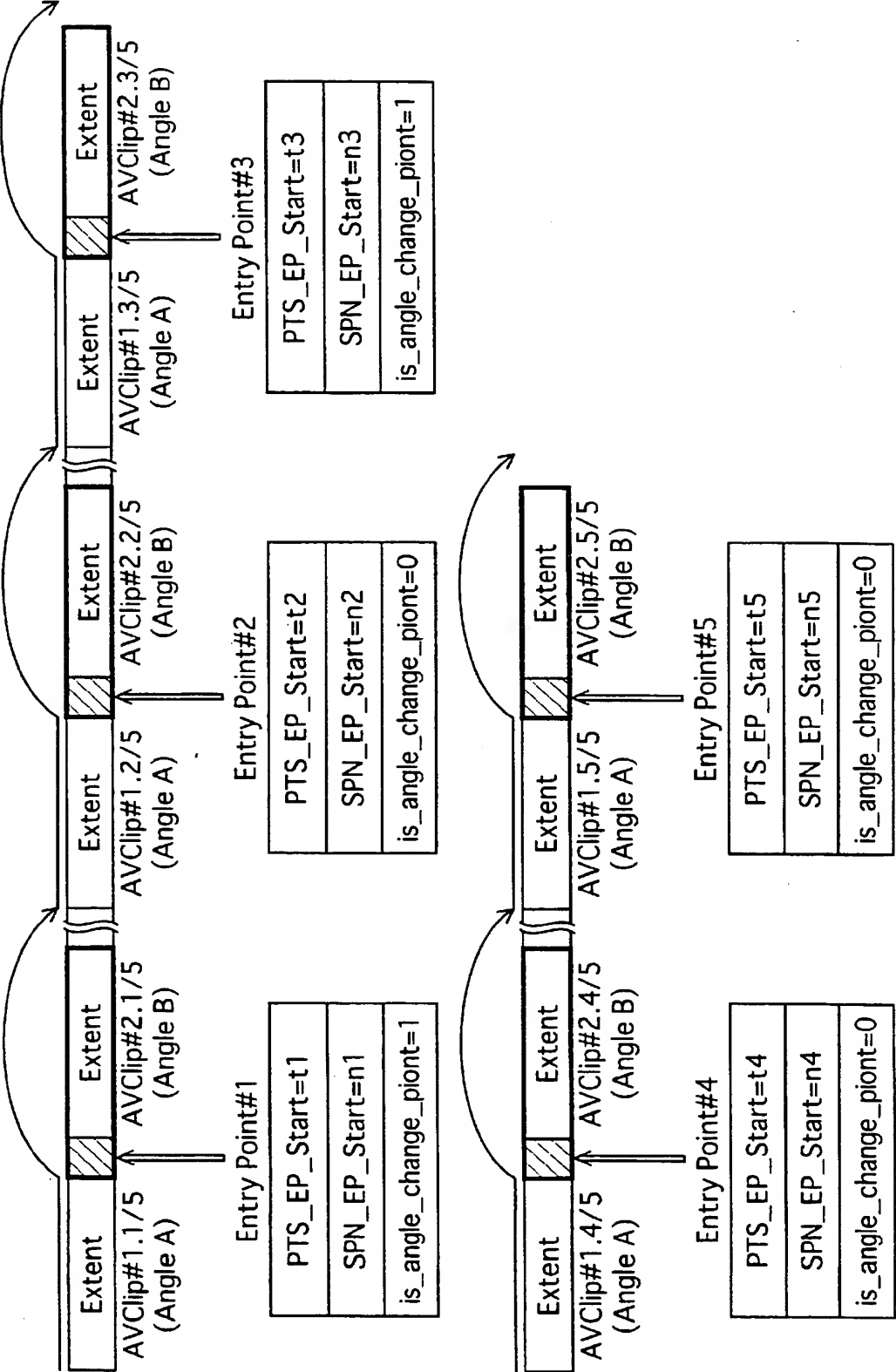
[図31]



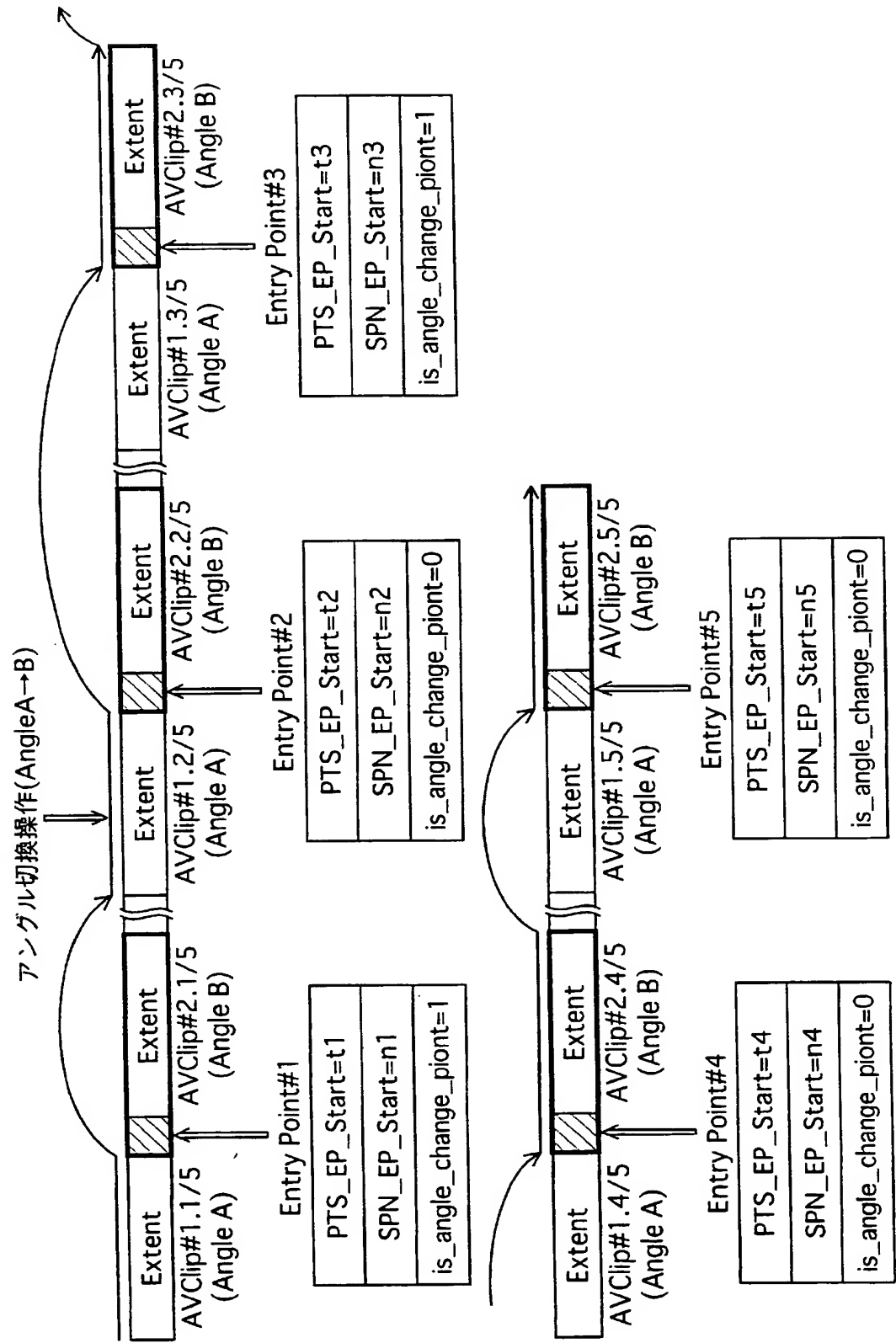
[図32]



[図33]

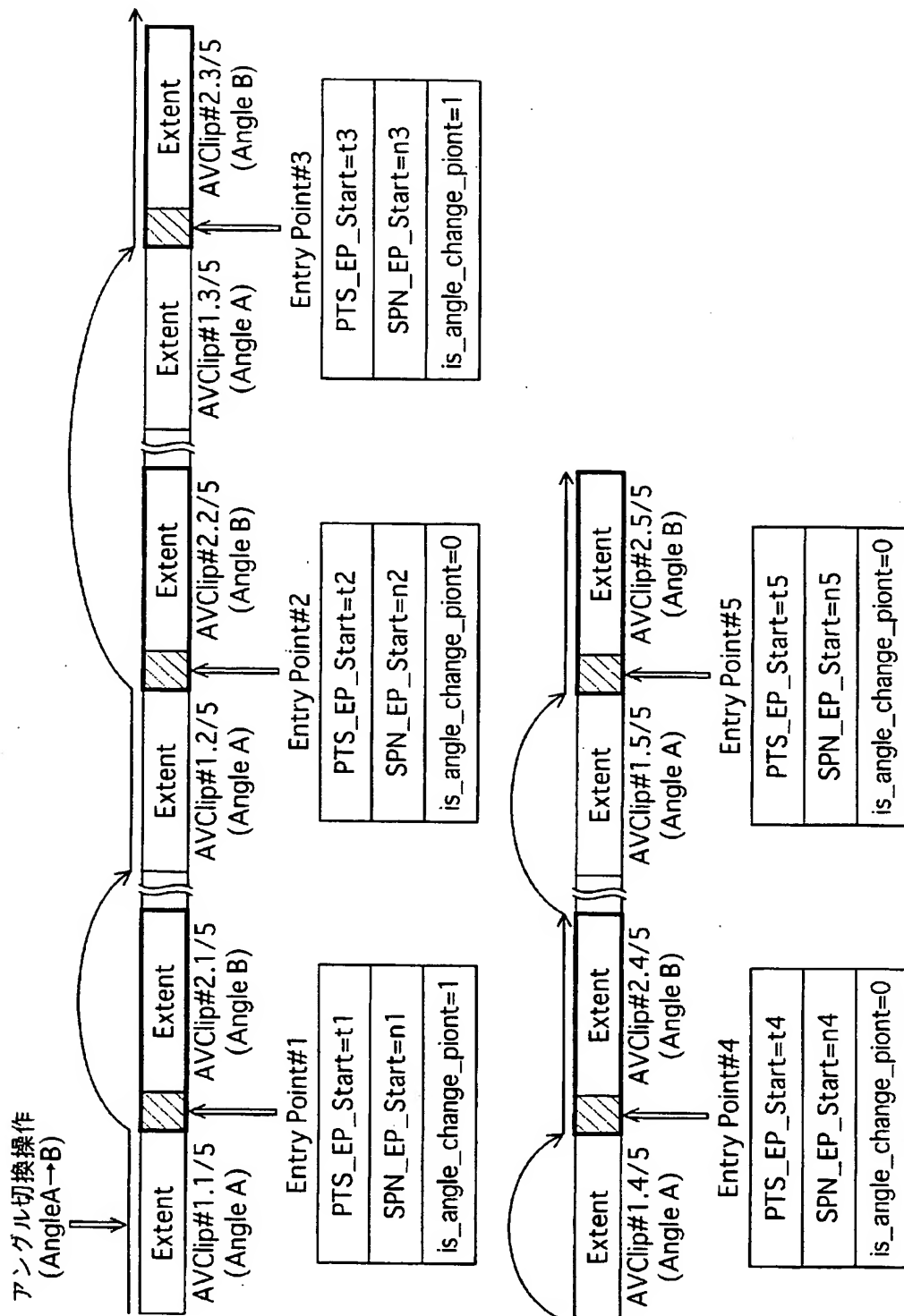


[図34]

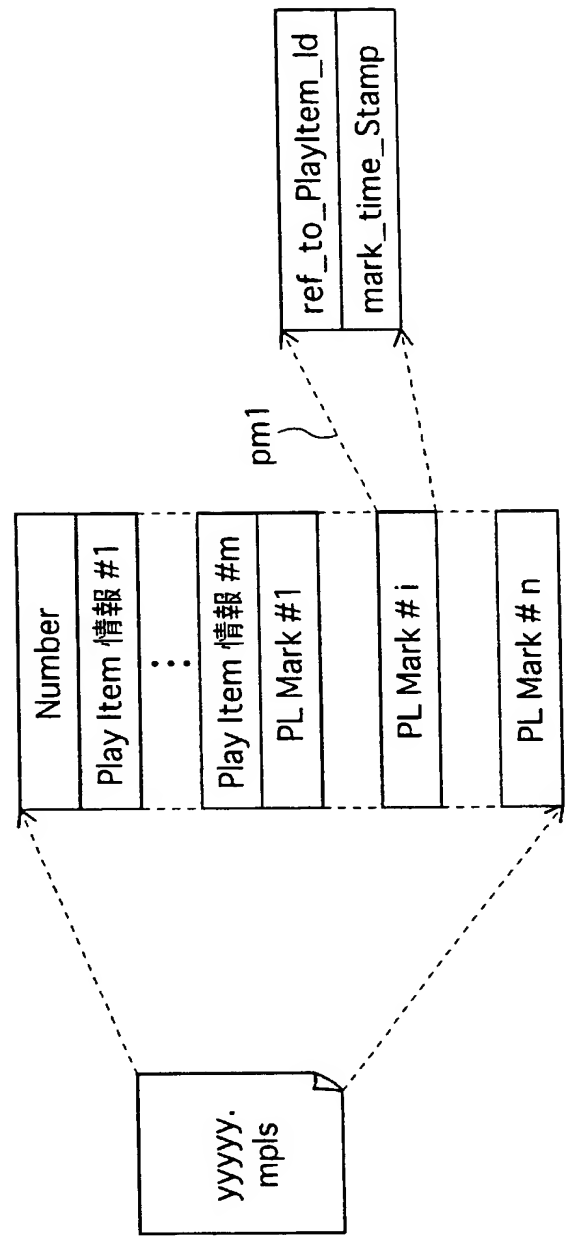




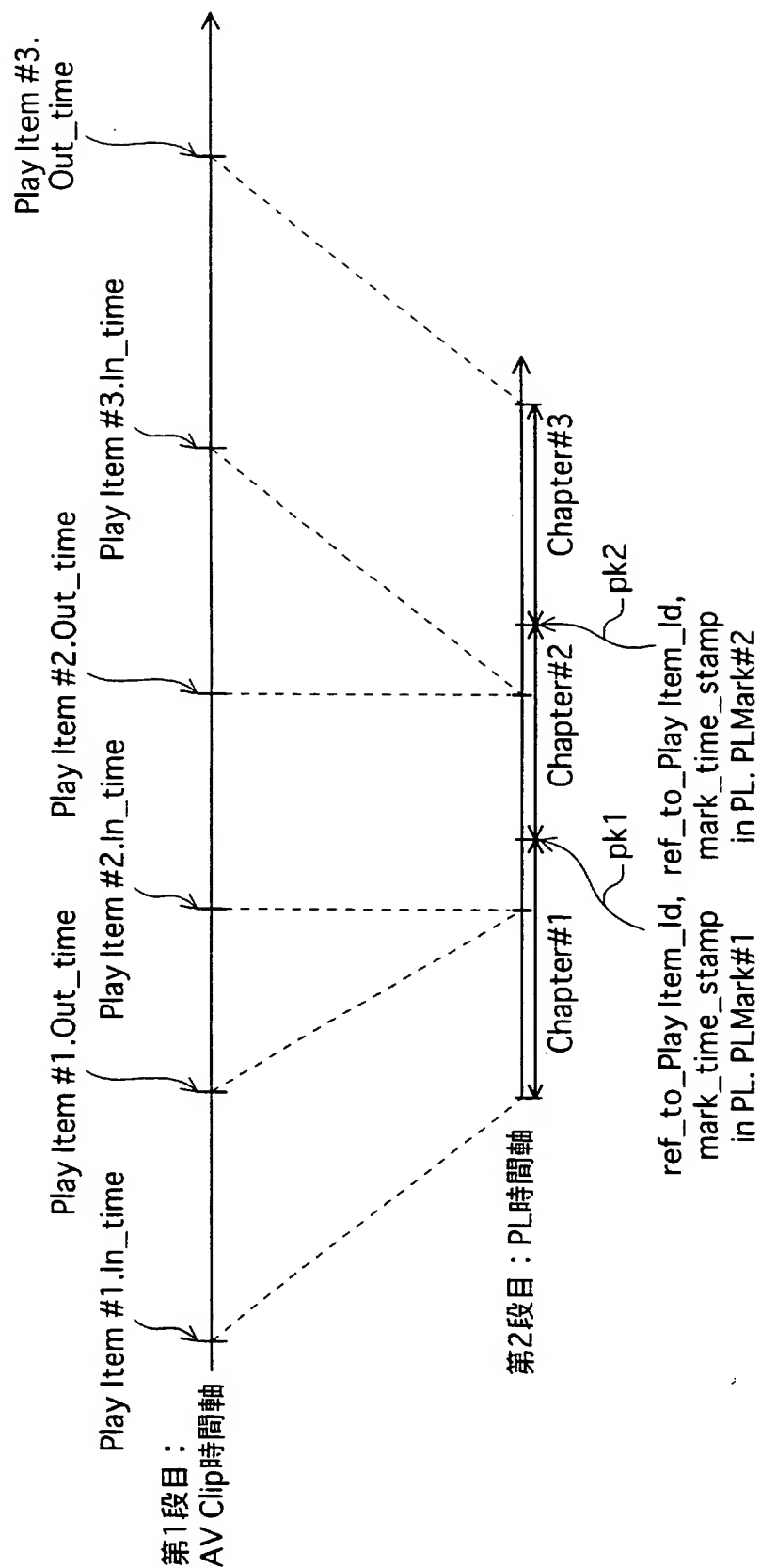
[図35]



[図36]



[図37]

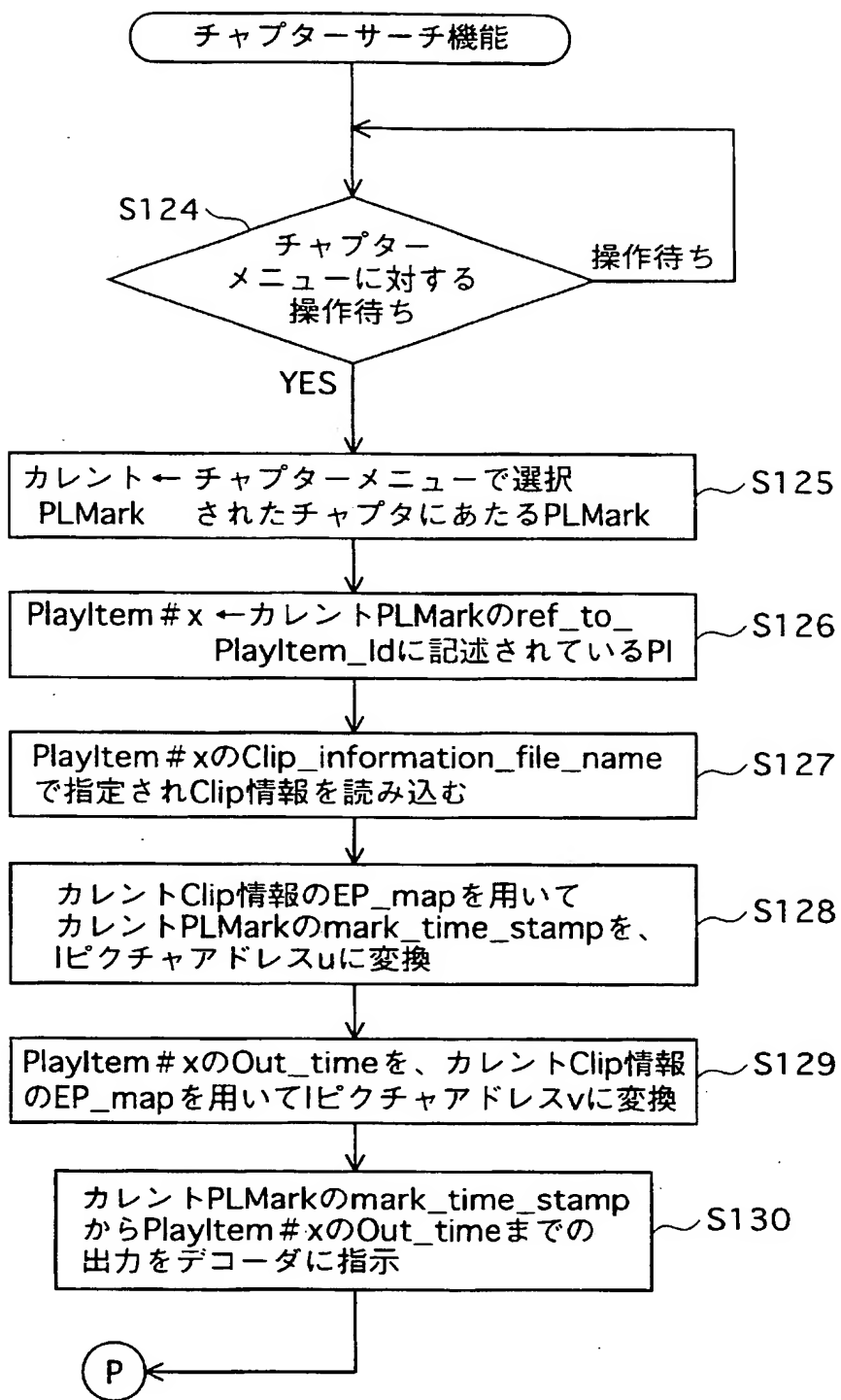




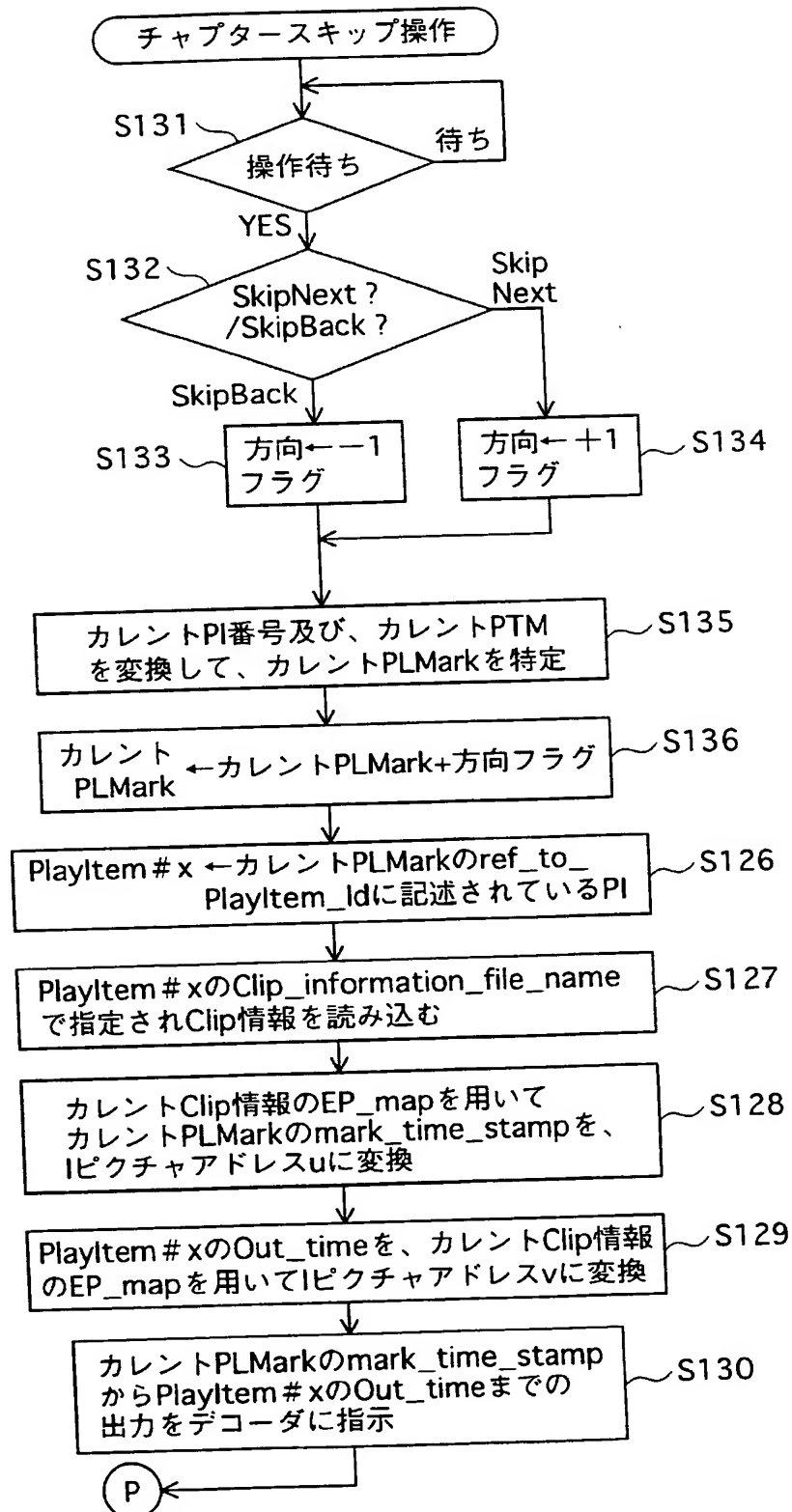




[図41]



[図42]





## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2005/007321

## A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl<sup>7</sup> H04N5/92, G11B20/10, 20/12, 27/00, H04N5/85, 7/24

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

## B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl<sup>7</sup> H04N5/92, G11B20/10, 20/12, 27/00, H04N5/85, 7/24

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2005
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2005	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2005

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

## C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2002-158971 A (Sony Corp.), 31 May, 2002 (31.05.02), Par. Nos. [0062], [0089] to [0090] & US 2002/164152 A1 & EP 1198132 A1 & WO 2001/082604 A1	1-10
Y	Torikeppusu Kikakubu, "Jisedai Dogazo Fugoka Hoshiki MPEG-4 AVC/H.264", Kabushiki Kaisha Torikeppusu, 12 March, 2004 (12.03.04), page 36	1-10
Y	JP 11-238367 A (Toshiba Corp.), 31 August, 1999 (31.08.99), Par. No. [0319]; Fig. 68 (Family: none)	2-4, 6-8

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.☐ See patent family annex.

\* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&amp;" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search  
07 July, 2005 (07.07.05)Date of mailing of the international search report  
26 July, 2005 (26.07.05)Name and mailing address of the ISA/  
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2005/007321

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 11-4444 A (Sony Corp.), 06 January, 1999 (06.01.99), Par. No. [0004] (Family: none)	2-4, 6-8

## A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl.<sup>7</sup> H04N5/92, G11B20/10, 20/12, 27/00, H04N5/85, 7/24

## B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl.<sup>7</sup> H04N5/92, G11B20/10, 20/12, 27/00, H04N5/85, 7/24

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2005年
日本国実用新案登録公報	1996-2005年
日本国登録実用新案公報	1994-2005年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

## C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	JP 2002-158971 A (ソニー株式会社) 2002.05.31 段落【0062】，【0089】 - 【0090】 & US 2002/164152 A1 & EP 1198132 A1 & WO 2001/082604 A1	1-10
Y	トリケップス企画部，次世代動画像符号化方式 MPEG-4 AVC/H.264， 株式会社トリケップス，2004.03.12，P.36	1-10

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

## \* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの  
「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの  
「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)  
「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献  
「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&amp;」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

07.07.2005

国際調査報告の発送日

26.7.2005

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

5C

9850

豊島 洋介

電話番号: 03-3581-1101 内線 3541

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	JP 11-238367 A (株式会社東芝) 1999. 08. 31 段落【0319】、第 68 図 (ファミリーなし)	2-4, 6-8
Y	JP 11-4444 A (ソニー株式会社) 1999. 01. 06 段落【0004】 (ファミリーなし)	2-4, 6-8